国立国語研究所学術情報リポジトリ

Zenkoku Hougendanwa Database [Japanese Dialect Database] : Volume 7 Gunma and Niigata

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Institute for Japanese Language メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002247

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第７巻　群馬・新潟

国立国語研究所資料集　13-7

国立国語研究所
2003

国書刊行会

刊行のことば

昭和52年度から昭和60年度にかけて，「各地方言収集緊急調査」という全国規模での方言談話の収録事業が，文化庁によって実施されました。調査は，各都道府県教育委員会と連携のうえ，各地の方言研究者が全面的に協力して行われました。国立国語研究所は，文化庁の要請により，この調査の計画段階から，指導・助言などにかかわっていました。その後，時を経て，この調査によって収録された膨大な録音テープと文字化原稿は，文化庁から国立国語研究所に移管されました。

これらの資料は，方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに，急速に失われつつある各地の伝統的方言を，文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものです。そこで，国立国語研究所では，受け継いだ資料を有効に利用するために，方言談話の大規模なデータベースを作成し，公開するという計画を開始しました。平成８～12年度には「方言録音文字化資料に関する研究」で，平成13年度からは「日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成」の一環として，全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んできました。また，データベース化にあたっては，平成９年度から科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。従来にはあまりなかった，音声と文字化の電子化データを備えていますので，研究や教育に活用いただけることと思います。なお，本資料集の作成については，情報資料部門第一領域の井上文子が担当しました。

「各地方言収集緊急調査」の録音・文字化にあたっては，全国の研究者の方々が献身的に御尽力くださいました。話者として，多くのみなさまから御協力を得ました。また，各都道府県教育委員会の関係者，および，有志の御助力がありました。刊行にあたって，記して深く感謝の意を表します。

平成15年３月

国立国語研究所長　甲斐　睦朗

利用にあたって

1．内容

この書籍（冊子，CD-ROM，CD）には，以下のものを収録しています。

	冊子	CD-ROM	CD
刊行のことば	○	○	
利用にあたって	○	○	
目次	○	○	
群馬県前橋市1983			
地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
【養蚕のこと】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf＋方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	
新潟県糸魚川市1980			
地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	

【石運び，嫁入りの頃，年貢の話，冬の雨具，浜の様子，大雪の話】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について	○		
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	○		
「各地方言収集緊急調査」地点地図	○		
各地方言収集緊急調査補助全体計画	○		
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	○		
各地方言収集緊急調査実施要領	○		
各地方言収集緊急調査の実施について	○		
調査実施上の留意事項について	○		
「全国方言談話データベース」について	○		

Adobe Acrobat Reader		○	

音声データ仕様：サンプリング周波数22.050kHz，量子化ビット数16bit，
waveファイル，ステレオ

CD-ROMは，CDプレイヤーで再生しないでください。CDプレイヤーが壊れることがあります。

本データベース編集にあたっては，個人のプライバシー等に配慮しました。

談話データの中には，現在では，その使用が好ましくないとされるような表現が含まれている場合もあり得ますが，学術的・歴史的資料の保存という観点から，そのまま収録しました。この点にご配慮のうえ，お使いください。

2．著作権

この冊子，CD-ROM，CD に収録されているデータの著作権は，国立国語研究所にあります。

3．利用条件

利用にあたっては，以下の利用条件をすべて守ってください。

（1）国立国語研究所の著作権を侵害するような行為はしないでください。

（2）この冊子，CD-ROM，CD に収録されているデータは，どのような目的においても，また，どのような媒体（紙，電子メディア，インターネットを含む）によっても，他人に再配布しないでください。

（3）この冊子，CD-ROM，CD に収録されているデータは，非営利の教育・研究目的に限り，自由に利用できます。ただし，上記（2）は守ってください。

（4）この冊子，CD-ROM，CD に収録されているデータを利用した成果物を公表する場合は，
「国立国語研究所が作成した『全国方言談話データベース』を利用した。」などのように，明記してください。
あわせて，成果物を国立国語研究所にご寄贈いただければさいわいです。

（5）以上の利用条件に合致しない場合，あるいは，利用について不明な点がある場合は，国立国語研究所に問い合わせてください。

連絡先：〒115-8620
東京都北区西が丘3-9-14
国立国語研究所 情報資料部門
「全国方言談話データベース」係
FAX：03-3906-3530

4．付記

データの電子化，CD-ROM，CD の作成については，平成9 (1997)～14(2002)年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。

国立国語研究所資料集 13-7

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第7巻 群馬・新潟

目次

刊行のことば …… 3
利用にあたって …… 5

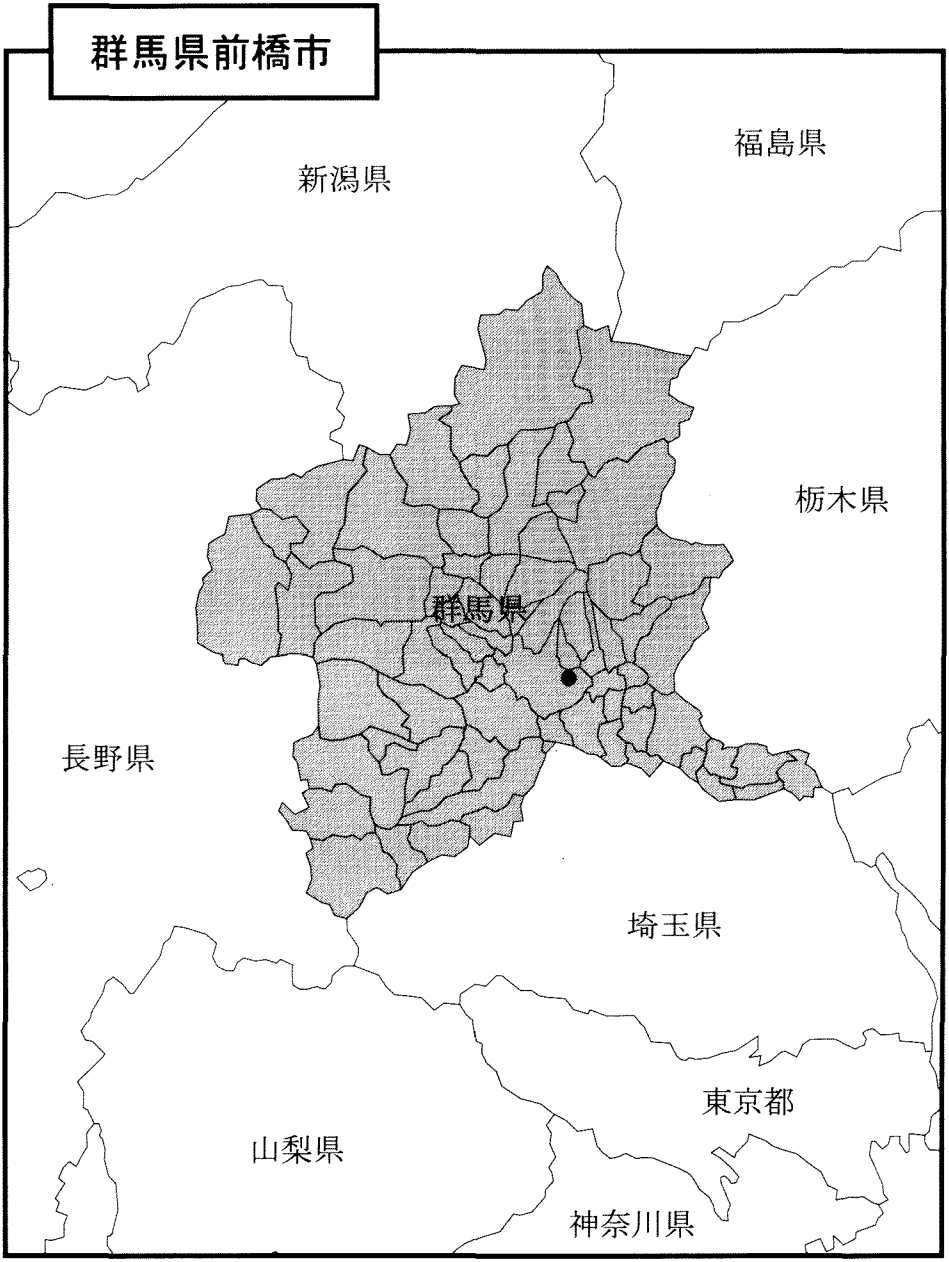
Ⅰ．群馬県前橋市1983 …… 11
地図 …… 12
話者・担当者 …… 13
解説 …… 14
凡例 …… 21
談話 …… 26
【養蚕のこと】 …… 27
注記 …… 136

Ⅱ．新潟県糸魚川市1980 …… 143
地図 …… 144
話者・担当者 …… 145
解説 …… 146
凡例 …… 151
談話 …… 156
【石運び，嫁入りの頃，年貢の話，冬の雨具，浜の様子，大雪の話】 …… 157
注記 …… 256

作成・公開の経緯 …… 263
「各地方言収集緊急調査」について …… 265
「各地方言収集緊急調査」地点一覧 …… 269

「各地方言収集緊急調査」地点地図……274
各地方言収集緊急調査補助全体計画……275
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項……276
各地方言収集緊急調査実施要領……277
各地方言収集緊急調査の実施について……280
調査実施上の留意事項について……282
「全国方言談話データベース」について……288

Ⅰ．群馬県前橋市
1983


群馬県前橋市
新潟県
福島県
栃木県
群馬県
長野県
埼玉県
東京都
山梨県
神奈川県

群馬県前橋市1983話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	有間 とく
	大沢 忠男
	町田 一雄
	吉田 たき
収録担当者	中林 妙子
文字化担当者	中林 妙子
共通語訳担当者	中林 妙子
解説担当者	中林 妙子

（敬称略　項目別50音順）

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	新井 小枝子
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

群馬県前橋市1983解説

収録地点名　　群馬県前橋市富田町(とみたまち)字下富田

収録地点の概観

位置

前橋市は，群馬県の南東部，関東平野の北西，赤城山の麓に位置する。富田町は，国鉄前橋駅から東へ約６km。

交通

国鉄前橋駅からバスで約25分，自家用車で20分前後。国鉄・私鉄ともに，鉄道の駅は近くになく，バスも朝夕の通勤・通学時を除くと，１時間半おきに通る程度なので，交通の中心は，自家用車である。

地勢

前橋市は，南東を除く三方を三国山脈などの山々に囲まれているため，内陸性気候である。夏は蒸し暑くて雷が多く，冬は「からっ風」の名でも知られるように乾燥した北風がしばしば吹く。

富田町は，前橋市の市街地と比べると，やや勾配が急になっている。

行政区画

富田町は，1889(明治22)年の市町村制実施の時点においては，勢多郡荒砥村であった。1955(昭和30)年４月，勢多郡木瀬村の６大字が前橋市に編入されると，1957(昭和32)年，残りの木瀬村の地区とともに城南村となる。その後，1967(昭和42)年５月に前橋市に合併され，現在に至っている。

前橋市は，群馬県の県庁所在地であり，文化的にも中心となる地域である。

戸数・人口

1984(昭和59)年２月末日現在，前橋市の世帯数85,900戸，人口273,308人。富田町の世帯数348戸，人口1,538人。前橋市の人口は，増加の傾向にある。

産業

養蚕，米作，酪農が盛んである。特に，養蚕は，近代以降，全県にわたって盛んに行われ，全国でもっとも繭の生産量が多い県であった。それに伴って絹織物の生産地としても発展した。しかし，近年では，ビニールハウスによる野

菜作りや，兼業農家が増加し，養蚕も減少の傾向にある。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

群馬県の方言は，南東部の館林市や邑楽郡などの一部の地域を除き，全県が東部方言の中の関東方言に属している。全県が比較的違いの少ない地域である。

東京式アクセントの群馬方言と，無アクセントの栃木方言とは，ほぼ県境で分かれている。また，北から西にかけて，ほぼ県境で，中部方言地域と区分される。

音韻

（1）「イ」と「エ」が交替することがある。「イ」は語頭の場合に，「エ」は母音「ア」・「ウ」に下接する場合に，交替しやすい。

エンゲン（いんげん）
エンキョ（隠居）
メセル（見せる）
イライ（偉い）
ウイ（上）
ナイ（苗）
ハイ（蝿）
ナマイ（名前）
カイル（帰る）
フイル（増える）

（2）「ウ」と「オ」が交替することがある。

モコ（婿）
ノノ（布）
アスブ（遊ぶ）
ウブー（負ぶう）
フルシキ（風呂敷）

（3）「ア」が「エ」と発音されることが稀にある。

ヘガス（剥がす）

（4）「ユ」と「イ」が交替することがある。

イビ（指）

マイ（繭）

オツイ（おつゆ）

オカイ（お粥）

オユワイ（お祝い）

（5）半母音「ワ」（wa）の［w］は，母音「ア」の後では脱落しやすい。

カーラ（川原・瓦）

ターラ（俵）

マータ（真綿）

（6）連母音が融合する。

アイ→エー　日常使われる語であれば，1形態素内では，原則として，すべて融合する。

ヘー（灰）

ヘール（入る）

メー（繭＝マイ）

オケー（お粥＝オカイ）

アウ→アー　カー（買う）

ハー（這う）

アエ→エー　ネー（苗）

ヘー（蝿）

カンゲール（考える）

コセール（こさえる［＝拵える］）

イエ→エー　下一段活用の動詞に多く見られる。

ケール（消える）

メール（見える）

ウイ→イー　3拍以上の形容詞に多く見られる。

フリー（古い）

カリー（軽い）

サミー（寒い）

ヒキー（低い）

オイ→エー　3拍以上の形容詞に多く見られる。

ヒレー（広い）

フテー（太い）

ホセー（細い）

ツエー（強い）

オエ→エー　4拍以上の下一段活用の動詞に多く見られる。

キケール（聞こえる）

オベール（覚える）

ヤイ→エー　ハエー（早い）

ワイ→ウェー→エー　ヨエー（弱い）

（7）カ行子音が濁音化することがある。

イグ（行く）

ガイロ（蛙）

グーロ（蛙）

（8）ガ行子音は，語頭では破裂音の［g］あるいは有声摩擦音の［ɣ］で，語中では［ɣ］であり，鼻濁音の［ŋ］は聞かれない。

（9）「サ」を「シャ」と発音することが，高年齢層では，稀に聞かれる。

シャガン（左官）

シャジ（匙）

(10)「サ」・「シ」・「ス」は，促音の後で「ツァ」・「チ」・「ツ」となることがある。

マッツァオ（真っ青）

マッチロ（真っ白）

マッツグ（真っ直）

(11)「シュ」・「ジュ」は「シ」・「ジ」となることがある。

オトコシ（男衆）

シジツ（手術）

シジー（始終）

(12) ザ行子音は，語頭では破擦音の［dz］・［dʒ］であるが，語中では摩擦音の［z］・［ʒ］になりやすい。

(13)「シ」と「ヒ」が混同することがある。

ヒチヤ（質屋）

キョーヒツ（教室）

シトリ（ひとり）

(14) マ行音がバ行音になることがある。

ケブリ（煙）

ケブ（煙）

ヒボ（紐）

(15) 助詞の「は」・「を」が撥音に下接する時，高年齢層では，連声音となることがある。

ヨメサンナ（嫁さんは）

ミカンノ　クー（みかんを食う）

(16) アクセントは，群馬県の東南部の一部を除いて，全県東京式アクセントである。富田町も東京式アクセントであるが，３音節名詞の一部，たとえば，「めがね」・「枕」・「朝日」などが中高型である点など，東京方言のアクセントと比べて，やや古い形をとどめている。

文法

(1) 推量・意志の助動詞は，高年齢層では，「べー」が用いられる。「べー」は，動詞では終止形や連用形に下接する。

カ行変格活用　クベー（来るだろう・来よう）

クルベー（来るだろう・来よう）

サ行変格活用　スベー（するだろう・しよう）

シベー（するだろう・しよう）

スルベー（するだろう・しよう）

また，「べー」は，形容詞のカリ活用の連体形に接続する。

アカカンベー（赤かろう）

オモシロカンベー（おもしろかろう）

(2) 高年齢層では，終止形接続で「ダンベー」が用いられる。

イクダンベー（行くだろう）

(3) 過去回想を表すのに，稀に「タッタ」が用いられる。

トレタッタ（採れたものだった）

(4) 格助詞「ガ」は，主格だけでなく，所有格も表す。

オラガマゴ（俺の孫）

～サンガトコ（～さんのところ）

(5)「ね」・「ねえ」にあたる間投助詞として，「ノ」・「ノー」がある。「ノ」・「ノー」はやや丁寧な言い方であるので，ふつう同等以上の相手に対して使う。同等以下の相手に対する，ぞんざいな発話では，「ナー」が使われる。

(6) 東京方言の「～じゃない」にあたる表現は，「ガネ」・「ガノ」・「ガナ」である。

ユッタガネ（言ったじゃない）

(7) 断定の助動詞「だ」の仮定形は，「ダラ」である。

チカラノ　ネー　ヒトダラ（力のない人なら）

(8) 限定・程度などを表す助詞には，「ばかり」のほかに「ベー」がある。

アスンデベー　イル（遊んでばかりいる）

(9) 動詞の語幹末尾のラ行音は，ナ行音・バ行音の前では，撥音化する傾向がある。

ワカンネー（わからない）

スンナ（するな）

アンベー（あるだろう）

(10) カ行四段活用の「歩く」には，イ音便と促音便がある。

アルイテ（歩いて）

アルイタ（歩いた）

アルッテ（歩いて）

アルッタ（歩いた）

(11) カ行変格活用の「来る」は，一段化の傾向がみられる。

キナイ（来ない）

なお，「来る」の命令形「来い」は，「コー」である。

(12) 動詞につく接頭辞が多い。

オッパジマル（始まる）
オッカク（壊す）
ブッカク（壊す）
ブッタタク（叩く）
フットブ（飛ぶ）
スットビオキル（飛び起きる）
ツッタツ（立つ）
ツンノメル（のめる）
クッツク（付く）
ヒッツク（付く）
ヒッパタク（叩く）
ヒンムク（剥く）

（以上の解説は，基本的に，「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿，および，『群馬の方言』（群馬県教育委員会，1987年）によるものである。）

群馬県前橋市1983凡例

談話資料は，方言談話音声，方言談話音声の文字化，方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには，ページ単位で切った方言談話音声を，CDには，方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し，方言談話の共通語訳は，漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは，対照ができるように，上下２段を１組として示した。上段が文字化，下段がその共通語訳である。

文字化については，表音的カタカナ表記を用いている。つまり，長音は「ー」で示し，助詞「は」は「ワ」，助詞「を」は「オ」，助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ゜」「キ゜」「ク゜」「ケ゜」「コ゜」はガ行鼻濁音を表す。

また，分かち書き，句読点などは，便宜的なもので，厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における，方言談話音声の文字化の方法は，後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし，今回，「全国方言談話データベース」として公開するにあたり，文字化・共通語訳を整備する際には，当時のマニュアルにはとらわれず，読みやすさ，意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また，この文字化は，時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって，発話の重なりや，複線的な会話の進行の構造が，文字化からは読み取れない。データを使用する際には，文字化・共通語訳を見るだけではなく，実際に，音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している，話者が交替するまでの連続した発言を１発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号　〈半角〉

発話の通し番号を，各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

話者記号　　〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A，B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。（句点）　　〈全角〉

ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス　　ソーデス

そうです。　そうです。

、（読点）　　〈全角〉

基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，文字化と対応しなくなっても，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

？　　〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

（　）　　〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり，口をはさんだりした個所。

（A　……）のように、開き括弧の次にあるアルファベットは，発言している話者を示す。（　）の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお，（　）内のあいづちと，独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：（A　アー　ソーデスカ）

｛　｝　　〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：｛笑｝

｛咳｝

｛手を叩く音｝

×××　　〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム　ム　ムツカシー

×　×　難しい

＊＊＊　　〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ＊

お茶漬けの＊

／／／　　〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ　モジナンデスナ、

／／／／／「文字」なんですね。

[ ]　　〈全角〉

方言音声には出てこないが，共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン　　ノセテ

　　みかん［を］　乗せて

＝　　〈全角〉

［ ］内の＝は，意味の説明や，意訳であることを示す。

例：イマ　ユー

　　今　　いう［＝今話題にあがった］

｜　｜　　〈全角〉

注意書きなど。

例：｜Aに対して｜

〔 〕　　〈全角〉

注記。方言形の意味・用法，特徴的音声などについて説明し，文字化・共通語訳の後にまとめてある。〔 〕内の半角数字は，注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ〔1〕

音声

CD-ROMには，冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに，方言音声をリンクさせていて，各ページにある 再生 の部分をクリックすると，そのページの音声を聞くことができる。

CDには，談話全体の音声を収録している。以下にあげるように，適当な個所で，トラックに区切っている。

CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは，方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「群馬01-1」はCDトラック番号が01で，その1ページ目ということである。「群馬01-1」「群馬01-2」……「群馬01-7/02-1」……「群馬20-4」のように表示される。

また，文字化・共通語訳部分には，CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し，その両側の数字はトラック番号である。

↑01，01↑02，……19↑20，20↑ のように表示される。

第７巻のCD（76分22秒）には，東京都台東区の談話，【養蚕のこと】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
01	p.27・ℓ.1	p.33・ℓ.13	0:02:04
02	p.33・ℓ.13	p.38・ℓ.17	0:01:58
03	p.38・ℓ.17	p.44・ℓ.3	0:02:09
04	p.44・ℓ.5	p.48・ℓ.19	0:01:59
05	p.49・ℓ.1	p.53・ℓ.19	0:01:57
06	p.53・ℓ.19	p.60・ℓ.13	0:02:03
07	p.60・ℓ.15	p.68・ℓ.11	0:02:02
08	p.68・ℓ.13	p.73・ℓ.11	0:02:04
09	p.73・ℓ.13	p.79・ℓ.19	0:01:59
10	p.80・ℓ.1	p.85・ℓ.3	0:02:01
11	p.85・ℓ.5	p.91・ℓ.13	0:02:01
12	p.91・ℓ.13	p.97・ℓ.5	0:01:59
13	p.97・ℓ.7	p.103・ℓ.13	0:02:03
14	p.103・ℓ.15	p.110・ℓ.11	0:02:02
15	p.110・ℓ.11	p.115・ℓ.19	0:01:59
16	p.116・ℓ.1	p.120・ℓ.1	0:01:59
17	p.120・ℓ.1	p.123・ℓ.19	0:01:58
18	p.123・ℓ.19	p.127・ℓ.17	0:01:59
19	p.127・ℓ.19	p.132・ℓ.19	0:02:00
20	p.132・ℓ.19	p.135・ℓ.17	0:01:10
計			0:39:26

群馬県前橋市1983談話

収録地点　　群馬県前橋市富田町（とみたまち）字下富田

収録日時　　1983(昭和58)年7月25日

収録場所　　群馬県前橋市富田町　森村伊勢雄氏宅

話題　　養蚕のこと

話者

A	女	1908(明治41)年生	(収録時75歳)	農業
B	女	1901(明治34)年生	(収録時82歳)	農業
C	男	1902(明治35)年生	(収録時81歳)	農業
D	男	1904(明治37)年生	(収録時79歳)	農業

調査員

女　(収録談話中に発話なし)

収録時間（CD）　39分26秒

【養蚕のこと】

話し手

A	女	明治41年生	(収録時75歳)	農業
B	女	明治34年生	(収録時82歳)	農業
C	男	明治35年生	(収録時81歳)	農業
D	男	明治37年生	(収録時79歳)	農業

1A：ハー　ウ　ウチナンカーネ　　アノ　アガ　ナツゴ〔1〕　ッツーナ
　　もう　×　[私の] 家などはね　あの　××　夏蚕　　というのは
　　↑01
　　イマ　アガッタ〔2〕　カイコア　アンマリー　セーセキガ
　　今　上簇した　蚕は　あまり　成績が

　　オモーヨージャ　ナカッタンネ。
　　思うようでは　なかったのね。

2B：ハー　ソーデスカ。
　　はあ　そうですか。

3A：シーク　シテル　ウチャネー　ホーントニ　ヨカッタンダケド
　　飼育[を]　してる　うちはね　ほんとうに　よかったんだけど

　　アゲタラー　ヨソーガイ。　{笑}　(C　ンー)
　　上簇したら　予想外。　{笑}　(C　んー)

　　ン　チガッタミタイ。
　　ん、　違ったみたい。

4D：ソンデモ　コレガー　アレダヨ　　コネダ
　　それでも　これが　　あれだよ。　この間

　　マエダシ〔3〕ガ　オワッタワケデショー。　（A　エー）
　　繭出しが　　終わったわけでしょう。　（A　ええ）

　　ヘーギン　アノ　カイ　カッテル　　トキア　ヨカッタケンドー
　　平均　　あの　××　飼っている　時は　　よかったけれど

　　（A　エー）　アノー　アゲテッカラノー。　（A　ソー）
　　（A　ええ）　あの　　上簇してからねえ。　（A　そう）

　　（C　へー）　ヨーキダンベ　ツッタノ　　ソノー。　（C　ハー）
　　（C　へえ）　陽気だろう　　って言ったね　その。　（C　はあ）

5A：ア　アゲテッカラネー。　マ　　カミグミワ
　　×　上簇してからねえ。　まあ　上組は

　　ダイタイー　（D　ンー）　ンマクネーンミテーネ。
　　だいたい　　（D　んー）　うまくないみたいね。

6D：エー。　ソイダカラネー　コモリ〔4〕ガ　ンート　オーカッタカラー
　　ええ。　それだからね　　篭もりが　　とても　多かったから

　　（B　アー　ソーデスカ）　ワリアイニ
　　（B　ああ　そうですか）　わりあいに

　　シューケンリョーガ　（A　ソーデ）　オモッタホド　イガネン。
　　収繭量が　　（A　それで）　思ったほど　　いかないの。

7A：カッテル　ウッチャー　ホントニ　カイコア　ヨカッタンダヨネ。
　　飼っている　うちは　ほんとうに　蚕は　よかったのだよね。

8D：ソッ　カッテル　ウチア　チットモ　（B　エッ　ヨカッタイネー）
　　そう　飼っている　うちは　少しも　（B　ええ　よかったよねぇ）

　　ワリンガ　ナカッタカンネー。
　　悪いのが　なかったからねえ。

9A：ソーデ　ジョーゾクーシタラ　オチル〔5〕　ッテ　オチル　ッテネ。
　　それで　上簇したら　落ちる　って　落ちる　ってね。

10C：ンー。
　　んー。

11D：ンー　ンー。
　　んー　んー。

12B：ソー。
　　そう。

13A：ダカー　シューケンリョーガ　ヘッチャーガンネー。　ネー。
　　だから　収繭量が　減ってしまうじゃないねえ。　ねえ。

14C：アー。
　　ああ。

15D：ソーダ。
　　そうだ。

16C：オッタンダヨノ。
　　落ちたのだよね。

17A：エー。
　　ええ。

18D：ナンデモー　カミノ　サ　（A　ンッ）
　　何でも　　上の　　×　（A　ん）

　　X1サンモ　コネダー　キテ　ユッタケンド　　（A　ン）
　　X1さんも　この間　　来て　言ってたけれど　（A　ん）

　　ンー　アレダイネー　オモッタヨリ　トレナカッタ　ッテ
　　んー　あれだよねえ　思ったより　　採れなかった　って

　　イッテタカン。　（A　アー）　ミンナ　オナジナンダイノ。
　　言ってたから。　（A　ああ）　みんな　同じなんだよね。

19A：ヨソーガイ　　トレナカッタンネ。
　　予想外［に］　採れなかったのね。

20C：ンー。
　　んー。

21D：アー、　ンー。　ダカラ　アノ、　ハジメア　ニッスーガ。
　　ああ、　んー。　だから　あの、　始めは　　日数が。

　　（A　ンー）　オンドガ　ヒククッテ　（A　ンー）
　　（A　んー）　温度が　　低くって　　（A　んー）

ニッスーオ　ウント　　クッ　タベタカラ　（A　ンー）　（B　エー）
日数を　　たくさん　××　食べたから　（A　んー）　（B　ええ）

ハー　（A　アー）　ドンナニ　イー　アイツダンベート　オモッタラ
もう　（A　ああ）　どんなに　よい　あれだろうと　　思ったら

ヨソーヨリ　イガンカッタ。
予想より　　いかなかった。

22A：アー　ヨソーイジョー　トレルト　オモッタンダイネ。
ああ　予想以上［に］　採れると　思ったのだよね。

（D　ン、　ソー　ソー）　ソデ　　ジョーゾク〔6〕シテミタラ
（D　ん、　そう　そう）　それで　上簇してみたら

ア　アンガイ　クズガ　　デルカラ　（D　ンー　ンー）
×　案外　　屑［繭］が　出るから　（D　んー　んー）

マイ　　カイタッテネ　（B　ン）　シマイノ　ホー
繭［を］　掻いたってね　（B　ん）　終いの　　ほう［は］

ホーントニ　ワルカッタンネ。　エー。
ほんとうに　悪かったのね。　　ええ。

23D：ワルカッタイノー。
悪かったよねえ。

24C：ウーン。
うーん。

25D：ミンナ　ドコンチモ　フンダカラ　クズモン〔7〕ガ　デタ。
　　みんな　どこの家も　そうだから　屑物が　出た。

26A：ゼンタイカネ。　（D　ンー）　クワガ　ワルカッタモンネ。
　　全体かね。　（D　んー）　桑が　悪かったものね。

27D：ホデー　ナツゴデ　アレダイノー。　（B　ンッ）
　　それで　夏蚕で　あれだよね。　（B　ん）

　　クワオ　オモッタヨリサ　タベラータカラサー　コンダ　バン＊＊＊
　　桑を　思ったよりね　食べられたからねえ　今度　／／＊＊＊

28C：ヤッパリネー　ソノー　（B　タベマシタネー）　オチル　ッツー
　　やっぱりねえ　その　（B　食べましたねえ）　落ちる　という

　　コトアネー、　（A　エッ）　アノー、　アレダイネ
　　ことはねえ、　（A　ええ）　あのう、　あれだよね。

　　ニッショーブソクガー　エーキョーシテンダナイカネー。
　　日照不足が　影響しているのではないかねえ。

　　（A　エーキョーシテルン）　ドーモ　ソーラシーヤ。
　　（A　影響しているの）　どうも　そうらしいや。

29A：クワダイネー　（C　ンー）　アノ　オチル　ッツーナネー。
　　桑だよね。　（C　んー）　あの　落ちる　というのはねえ。

30C：ンー。
　　んー。

31B：ンー　クワモ　ウスカッタ〔8〕シネー。
　　んー　桑も　　薄かったしねえ。

32C：ンー、　オンナンカネー、　マー　マ　ショーガッコー、
　　んー、　俺なんかね、　　まあ　ま　小学校、

　　コートーショーガッコー　ソツギョーシテ　スグカラ
　　高等小学校［を］　　卒業して　　すぐ［の時］から

　　アー　オカイコノ　ホー　　ヤラエテ、
　　ああ　お蚕の　　ほう［へ］　遣られて、

　　マー　ヤッテタンダケンドネー　　（A　エッ）
　　まあ　やっていたのだけれどねえ　（A　ええ）

　　ムカシワネー　ハキタテ〔9〕ナンタッテー、　アレダネ、
　　昔はねえ　　掃き立てなんていったって、　あれだね、

　　クワガ　オーキンデネ　アノ　メドキ〔10〕ガ
　　桑が　　大きいのでね　あの　メド木が
　　　　01↑02
「メド」〔11〕　ツッタッテネ　　（B　エー　ソーネー）
「メド」　　と言ったってね　（B　ええ　そうねえ）

　　エー　タカギガ　アッテ　ネ　ソノ　ソノ　メドガ
　　ええ　高木が　　あって　ね　その　その　メドが

　　ハエ　ハエタンサー。（A　アー）（B　エッ）
　　××　生えたのねえ。（A　ああ）（B　ええ）

ミナサンモ　ショーチダ　ト　オモーケド。
みなさんも　承知だ　　と　思うけど。

33A：ンー、　オーキーネー、　（C　ンー）　カカエルホド　オーキー
んー、　大きいねえ、　（C　んー）　抱えるほど　大きい

（C　ソー　ソー）　「メドギ」　ッツンガネ。
（C　そう　そう）　「メド木」　っていうのがね。

34C：ンー。　ソーユ　フンノ　ジダイカラネー　ノー
んー。　そういう　ふうな　時代からねえ　××

アノー　ソノ　トージワ　マー　アレダイネー。
あのう　その　当時は　まあ　あれだよねえ。

ダイタイ　ダイタイ、　ザイライシュ　サンシュ〔12〕モネ
だいたい　だいたい、　在来種の　蚕種もね

ザイライシュガ　オーカッタンスヨ。　（A　ハハー）
在来種が　多かったのですよ。　（A　ははあ）

ソノ　ザイライシュガネー　マ　イワユル　マー、
その　在来種がねえ　ま　いわゆる　まあ、

ア　アオジク〔13〕トカ　（A　エッ）　アカジク〔14〕トカネ。
×　青軸とか　（A　ええ）　赤軸とかね。

ソーユ　モン　オークッテネー、
そういう　もの［が］　多くてねえ、

ソーデ　ソ　ソノ　オマケニ、　ソノ　トージア　マー、
それで　×　その　おまけに、　その　当時は　まあ、

サンビョーノ　ビョーキノ、　ビリューシビョー〔15〕ダネ、
蚕病の　病気の、　微粒子病だね、

(A　アー)　ソレガ　ヒジョーニ　オーカッタンサー。
(A　ああ)　それが　非常に　多かったのねえ。

ソデ　サンシューノ　セーゾーノ　ホーモ　ビリューシアサ
そ［れ］で　蚕種の　製造の　ほうも　微粒子［病］はね

テッテーテキニ　ショードク　シナ　シトカナー、
徹底的に　消毒［を］　××　しとかな［いと］、

ヨボー　シナクチャナンナイ　ッツンデ　アノ　ホンデ
予防［を］　しなくてはならない　というので　あの　それで

イチガ　イチガー　アノ　ワクセー〔16〕ッツン　シッテルデショ。
一蛾　一蛾を　あの　枠生というの［を］　知っているでしょ。

(A　エー)　ア、　ワクセー、　(A　{咳})　ワクセーニネー、
(A　ええ)　あ、　枠生、　(A　{咳})　枠生にねえ、

タマゴ　ウマシテ　ワクン　ナカニ　タマゴ　ウマイテ
卵［を］　産ませて　枠の　中に　卵［を］　産ませて

イチガ　イチガ　ミンナ　ケンビキョーデ　ケンサ　シテネー、
一蛾　一蛾　みんな　顕微鏡で　検査　してねえ、

(A　エッ)　ソーデ、　ソノ　ビョーキノ　アル　モノワ
(A　ええ)　それで、　その　病気の　　ある　ものは

トッチャッテ、　　ソンデ　ホカノー　ダシタンダ。
取ってしまって、　それで　他のを　　出したのだ。

ソレデモネー　　ムカシア　ヨクネー、　ザマ〔17〕デ
それでもねえ、　昔は　　よくねえ、　背負い籠で

ショイダスホドネー　ビリューシビョーガ　デテネー。　(A　アー)
背負い出すほどねえ　微粒子病が　　出てねえ。　(A　ああ)

アー　オイ　ホントニ　　アン　トージアー、　アー　マー
ああ　××　ほんとうに　あの　当時は、　　ああ　まあ

アレダイネー、　アタルンガー　ドーカシテルグレーデ
あれだよねえ、　当たるのが　どうかしているくらいで

(A　ンー)　ホトンドガ　アノ　ンーマクナカッタンダイネ。
(A　んー)　ほとんどが　あの　うまくなかったのだよね。

35A：ヤッパシ、　(D　ンー)　アレカネ、　ビョーキガ
やっぱり、　(D　んー)　あれかね、　病気が

タン　アッタ　セーカネー。
××　あった　せいかねえ。

36C：ソー、　アー　ソー　ソノネー。
そう、　ああ　そう　そのね。

37A：ヨボーガ　デキナカッタッツー　コトダネ。
予防が　できなかったという　ことだね。

38C：ン、　ソノ　ビリューシ。
ん、　その　微粒子。

39B：＊＊＊　アー　ンートニ　ショードクガネ。
＊＊＊　ああ　ほんとに　消毒がね。

40C：ビリューシノ　ビリューノ　ヨボーガネ、
微粒子の　微粒の　予防がね、

テッテーテキニ　ヤッタカラネ。（B　エッ）
徹底的に　やったからね。（B　ええ）

サ　サンギョー〔18〕　ツーチ　トリシマリジャート　ユー
×　群馬県産業試験場　×××　取り締まりではと　いう

（B　ンー）テッテーテキニ　ヤッタカラネー。
（B　んー）徹底的に　やったからねえ。

ダカラ　ソラー　イマー　ホトンド　ビリューシビョー　ッツー
だから　それは　今は　ほとんど　微粒子病　っていう

ビョーキワ　ミア　ミカケネーヤネ。（B　エー）（A　ハー）
病気は　××　見かけないね。（B　ええ）（A　はあ）

アー。（B　ソーダヨネ）　ソレカラネー、
ああ。（B　そうだよね）　それからねえ、

ヨク　アノー、　ン、　バンシュー〔19〕ニ　オーカッタンダガ、
よく　あのう、　ん、　晩秋［蚕］に　　多かったんだが、

アノー、　ア、　コーカビョー〔20〕ネー。
あのう、　あ、　硬化病ねえ。

ハイ　（A　ンッ）　オシャリ〔21〕。　（A　エー）
はい、（A　ん）　白狂蚕。　（A　ええ）

イワイル　オシャリ。　（B　エー）
いわゆる「オシャリ」。（B　ええ）

アレデ　ヤライタ　トキモ　アルシネ。　ンー。
あれで　やられた　時も　あるしね。　んー。

41A：エー、　オシャリガ　（C　ンー）　ツイ　タイヘン
ええ、「オシャリ」が　（C　んー）　つい　たいへん

デタ　（C　ンー　ソー）　コトガ　アルモンネ。
出た　（C　うん　そう）　ことが　あるものね。

42C：ソデネー、　イロイロ　マー　ケンキューシテ
それでね、　いろいろ　まあ、　研究して

アラー　マー　ヤッパリー　アノ　ショードクデ　オサエラレーンダ
あれは　まあ　やっぱり　あの　消毒で　押さえられるんだ

02↑03

ト　ユー　（A　アー）　ケッカン　ナッテネー。
と　いう　（A　ああ）　結果に　なってねえ。

ソンデ　ショードク　オサ　オサエタンスヨー。
それで　消毒で　　××　押さえたのですよ。

ンダカラ　　イマワ　オーク　　アノネ、
それだから、　今は　　多く［は］　あのね、

ヤッパリ　デナイデショ。　（B　ソーデショーネ）　（C　アー）
やっぱり　出ないでしょ。　（B　そうでしょうね）　（C　ああ）

アッシア　マー　シバラクー　オカイコノ　ホー
私は　　まあ　しばらく　　お蚕の　　ほう［を］

ハナレテルンデ、　（B　アッ）　ワカラネーケド　（B　エッ）
離れているので、　（B　あ）　　わからないけど　（B　ええ）

ムカシアー　ソーユンデネ。
昔は　　そういうのでね。

43A：マー　イマー　スクナイヤネ。
まあ　今は　　少ないね。

44C：エー。　エー。
ええ。　ええ。

45B：ソノコロカラ　（A　アッ）　ホラ、　ニッシュコーバイ〔22〕ネ。
その頃から　（A　あ）　ほら、　日支交配ね。

（A　アッ）　シナカラ　ハイッテキテ。
（A　あ）　中国から　入ってきて。

46C：ソノ　ソー　ソー　ソノコロー　　ソ　ソデネー　　タイショーネー、
その　そう　そう　その頃［は］　×　それでねえ　大正ねえ、

｛B　咳払い｝　ン、　タイショーダ。　タイショーダー、
｛B　咳払い｝　ん、　大正だ。　　大正だ、

タイショーシチハチネンジブンニ　カラネー　エー
大正７、８年頃×　　からねえ　ええ

コーザ　コーハイ　ンン　ニホンシュト　シナシュオ
×××　交配　　うん　日本種と　　中国種を

コーハイスレバ　イー　ト。　（B　エー）
交配すれば　　よい　と。　（B　ええ）

ンデー、　コーハイシテ、　ニッシコーハイ　ツンガ　　デキタン。
それで、　交配して、　日支交配　　というのが　できたの。

（B　エー）　ンデ、　ソノ　トージワ　ミンナネ、
（B　ええ）　それで、　その　当時は　みんなね、

イッカセー〔23〕ッテネー、　イチネンノ　ホーットケバ、
一化性といってねえ、　１年×　放っておけば、

イッカイシカ　デナインガ　イッカセー。
１回しか　出ないのが　一化性。

ンデ　ニカセーツー　シンシュワネー　ホー　タネオ
［それ］で、　二化性という　品種はねえ　ほう　種を

サイセーシ〔24〕ニ　ホーットクト　ダイイッカイワ　デル。
催青紙に　　放っておくと　第１回は　　出る。

ハルン　ナルト　デルンスヨー。
春に　なると　出るんですよ。

デ　　テーオンサイセー〔25〕ダタメニー、
[それ]で　低温催青であるために、

ソレガ　ニカ〔26〕ン　ナッチャーンサ。　デ、
それが　二化[性]に　なってしまうんだ。[それ]で、

イッ　イッ　ニカセーニ　イッカキ〔27〕　ツンナ　　ンーット
××　××　二化性に　　／／／　　というのは　うんと

マイガ　ワリン。　ンダカー　ウー　ウチデサ、（A　エッ）
繭が　悪いの。　それだから　うー　家でね、　（A　ええ）

ナマダネ〔28〕ヤッタンノ　シッテルカ　　シンネーケド。
生種　　やったのを　知っているかも　しれないけれど。

47A：ンー　ンー　タネヤサン　シタンノネ。
　　んー　んー　種屋さん　したのをね。

48C：アノ　アノ　ナマダネガネー、　アノ
　　あの　あの　生種がねえ、　あの

テーオンサイセーデ　ヤルトネ　アノ　マー、
低温催青で　　やるとね　あの　まあ、

ニカセーワ　ニカイ　スルンデスヨ。　(A　ハー)
二化性は　　2回　　するのですよ。　(A　はあ)

イッカセーワ　ドーシテモ　イッ　イッペンシカ　デネン。
一化性は　　どうしても　××　1回しか　　出ないの。

ソレデー　アノー　アレダネ　イマワ
それで　　あの　　あれだね　今は

アー　マー、　ダイタイ　エ　イマヒ　デルヒ　デテル　ヒンシュア
ああ　まあ、　だいたい　×　／／／　／／／　出てる　品種は

ダイタイ　ニカセーデショ。　(A　ハー)
だいたい　二化性でしょ。　　(A　はあ)

ン。　ンデモ　　イッカセーッツンノアネ　ヤッパリ
ん。　それでも　一化性というのはね　　やっぱり

ア、　シュルイガ　オモクッテネー
あ、　種類が　　重くてねえ

マー　ア　センド〔29〕ガ　フテンダイネー。　(A　ンー)
まあ　あ　繊度が　　太いのだよねえ。　(A　んー)

マー、　センド　ッツッタッテ　　ワカイ　コア
まあ、　繊度　　って言ったって　若い　　子は

ワカンネカシンネ。　　(A　エー)
わからないか［も］しれない。　(A　ええ)

イトノ　フトサダネー。　（A　ンー）　（B　ン）
糸の　　太さだねえ。　　（A　んー）　（B　ん）

デネー　　イマワネー　モ　　ホトンド　ハジメア
[それ] でねえ　今はねえ　　もう　ほとんど　始めは

イチニカコーハイ　ッツンガ　　デテタンダケドネー。
一二化交配　　っていうのが　でてたんだけどねえ。

イマ　　ホトンド　ソユ　　コト　　ナクッテ、
今 [は]　ほとんど　そういう　こと [は]　なくて、

ニカセーナンデショ？
二化性なのでしょ？

49A：アー。
ああ。

50B：ンデ　　モトワネー　　ウチモ　　アノ
[それ] で　もと [＝昔] はねえ　[私の] 家も　あの

タネヤー　シタカラネー　シナノ　マユガ
種屋を　　したからねえ　中国の　繭が

コーユー　フーノ　カッコーノ　　（C　ソー）
こういう　ふうの　かっこう [＝形] の　（C　そう）

ニホンシュワ　コーユ　　フーノ　アレデ、
日本種は　　こういう　ふうの　あれで、

カケアーセ　シタンダヨネ。（C　ンッ）
かけあわせで　したのだよね。（C　んっ）

ソデー　ガワク〔30〕ダノカ　タイヘン　カッテネー。
それで　蛾枠なのか　たいへん［＝たくさん］　買ってねえ。

03↑04

ホッデー　シタケド　ソレ　メス　オスノ　カンベツー　シタリ、
それで　したけど　それ　雌［と］　雄の　鑑別［を］　したり、

ソーユ　コト　シテ　ミンナ
そういう　こと［を］　して　みんな

バンゴアワセナンダ　アッチモ　シタケドネ。
番号合わせなど　私も　したけれどね。

ソノ　コロ、　ソノ　マエワ　オーシュー　コノ　キーロイ　マユオ
その　頃、　その　前は　欧州　この　黄色い　繭を

ツクッタ　アレガ　アッタケド
作った　あれが　あったけれど

ソレ　シゼンニ　トレタッタネ。
それ［は］　自然に　採れたものだったね。

51C：ンー。　オーシュノネ　ヨーロッパン　シンシュガ　（B　ネー）
んー。　欧州のね　ヨーロッパの　品種が　（B　ねえ）

キテタンネー。（B　ネー。　エー）
来てたのねえ。（B　ねえ。　ええ）

ソノ　＊＊＊　ニチヨーコーハイッテネ　（B　ンッ）
その　＊＊＊　日欧交配ってね　（B　ん）

ニホント　オーシューノ　コーハイモ　コセータンダ。
日本と　欧州の　交配も　拵えたのだ。

（B　コーハイシタカラネ）　ンデ　イロイロ
（B　交配したからね）　それで　いろいろ

コーハイシトイテネ。　（B　ソノ　マエア　ザイライダカラネ）
交配しておいてね。　（B　その　前は　在来［種］だからね）

（A　エー）　（B　ンー）　シテミタケドネー　アノー、
（A　ええ）　（B　んー）　してみたけれどねえ　あのう、

マー　ケッキョク　ノコッタンガー　アノ
まあ　結局　残ったのが　あの

イマノ　ニカ　ニカセーガ　ノコッタンデスヨ。
今の　××　二化性が　残ったのですよ。

アレ　ミンナ　イッカセーデー　アノ　ニホンシュト。
あれ　みんな　一化性で　あの　日本種と。

52A：ンッ。　アノ　キーロイ　マユガ。
ん。　あの　黄色い　繭が。

53C：ン、　キーロイ　マユガネ。
ん、　黄色い　繭がね。

54B：キーロイ　マユガネ。
　　黄色い　　繭がね。

55A：アノ　マイノ　ホーガ　（B　セドリニ　トレタ）
　　あの　繭の　　ほうが　（B　／／／／　採れた）

　　カイコガ　カイヨカッタンダイネー。
　　蚕が　　飼いやすかったんだよねえ。

56C：ンー　ダケドネー、　イト　　フテーンダイネー。
　　んー　だけどねえ、　糸［が］　太いんだよねえ。

　　（B　イトガ　フトインダイネ）　ンー。
　　（B　糸が　　太いのだよね）　　んー。

57A：アー、　イトガネー。
　　ああ、　糸がねえ。

58B：ソレデ　ヨシタ　ワケダンダイネ。
　　それで　やめた　わけなんだよね。

59C：イトガネ　アー。ヤカラ　ユッテモ　ワカンネーカシンネケド
　　糸がねえ　ああ。だから　言っても　わからないかもしれないけれど。

　　サンデニール〔31〕グレネ　アッテネー　（B　ンッ）
　　3デニールくらいね　　あってねえ　（B　ん）

　　イマネ、　ニーテンゴグレ　ゴ　ゴグレノモンダ。
　　今ね、　2.5くらい　　×　［2.］5くらいのものだ。

アンダ　ゴデニールカグライナンダネ。
なんだ　[2.] 5デニールかくらいなのだね。

ンダカラ　ムカシー　イトー　ヒク　バーイニネー、　アノー　ヨク
それだから　昔は　糸を　引く　場合にねえ、　あのう　よく、

ジューシナカ〔32〕トカネ、　ニジューイチナカ　ツンガ
14中とかね、　21中　というのが

(B　ンッ)　アッタイネ。　アレワネー　ヤッパリ
(B　ん)　あったよね。　あれはねえ　やっぱり

サンデニールノ　アー　イッ　マユオ　ナナツ　ヒケバ　(B　ンッ)
3デニールの　ああ　××　繭を　七つ　引けば　(B　ん)

ニジューイチデニールン　ナルト　(B　ンッ)
21デニールに　なると　(B　ん)

ソエカラ　アーレ　アンダネ
それから　あれ　なんだね、

ヨッツ　ヒケバ　ジュ　ジューヨンデニールン　ナル　ト。
四つ　引けば　××　14デニールに　なる　と。

トコッガ　イマーワネ　イマワ　ヒチ、ハチデニールカ　ソコラノネ、
ところが、　今はね　今は　7、8デニールか　そこらのね、

チーセー　アー　アレナンダヨ。　ハチナカ　ツンカ。
小さい　ああ　あれなんだよ。　8中　というのか。

ンダカラ　　ホソイモンガ　リューコーシテルラシーンダネ。
[そう] だから　細いものが　流行しているらしいんだね。

60A：ソイ　イトノ　コトワ　ア　ワ　{笑}　ワカンナイカラ。　{笑}
その　糸の　ことは　×　×　{笑}　わからないから。　{笑}

61C：(B　{咳})　ンー。　ソデネー　マー　ア　ソノ　ケーキモネー、
(B　{咳})　んー。　それでねえ　まあ　あ　その　景気もねえ、

ウッ　ムカシアー　タイショー　シチハチネン　クネン　ジブン、
××　昔は　大正　7、8年　9年　頃、

マッ　イワイル　タイショージダイワ　ヒジョーニ　ヨクッテネー。
ま　いわゆる　大正時代は　ひじょうに　よくてねえ。

イヤーネー、　(A　ンッ)　マユケーキ　ッツンダ　イト
いやあねえ、　(A　ん)　繭景気　というのだ　××

イトゲーキ　ッツーヨーデ　(A　ンッ)　ヨア　ヨカッタンダワ。
糸景気　というようで、　(A　ん)　××　よかったのだわ。

(A　アー)　ソレガネー　ナニガ　ヨカッタ　ッツート、
(A　ああ)　それがねえ、　何が　よかった　というと、

アノ　トージ　アノー　ミンナ　ニッポンノ　イトワ
あの　当時、　あのう　みんな　日本の　糸は

アメリカ　イッタンデスヨ。
アメリカ [へ] 行ったのですよ。

04↑05

デ　アメリカノネ、　スカートガネー、　ナガイト　（A　エッ）
で、　アメリカのね、　スカートがねえ、　長いと　（A　ええ）

ソーユー　リューコーニ　ナルト　イトガ　（B　エッ）　タカクナッテ、
そういう　流行に　なると　糸が　（B　ええ）　高くなって、

ミジカクナルト　イトガ　ヤスクナルッテ　ソンナ、　エエッ。
短くなると　糸が　安くなるって、　そんな、　ええ。

62A：アー　スカート、　スカートデ　キマッタン。　{笑}
ああ、　××××　スカートで　決まったの。　{笑}

（C　ソンナ　アッ　イヤ　ソンナ　アッ）　ソーユーヨーナ　ワケ。
（C　そんな　あ、　いや　そんな　あ）　そういうような　わけ。

63C：ソーユー　モンデモ　ネーケドネー。
そういう　ものでも　ないけれどねえ。

ソーユー　フーナネ　ウワサガ　アッタンスヨ。　ハー。
そういう　ふうなね　うわさが　あったのですよ。　はあ。

64A：ハー。
はあ。

65B：ンデ　シンチワ　フーエーカン〔33〕デ　ウチデ
それで　新家は　豊栄館で　[私の] 家で

（C　ンー）　フーサンカン〔34〕。　ネ。
（C　んー）　豊蚕館。　ね。

（C　ソー　ソー。　ンー　マエワー）　エッ。　（A　ハー）
（C　そう　そう。　んー　前は）　ええ。　（A　はあ）

デ、　タネヤ　リョーホーデ　シテ　ト　ユ　コトデ、
［それ］で、　種屋［を］　両方［の家］で　して　と　いう　ことで、

マー　アレダネー、　ホントニ　タネト　ナルト　（A　＊＊＊）
まあ　あれだねえ、　ほんとうに　種と　なると　（A　＊＊＊）

モー　ツユケー〔35〕　クンナインダイネー。　ハー　チットモ。
もう　露気［＝水気］を　やらないのだよねえ。　もう　ちっとも。

66C：ハー　ムカシアネー。
もう　昔はねえ。

67A：ハー。
はあ。

68B：ネー。　（C　チカシネー）　モー　クワ　トッチキタッテー、
ねえ。　（C　しかしねえ）　もう　桑［を］　採って来ても、

モンカラ　ウチー　ハイレネーホド　シュジュンコー〔36〕ガネー、
門から　家に　入れないほど　Bさんのおにいさんがねえ、

オコルダヨ。　（A　エッ）　（C　イヤ、　ムカシーワネー）
怒るんだよ。　（A　ええ）　（C　いや、　昔はねえ）

ツユケー　チットモ　クンナイン。
露気を　ぜんぜん　やらないの。

69C：タッ　タネヤダナクモー　（B　ネー）　アノー　アレダイネー
××　種屋ではなくとも　（B　ねえ）　あのう　あれだよねえ

カイコニ　ツユー　クレルト　ダメダ　ツッテー。　（B　ソー）
蚕に　　露［を］　やると　だめだ　といって。　（B　そう）

オソラク　フツーノ　ヒトモ　クンナカッタンダネ。
おそらく　普通の　人も　やらなかったのだね。

（D　ソーダイノー）　（B　エー）　トコロガ　イマーネ
（D　そうだよねえ）　（B　ええ）　ところが　今はねえ

アメガ　フッタッテンデモ　ヘーキデー。　（D　アー）
雨が　降ったというのでも　平気で。　（D　ああ）

70B：ショータレベー　クレテルガンネー。
しょうたれ［＝びっしょりの桑］ばかり　やっているよねえ。

71C：ソー。　ンデ　ンデ　ムカシアー　ヨクネー　アノ
そう。　それで　それで　昔は、　よくねえ　あの

ヒトッパー　ヒトッパ　ツンダンダイネ。　（B　ソーデスヨー）
一葉　　一葉　　摘んだのだよね。　（B　そうですよ）

アー　ヒトッパ。　ンート　ヒトッパツンガ
ああ　一葉。　んーと　一葉というのが

ドコー　ツムカッツート、　コー　ノビテル　トコネー
どこを　摘むかというと、　こう　伸びている　ところ［を］ねえ

ヒカリッパ〔37〕　ツンガ　　アッテネ
光葉　　というのが　あってね

アノ　アオイ　ハト　（B　エー）　アー　キーロイ　ハノ
あの　青い　葉と　（B　ええ）　ああ　黄色い　葉の

アイダッコン　ヒカリッパ。　（B　エ　アノ　アイサオネー）
間の　光葉。　（B　え　あの　間をねえ）

ソレオ　チューシン　トッタン。　（B　ンッ）　ソイデー
それを　中心［に］　採ったの。　（B　ん）　それで

ミンナ　ウエベー　トッタンダイネ。
みんな　上ばかり　採ったのだよね。

ウエー　エーヨーガ　コネンダ　オーク。
上［には］　栄養が　来ないんだ　多く［＝あまり］。

（B　{笑}）　オカイ　クリタンダヨ。
（B　{笑}）　お粥［を］　やったのだよ。

オカイ　クリタカラネー　ヨク。
お粥［を］　やったからねえ　よく。

シップ　ソノ　ホーノ　シッペーモ　アル　ワケダ。
×××　その　ほうの　失敗も　ある　わけだ。

（A　ハー）　マ　コトシノ　カイコア
（A　はあ）　ま　今年の　蚕は

シッパ　イー　イーカゲン　　アエー　アレダ
×××　××　いいかげん［＝かなり］　あれえ　あれだ

カイコガ　ワリー　ツンナネ　　ケッキョク　アレダネンカネー
蚕が　　悪い　　というのはね　結局　　あれではないのかねえ

ソノ　イロガ　デテーテモ　ニッショーブソクデ　マ
その　色が　　出ていても　日照不足で　　ま

エーヨーフソク　ッツーヨーナ　ケーコーガ　アンジャネーカ　ト
栄養不足　　というような　傾向が　　あるのではないか　と

オモーケドサー。
思うんだけどねえ。

72B：ネー。　アメバイ　（C　アー）　オーカッタカラ。
ねえ。　雨ばかり　（C　ああ）　多かったから。

ソレデ　アレデシタッケカネー、　アラコ〔38〕ノ
それで　あれでしたっけねえ、　荒子の

X２サン　ッツー　ヒトア　タネヤ　　シタッケカネー。
X２さん　という　人は　　種屋［を］　したっけかねえ。

（C　ソー　ソー）　ソレト　オモロ〔39〕ノ　X３サン。
（C　そう　そう）　それと　大室の　　X３さん。

（C　アッ）　ソラケド　　ミンナ　アネ　モー。
（C　あ）　　そうだけれど　みんな　ね　　もう。
05↑06

73C：アー　タネヤー　ミンナ　バンザイ　　シチャッタ。　{笑}
　　ああ　種屋は　　みんな　万歳［＝降参］　してしまった。　{笑}

　　（A・B・D　{笑}）
　　（A・B・D　{笑}）

74D：アノ　コロア　アレダイネー　トミダニサー　（B　エー）
　　あの　頃は　　あれだよねえ　富田にねえ　　（B　ええ）

　　タネヤサンガ　ニケン　アッタカラノー。
　　種屋さんが　　2軒　　あったからねえ。

　　（B　エー　エー）　（A　エー）　ダカ　　トミダノ
　　（B　ええ　ええ）　（A　ええ）　だから　富田の

　　ヨーサンワ　トニカク　アレダイネー。
　　養蚕は　　とにかく　あれだよねえ。

　　（A　サカンダッタ。　ンッ）　ヨソ　　イッテモサー
　　（A　盛んだった。　　ん）　　よそ［へ］　行ってもねえ

　　トミダダッテバ　（A　{咳}）　ハバガ　キータンダカラー。
　　富田だと言えば　（A　{咳}）　幅が　　きいたのだから。

　　（A　ンー　サカンダッタンダーネ）　マユモ　イーモン、
　　（A　んー　盛んだったんだよね）　　繭も　　よいもの［を］、

　　（C　ンー）　マユモ　イーモン
　　（C　んー）　繭も　　よいもの［を］

タクサン　トッタンダイノー。　トッ。
たくさん　採ったのだよねえ。　××。

75A：マダ　Cサンガ　アノー　アノ　タネヤ　　シテル　　ジブンナ
まだ　Cさんが　あのう　あの　種屋［を］　している　頃は

ガッコー　イッテタカラ　{笑}　(D　ンー)
学校へ　　行ってたから　{笑}　(D　んー)

アンマリ　ワカンネンネ。
あんまり　わからないのね。

76B：ハコ　　イレチャーネー　ショイアルッテー
箱［に］　入れてはねえ　　背負って歩いて

ドンドン　ドンドン　モッテアルッタ。
どんどん　どんどん　持って歩いた。

＊＊＊　ミンナ　ウレタンダイネー。
＊＊＊　みんな　売れたのだよねえ。

77A：ショーガッコー　＊＊＊。　{笑}
小学校　　＊＊＊。　{笑}

78D：ン　マー。
ん　まあ。

79C：オレモネー　タネヤー　シタッテー　シタ　ッツーヨーナモノノ、
俺もねえ　種屋を　したって　した　というようなものの、

(B　マー　オトーサンガー　ア　イタカラネ)
(B　まあ　おとうさんが　　あ　いたからね)

マー　ソレ　オヤジガー　イー　イナク
まあ　それ　親父が　　××　いなく

イナクナッチャッタカラー　ダカラネー　マー
いなくなってしまったから　だからねえ　まあ

ゴロクネン　ヤッタンダケドネー　タネヤ　ツクレルンダイネー。
5、6年　　やったのだけどねえ　種は　　作れるのだよねえ。

(A　ン)　ンダケ　　シャコー〔40〕　デキネンダ。
(A　ん)　それだけど　社交［が］　　できないのだ。

ウチデ　　タネ　　ツクッテルトネー、
［私の］家で　種［を］　作っているとねえ、

ツクッタ　タネ　　ウル　コト　　デキネーン。
作った　　種［を］　売る　こと［が］　できないの。

ホースット　アノー　アレダイノー
そうすると　あのお　あれだよねえ

ガイコーイ　モッテッテヤルトネー、
外交へ　　持っていってやるとねえ、

ホーストー　マー　ウルンダイネ。
そうすると　まあ　売るのだよね。

ウッテ　タダデ　タネ　　クレルッチャーンダ。
売って　ただで　種［を］　やってしまうんだ。

ホデ　　コンド、　シューキン　ナル　ッツート　モッテキネンダ。
それで　今度、　集金［に］　なる　というと　持ってこないのだ。

カネ　　モッテキネーン。
金［を］　持ってこないの。

ソデ　　イッテミルト　ンー　アノー　ココンチノ　タネー
それで　行ってみると　「んー　あのう　ここの家の　種［は］

ハズレタカラ　　ダメダカラ　マ
外れた［＝繭が採れなかった］から　駄目だから　まあ

モラエネーカラ　　ナンテッテ。
もらえないから」　などと言って。

デ　　マーッテッテミルト　ンート
［それ］で　回って行ってみると　たくさん

アタッテル　　ッツンダネー。
当たっている［＝繭がよくできてたくさん採れている］　というのだねえ。

（A　{笑}）　ホーデネ　　ホンナ　コンジャー
（A　{笑}）　それでねえ　そんな　ことでは

イックラ　タッタッテ　（D　{笑}）　ウダツガ　アガンネーカラネー
いくら　経っても　（D　{笑}）　うだつが　上がらないからねえ

（A　ン）　アッ　コンダ　＊＊＊　イー　トモッテ
（A　ん）　あ　　今度は　＊＊＊　いい　と思って

ヨシチャッタンダ。
よしてしまったのだ。

80B：ウチア　　ズイブン　アレダヨー　ヨッタリ〔41〕クライデ
［私の］家は　ずいぶん　あれだよ　　4人くらいで

ハコー　ショッチャー　アルッタヨ。
箱を　　背負っては　　歩いたよ。

81A：ンー　デモ　ジューネングレ　シタンカネ。　タネヤサンナ。
んー　でも　10年くらい　　したのかね。　種屋さんは。

（C　ンー）　モット　シタンカネ。
（C　んー）　もっと　したのかね。

82C：タネヤワネー。　ン　オヤジーガ　イテ　ヤッタンダッタカナー。
種屋はねえ。　　ん　親父が　　いて　やったのだったかなあ。

タイショー、　ンノ　ノ　チューキダイネ。
大正、　　××　の　中期だよね。

83B：ソーダイネ。
そうだよね。

84C：ンー。　ソレッカラ　ヤッテネー　オヤジーガ　ヤンナク
んー。　それから　やってねえ　親父が　　やらなく

ナッタンガ　アレカー　（A　ンー）　タイショージューネン
なったのが　あれかあ　（A　んー）　大正10年

85D：ンダカラ　ニジューネングレー　ヤッタ　ヤッタンダネンカ。
それだから　20年くらい　やった　やったのではないのか。

86C：ジューネングレ　ジューネングレ
10年くらい　10年くらい

87D：ニジュネングレダヨ　ドーセ。
20年くらいだよ　どうせ。

88C：ジューネングレーノ　モンダヨ。
10年くらいの　ものだよ。

89D：ホーカネー？
そうかねえ？

90A：ンーデモ　ジューネンイジョー　ヤッタンジャネンカネ。
それでも　10年以上　やったのではないかね。

（D　マー　アレダイノー）　アシャ　ヒ
（D　まあ　あれだよねえ）　私は　×

X４サント　ドーキューセーダカラサー　ネ。　（C　アー）
X４さんと　同級生だからねえ　ね。　（C　ああ）

（D　ンー　ソーダ　ソーダ）　（B　ソーネ）
（D　んー　そうだ　そうだ）　（B　そうね）

アノー　コドモン　トキー　（B　エー）
あのう　子どもの　時に　（B　ええ）

ニジューニヤサマ〔42〕ノネ　（C　ンー）　（B　エー　エ）
二十二夜様のね　（C　んー）　（B　ええ　え）

アノ　トキャ　ニギヤカデ。
あの　時は　賑やかで。

91B：ンー。　アノ　トキヤ　ホラー　ソコイ　（A　ンー）
んー。　あの　時は　ほら　そこへ　（A　んー）

アタシモ　（A　ンー）　イッ　イッテー
私も　（A　んー）　××　行って

ンデー　シンチー　ヨッテー　（A　ンッ）
それで　新家に　寄って　（A　ん）

カイコー　ミセテモラッチタンダカラ。
蚕を　見せてもらってたのだから。

06↑07

92A：リョーノ　トーローヨリ　シンチノ　ホーガ
両方の　灯篭より　新家の　ほうが

ニギヤカダッタガネ。　（C　フン　フン　フン）　ネ。
賑やかだったじゃない。　（C　ふん　ふん　ふん）　ね。

93B：ソー。　ソデ　コーリー　ドンドン
そう。　それで　氷を　どんどん

（C　イヤ　ソンナ　ソンナ　トキノ）
（C　いや　そんな　そんな　時の）

コーリノ　ミズ　　クレタリ　ナンダリ　シテ　イタダイテキタン。
氷の　　水［を］　やったり　なんか　して　いただいてきたの。

94C：コトアネー　オラ　シラネンダ。
ことはねえ　俺は　知らないんだ。

95A：シラナインカイ。
知らないのかい。

96C：シラネン。
知らないの。

97A：ソーデネー　アノ　コー　ナニモ　オーキー　ショーギー〔43〕
それでねえ　あの　こう　何も　大きい　しょうぎに

イッパイ　ブッカキゴーリ　ダスト、（B　ソー　ブッカキゴーリ）
いっぱい　ぶっかき氷［を］　出すと、（B　そう　ぶっかき氷）

マー　キンジョジューガ　ミーンナ　ヨッテッテネー、
まあ　近所中が　みんな　寄っていってねえ、

ソレガ　モライタクッテ　イッタンダヨネ。｛笑｝（B　｛笑｝）
それが　貰いたくて　行ったのだよね。｛笑｝（B　｛笑｝）

98C：ソレ　ソーユ　トキノ　コト　オレア　シラネンダヨ。
それ　そういう　時の　こと［を］　俺は　知らないのだよ。

（B　エー）　チョ　チョードネー　シ
（B　ええ）　××　ちょうどねえ　×

99A：ソッ　ホラ　イッパンノ　ノーカー
××　ほら　一般の　農家は

ブッカキゴーリ　ナンツン　ナカッタカラ。
ぶっかき氷　などというの［は］　なかったから。

100B：＊＊＊　ナカッタカラネ。
＊＊＊　なかったからね。

101C：ンー　チョード、　シケン　シケンジョーイ　デッタカラネー。
んー　ちょうど、　試験　試験場へ　出てたからねえ。

ンダカラ。
それだから。

102A：ア　イナカッタンカネー。
あ　いなかったのかねえ。

103C：アレ　ナカッタン。　アン　トキノー。
あれ　なかったの。　あの　時の。

104B：ミンナ　ホラ。
みんな　ほら。

105A：ソーデ　ミヤサマ　ッツイバー　シンチガ　シュダッタンダイネ。
それで　宮様　といえば　新家が　主だったのだよね。

106B：ソーイ　コーリガ　ナケリャ　ヒール〔44〕ダナンテガ
そういう　氷が　なければ　[蚕の] 蛾だなどというのが

ホラ　イタムカラ。
ほら　傷むから。

107A：トーローナンカモ　ソッチノケデ　(C　ウーン)　シンチー
灯篭なんかも　そっちのけで　(C　うーん)　新家に

ミーンナ　ヨッテッテ、　ボンオドリ　アッテネ。
みんな　寄って行って、　盆踊り [が]　あってね。

(C　ウーン　ソンナ)　(B　ワタシモ　ヨッテキタン)
(C　うーん　そんな)　(B　私も　寄って来たの)

マーズ　ニギヤカダッタン。
ほんとに　賑やかだったの。

108C：ソノ　ハナシア　キーテルケドネー、　ジッサイ
その　話は　聞いているけれどねえ、　実際 [に]

ジブンジャー　ケーケン　シテネーンダヨ、　アッ。
自分では　経験 [を]　していないのだよ、　あ。

109B：マダー。
まだ。

110A：ホントア　コーリガ　モライタクッテ　(C　ンー)
ほんとうは　氷が　もらいたくて　(C　んー)

イッタンダイネー。 〔笑〕
行ったのだよねえ。 〔笑〕

111B：ボーヤサン〔45〕ダッタンカネ。
坊やさんだったのかね。

112C：エッ？
えっ？

113B：ボーヤサンデ　イタッタカイ。
坊やさんで　いたのだったかい。

114C：ボーヤサンダ　ネースヨ。
坊やさんでは　ないですよ。

オラーネー　（A　ウチー　イナカッタカー）
俺はねえ　（A　家に　いなかったから）

シケンジョーイ　デタン　アン　トキ。
試験場へ　出たの　あの　時。

115B：アー　ソーカ。
ああ　そうか。

116A：ガ　マダ　ガ　ベンキョーチューダカー。
×　まだ　×　勉強中だから。

117B：アー　ンデ　X５モ　マーネ　（C　ソー）
ああ　それで　X５も　まあね　（C　そう）

サンギョーシケンジョーイ　デテ　アノ　コモ　ナガク　デタンダヨ。
蚕業試験場へ　出て　あの　子も　長く　出たのだよ。

118C：ソーダイネー。
そうだよねえ。

119B：エッ。　ソノ　ツギッカラ　X６ワ　（C　アー）
ええ。　その　次から　X６は　（C　ああ）

セタノー〔46〕イ　デテ、　ンダカラ　X７モ　デタシ、
勢多農林高校へ　出て、　それだから　X７も　出たし、

（A　ダケド　Cサンチデ）　X８モ　デタシ　ミンナ。
（A　だけど　Cさんの家で）　X８も　出たし　みんな。

120A：カ　ターネヤ　シテル　ジブンア　カミグミヤ　イチバン
×　種屋［を］　してる　頃は　上組は　いちばん

ユーセーノ　ジダイダイネー。
優勢の　時代だよねえ。

121B：ソーダイネ。
そうだよね。

122C：マーネー　ネー　ソデ　フッタ　ホーダカラ。　{笑}
まあねえ　ない　袖［を］　振った　ほうだから。　{笑}

（A　{笑}）
（A　{笑}）

123D：チョード　アノ　コロガ　アレダイノー　（A　ンッ）
ちょうど　あの　頃が　あれだよねえ　（A　ん）

ホカノー　ブッカニ　クラベテー　マユノ　ネダンガ
他の　物価に　比べて　繭の　値段が

イチバン　ヨカッタンダイノ。
いちばん　よかったんだよね。

124B：ソーネ。
そうね。

125A：イチバン　イー　ジキネ。
いちばん　よい　時期ね。

126C：ソー　ソー。
そう　そう。

127D：マー　イッカンメー　（A　ンッ）　アレダイノー
まあ　1貫目　（A　ん）　あれだよねえ

ジューサンエンカラー　ジューゴエンマデ　イッタ　トキヤノー。
13円から　15円まで　いった　ときはねえ。

（B　ソーネ）　コメダッテ　アレダモノー
（B　そうね）　米だって　あれだもの

ヨンジューエンカ　ソコラシカ　シナカッタモンノー。
40円か　それくらいしか　来なかったものねえ。

(B　エー)　ホーダカラネー
(B　ええ)　そうだからねえ

128A：ソノ　ジダイヤ　マダ　コドモダッタカラ。
その　時代は　　まだ　子どもだったから。

129D：アー　オラー　ホンケノ　(A　エッ　エッ)　(C　マー)
ああ　俺は　　本家の　　(A　ええ　ええ)　(C　まあ)

マーサー、　ウチー　タテケーッコー　シタケドサ
まあねえ、　家を　　建て替えを　　したけれどね

(A　エー。　{咳})　コンナ　コンダラ
(A　ええ。　{咳})　こんな　ことなら

タワイナク　シャッキンナンカ　ナセル　ッツンデー
簡単に　　借金など　　返せる　というので

(A　エッ)　ヤッタンガネー　　(A　エッ)
(A　ええ)　[建て替えを] やったのがねえ　(A　ええ)

ナンデモ　ネノ　ンート　ヨカッタンガ　サンネンカ
なんでも　値の　とても　よかったのが　3年か

ソコラデ　ツズイテ。　アトア　コンダー　(A　ンッ)
そこらで　続いて。　後は　　今度は　　(A　ん)

ムコーカラー　アレダイノー　オーカ
向こうから　　あれだよねえ　多く [＝あまりにも]

ニホンノ　イトガ　ネガ　イーッツンデサー
日本の　糸が　値が　よいというのでねえ

ユニューガ　ハイッタンデ　パット　ヤスクナッチャッタンダイノー。
輸入が　入ったので　ぱっと　安くなってしまったのだよねえ。

130A：ソーデ　ダメン　ナッタンカイ。
それで　だめに　なったのかい。

131B：ソーダイネー。
そうだよねえ。

132D：ソーデ　ミンナ　シンショガ　（B　ンー）　グラツイタッタンガ
それで　みんな　身上が　（B　んー）　ぐらついてしまったのが

ウント　オーイ　（B　ンー）
とても　多い　（B　んー）

07↑08

133A：マーズ　ウチナンカ　ヒトーネー　ウツボイ〔47〕カラ
まあ　[私の]家など　人をねえ　笊井から

ムスメ　サンニングレー　タノンデキテー　（C　ンー）
娘[を]　3人くらい　頼んできて　（C　んー）

（D　ンー）　ソーデ　ワカイ　シガ　ウチア
（D　んー）　それで　若い　衆が　[私の]家は

フターリ　イタカラ　（D　ンー）　ネー　イチネンジュー
二人　いたから　（D　んー）　ねえ　1年中

フターリ　タノンダッテ　（D　ンー）　ジョ　カイコー
二人　　頼んだって　　（D　んー）　××　蚕を

サンニングレー　タノンデ　＊＊＊　ソイデ　ジョチューサンガ
３人ぐらい　　頼んで　　＊＊＊　それで　女中さんが

ヒトリ　イタカラ。　（B　ソー。　ソーナンダイネ）
一人　　いたから。　（B　そう。　そうなんだよね）

（D　アー）　アタシ　　ナンニモ　シラネーデ
（D　ああ）　私［は］　何も　　知らないで

ソダッチャッタカラ。　{笑}
育ってしまったから。　{笑}

134C：ンー。
　　んー。

135D：ソーダ。　（A　ンー）
　　そうだ。　（A　んー）

136B：アタシダッテネー　（A　ソノ　ジダイワネ）
　　私だってねえ　　（A　その　時代はね）

イチバンバントー、　ニバンバントー
一番番頭、　　二番番頭

（C　ミンナ　オジョサ　オジョーサンデ　スンデ。　{笑}）
（C　みんな　××××　お嬢さんで　　すんだ。　{笑}）

ジョチューカラ　ジーヤカラ　バーヤカラ
女中から　　じいやから　ばあやから

(A　ナニモ　オボイズニ　オ　オーキクナッチャッタン。　{笑})
(A　何も　　覚えずに　　×　大きくなってしまったの。　{笑})

コ　コモリスル　シトカラ　ソレッコサー
×　子守りする　人から　　それこそは

シマイノ　コワー　ナナジュンチ　タタネンニ
末の　　子は　　70日［すら］　経たないのに

オヤワ　シンダカラ　コンダ　ウバー　タノンデ。
親は　　死んだから　今度は　乳母を　頼んで。

ウバガ　カイッチャッタンデ　コンダー　サトゴニ　ダシテ。
乳母が　帰ってしまったので　今度は　　里子に　　出して。

ソレー　マー　チャント　シアゲタケドネ。
それを　まあ　ちゃんと　仕上げた［＝育て上げた］けれどね。

イマワ　マチニ　クラシテルケド　　ソノ　コワネー。
今は　　町に　　暮らしているけれど　その　子はねえ。

137D：ミンナ　ダイジンヤノ　オジョーサンソダチダカラー。　{笑}
　　みんな　資産家の　　お嬢さん育ちだから。　　{笑}

138B：モー　イロイロナ　コトガ　アッタンダヨー。
　　もう　いろいろな　ことが　あったのだよ。

(A　{笑})　ジーヤカラ　バーヤダカラ。
(A　{笑})　じいやから　ばあや［から］だから。

139A：コドモン　トキアネー　ムチューデ　タダ　オーキクナッテネ。
子どもの　時はねえ　夢中で　ただ　大きくなってね。

140B：モリー　スル　コニネー　(C　ンー)　ンーデー
子守りを　する　子にねえ　(C　んー)　それで

141C：＊＊デ　アノ　トージア　アレダイネー　ヒトッ　ハジメア
＊＊で　あの　当時は　あれだよねえ　×××　始めは

ヒトッパズミダケネー　ンー　ショーワン　ナッテカラダベネー
一葉摘みだけ［れど］ねえ　んー　昭和に　なってからだろうねえ

ヤッパリー　フタッパー　ミッパー　ツメッツー。
やっぱり　二葉　三葉［を］　摘めという。

トコロアネー　ワシャーネー　チョード　アノ
ところがねえ　私はねえ　ちょうど　あの

サイワイニサー　アッ　シケンジョー　イッタ　トキニ
幸いにねえ　あ　試験場［に］　行った　時に

C、　オマー、　ソノー　ヤーラカイ　クアト　カタイ　クアノ
C、　おまえ、　その　柔らかい　桑と　硬い　桑の

シケン　シロ　ッテ　イワレタンダ。　(D　フーン)
試験［を］　しろ　って　言われたのだ。　(D　ふうん)

ソデネー　ソレ　ドーユ　フニ　スンダ　ッツッタラー、
それでねえ　それ［は］　どういう　ふうに　するんだ　って言ったら、

ソレ　サッキ　イッタ　ヒカリッパオ　チューシンニシテ
それ　さっき　言った　光葉を　中心にして

シター　トッタ　ウエ　ウエー　トルンダド。　ソデーネ
下を　採った　上　上を　採るのだと。　それでね

142B：アー　ジクン　トコーネ。
ああ　軸の　ところをね。

143C：ン　シケンジョーアネー　モー　ナントー
ん　試験場はねえ　もう　何頭［の蚕を］

ハキタッタ　ッツンダカラネー　ミンナネ　イーカゲンデネンダ。
掃き立てた　というのだからねえ　みんなね　いいかげんでないのだ。

ナントー　ハキタッテ　ナントー　マユ、
何頭［の蚕を］　掃き立てて　何頭　繭、

イクツ　マユガ　デキテー　ンデ　ゲンサイマイガ　イクラト、
いくつ　繭が　できて　［それ］で　原蚕繭が　いくらと、

マ　クズンマユガ　ミンナ　ダサナクチャナンネン。
ま　屑繭が　みんな　出さなくてはならないの。

ソレ　ヤッタンダ。　ソノ　ソステ　ミタラネー、
それ［を］　やったのだ。　その　そうして　みたらねえ、

ジブン　タイケン　シテミタラ　ケッキョク　コワイ〔48〕　クワ
自分［で］　体験　してみたら　結局、　堅い　桑

イワユル　コワ　コワイ　クワ　ッテ　ユーノガ、
いわゆる　××　堅い　桑　って　いうのが、

ソノ　イ　コワスギチャ　ンマクネーケンドネー
その　×　堅すぎては　うまくないけれどねえ

ヤッパリ、　ソノ　ヒカリッパノ　シタ　ッツンノガ　イー　ト　ユー
やっぱり、　その　光葉の　下　というのが　よい　と　いう

ケッカガ　デタン。（B　ン）　ソノ　ケッカガ　デテッカラネー、
結果が　出たの。（B　ん）　その　結果が　出てからねえ、

モー　ニマイズミ　サンマイズミ　ツーネー、
もう　２枚摘み　３枚摘み　というねえ、
08↑09
アノー　ヒトッパズミー　ヨサシタンダヨ。
あの　一葉摘みを　止めさせたのだよ。

144B：アノ　コロア　クアーノ　シュルイガネ　（C　アー）　ヨクナイン。
あの　頃は　桑の　種類がね　（C　ああ）　よくないの。

グンマーアカギ〔49〕ニ　オーシマソー〔50〕ナンツンデネ。
群馬赤城に　大島桑などというのでね。

145C：マ　オーシマソーワネ　（A　エッ）　イー　ホーダッタン。
まあ　大島桑はね　（A　ええ）　よい　ほうだったの。

146B：エー　トミエソー〔51〕ダラ　マダ　イーンダケドー。　（C　ンー）
　　ええ　富栄桑なら　　まだ　いいのだけど。　（C　んー）

147D：アッ　オーシマリョソー〔52〕ナンツナー　イー　ホーダッタイノー。
　　あ　大島りょ桑などというのは　　いい　ほうだったよねえ。

148B：イマワ　ホラ　チガー　クワガ　ウイラレタケドネー。
　　今は　ほら　違う　桑が　植えられたけどねえ。

149C：アー　ワスレチャッタナー　クワノ　ナマエモ。
　　ああ　忘れてしまったなあ　桑の　名前も。

　　ムカシノ　クワワ。
　　昔の　桑は。

150B：ンー。
　　んー。

151A：グンアカ　ッツンガ　アッタガネ。
　　群赤　というのが　あったじゃない。

152B：グンアカ　ッツンガ　アッタンデスヨ。
　　群赤　というのが　あったのですよ。

153A：ネー。
　　ねえ。

154C：グンマアカギ　ッツンサー　（B　アレガ　アノー）
　　群馬赤城　というのねえ　（B　あれが　あのう）

セーシキニ　イエバネ。
正式に　　言えばね。

155B：イクラカ　チカラガ　アッテネ。
いくらか　力が　　あってね。

156A：アッ　グン　グンマーアカギ。　ヨク　グンアカ　ッツッテネ。
あ　　××　群馬赤城。　　よく　群赤　　って言ってね。

157D：アー　コレガ　ダイタイ　アエダンベー
ああ　これが　だいたい　あれだろう

グンマケンノ　ダイヒョーノ　（A　ノ　コ　コ）　アレダイ
群馬県の　　代表の　　（A　×　×　×）　あれだよ

カシューサンセンヨーソーイン〔53〕　（A　セン）　ダッタイノー。
夏秋蚕専用桑園　　（A　××）　だったよねえ。

158B：エッ。
ええ。

159C：ソレガネー　モー　ヒトッキリネー。
それがねえ　もう　一時期ねえ。

160B：イマー　ミンナ　トミーソーン　ナッタケドネー。
今は　　みんな　富栄桑に　　なったけれどねえ。

161A：ンッ。
ん。

162D：イマー　ソーユー　ハー　ムカシノ　フリー　シュルイア
今は　そういう　もう　昔の　古い　種類は

シットモネ　ハー　ネー。
ちっともね　もう　ない。

163C：イマー　トミエデナケラ　（D　アー）　イチノセー〔54〕ダヨ。
今は　富栄［桑］でなければ　（D　あー）　一の瀬だよ。

164B：ホーデ　ホラー　コースイシャ〔55〕エ　イッテー
それで　ほら　交水社へ　行って

ケンガク　サシタガネ　ムラジュー。
見学［を］　させたじゃない　村中。

カミノ　ホワ　ベツダッタカ　シンネーケド　（C　アー）
上の　ほうは　別だったかも　しれないけれど　（C　ああ）

コッチー　ミナミーネ。　ソデー　ソトデ
こっちに　南にね。　それで　そこで

イトー　ヒクー　ヒトーノー　アレオ　ミタリ
糸を　引く　人のを　あれを　見たり

オヒル　イタダイタリ　ソノ　ヒニ　マー　アノ
お昼［を］　いただいたり　その　日に　まあ　あの

エーガオ　ミテキタヨ。　オジーサンガ　ツイテッテネー。
映画を　見てきたよ。　おじいさんが　連れて行ってねえ。

（C　ンー）　（D　ンー）　（A　ンー）　エー。　ンデ。　{咳}
（C　んー）　（D　んー）　（A　んー）　ええ。　それで。　{咳}

165C：＊＊デネー　ワシァ　ワシャー　ハジメテーッテ
＊＊でねえ　私は　私は　初めて行って

コーシュー　ウケタ　トキニア　ヒャクショーア　バカデモ　デキルガ
講習［を］　受けた　時には　百姓は　馬鹿でも　できるが

セーシワ　バカデワ　デキネー　ナンツー
製糸は　ばかでは　できない　などという

（B　デキネーンダヨネー）　（A　ンッ）　ソユ
（B　できないのだよねえ）　（A　ん）　そういう

コ　コーシガ　チャーント　ユッテルンダカンネー。
×　講師が　ちゃんと　言っているんだからねえ。

（A　{笑}）　（D　ンー）　イマデモ　ワスレネー
（A　{笑}）　（D　んー）　今でも　忘れない

オーク　バカニサレタヨーナ　キガ　シテネ。
多く［＝あまりにも］　馬鹿にされたような　気が　してね。

166B：デキネーヨ　アレジャーネ。　（C　ソーナンヨ）
できないよ　あれではね。　（C　そうなん［だ］よ）

ホントーニ　シコシ　シッパクリ〔56〕オ　クイバ
ほんとうに　少し　やりそこないを　くらえば

ハズッチャーモノ。
外してしまうもの。

167C：マッ　ツギニャー　イ　オイ　　ソー　イッタ
まあ　次には　　×　俺［に］　そう　言った

センセーノ　ナマイ　　シッテルケドモ　　ワス
先生の　　名前［を］　知っているけれども　××

ワスレネーヤ　アラー　（D｛笑｝）　モー　オモシロクネーカラー。
忘れないや　あれは　（D｛笑｝）　もう　面白くないから。

（B　ンッ）　（A　ハー）　ソエデネ　シッキシテダ、
（B　ん）　（A　はあ）　それでね　筆記してだ、

ソレ　　シッキサシタンダヨ、　アー。
それ［を］　筆記させたのだよ、　ああ。

168A：ハハハハー　ヒッキシトイタノ。
ははははあ　筆記しておいたの。

169C：ンダッテ　（A　ンッ）　コーシー　ユーノオ
それだって　（A　ん）　講師［の］　言うのを

コー　（A　ンッ）　シッキシテルノサ、
こう　（A　ん）　筆記してるのね、

コーワ、　ンー　コーシノ　カタ　（A　アッ）　（B　ン）
×××　んー　講師の　かた　（A　あ）　（B　ん）

マー　ソッキシテ　ソッキワ　デキネーケドネー　　（A　ア）
まあ　速記して　　速記は　　できないけれどねえ　（A　あ）

（B　ン）　ジューヨーナ　テンダー　カイタンダネ。
（B　ん）　重要な　　点だけは　書いたのだね。

170A：カイタン　　（C　ンー）
書いたの？　（C　んー）

171B：ンデ　　オタクノ　オトーサンガ　モコーエ
それで　お宅の　　おとうさんが　向こうへ

ガイコクー　イッタ　コトガ　アッタケドモ　　ソノ　トキア
外国［へ］　行った　ことが　あったけれども　その　時は

マツッポグリ〔57〕ネ　イクツモ　オミヤゲニ　モッチキテクレタ。
松かさ［を］ね　　いくつも　お土産に　　持ってきてくれた。

（C　アー）　ンート　　ネッ
（C　ああ）　うんと［＝とても］　ねっ

デッカイ　　ホーグリデ　（C　ンー）　エー。
でっかい［＝大きい］　松かさで　　（C　んー）　ええ。

172A：Cサンチア　　イクネンゴロ　タネヤサン
Cさん［の］家は　何年頃［に］　種屋さん［に］

ナッタンダンベネー。
なったのだろうねえ。

09↑10

173C：ソーラネー、　アンマリ　キオクガ　ネンダケドモ。
　　それはねえ、　あまり　記憶が　ないのだけれども。

174B：ワタシガ。
　　私が。

175A：ンー　マダ　ショーガッコー　イッテタカラ。
　　んー　まだ　小学校［へ］　行ってたから。

176B：ワタシガ　ジューロクシチダネ。
　　私が　16、7［歳］だね。

177A：ジューロクシチ。
　　16、7［歳］。

178B：ンダカラ　オーカ　チガーネーンダイネ。
　　それだから　あまり　違わないのだよね。

179C：イッヤッ　ダカラ　ソレ　マエダヨ。　ソレ　マエ
　　いや　だから　それ　前だよ。　それ　前。

　　チョット　マエネ。
　　ちょっと　前ね。

180A：アタシ　ショーガッコーイ　アガッタバイン　トキア
　　私　小学校へ　上がったばかりの　時は

　　ハッ　サッ　タネヤサンノ　シテタヨーナ　キガ　スンダケド。
　　××　××　種屋さんを　してたような　気が　するのだけど。

181B：マー　ハジメタ　トコナンダヨネ。
　　まあ　始めた　ところなのだよね。

182C：マー　ソノ　ハジメタ　コロダンベネ。
　　まあ　その　始めた　頃だろうね。

183A：ハジメタ　コロダ。
　　始めた　頃だ。

184B：ハジメタ　コロダイネ。（A　ンッ）　ンデ　シンケア
　　始めた　頃だよね。（A　ん）　［それ］で　新家は

　　ホラ　ヨーサンオ　スルー　イー　アレガ　デキタカラネー。
　　ほら　養蚕を　する　よい　あれが　できたからねえ。

　　ミンナガ　ミテガ　キタンサー。（A　ンー）
　　みんなが　見手［＝見学する人］が　来たのねえ。（A　んー）

　　ウチダッテ　ズイブン　アレダケド
　　［私の］家だって　ずいぶん　あれだけど

　　イロイロナ　ヒトー　ツカッテ　ウッテ　アルッタケド
　　いろいろな　人を　使って　売って　歩いたけど

　　ソッデモ　ウレテ。
　　それでも　売れて。

185C：マーネ　ワレワレガ　ハジメテ　オサーッタ　トキ　ハッ　テッ　カラ
　　まあね　我々が　初めて　教わった　時　××　××　から

ミルト　イマ　　ムカシノ　カンガ　ツヨイネー。
見ると　今［は］　昔の　　感が　　強いねえ。

トニカ　　ヒトッパ　ツンデ　カッ　カイコ　カッタノワ
とにかく　一葉　　摘んで　××　蚕は　　飼ったのは

イマー　モー　アッ　ハサミー　モッテッテー
今は　　もう　あ　　鋏を　　持って行って

（B　ハギル〔58〕ンダカラネ）　ゴ　ゴルゴメイ
（B　はさみで切るんだからね）　×　／／／／／

イッペンニ　キッテキテネ　（B　{咳ばらい}）
いっぺんに　切ってきてね　（B　{咳ばらい}）

ヤルンダカラ　ラクダイネー。（B　エッ）
やるんだから　楽だよねえ。　（B　ええ）

186D：マー　アレダイノー　ソレガー　カイコー　カイカタガサー
まあ　あれだよねえ　それが　蚕の　　飼いかたがねえ

ダンダン　アノー　ナンツンダ
だんだん　あのう　なんというんだ

ショーリキシークッツンカノー。（C　ソーッ）（A　ンッ）
省力飼育というのかねえ。　（C　そう）　（A　ん）

シトノ　テマガ　オーカ　　イマ　カカッタカラ
人の　手間が　多く［＝あまりにも］　今　かかったから

ナルタケ　テオ　カケズニ　（B　ン）
なるべく　手を　かけずに　（B　ん）

イーモノオ　タイヘン　トルトー　（B　ソー）
よいものを　たくさん　採ると　（B　そう）

ソーユー　ホーシンー　カワッテキタカラノー、
そういう　方針に　変わってきたからねえ、

シドーホーシンガノー。
指導方針がねえ。

187B：ニワ〔59〕デモ　ナンデモネー　（D　ンー）
庭［＝五齢期］でも　なんでもねえ　（D　んー）

ズーット　カッテー　ソノゲー〔60〕　ムシロー　カケトイテー
ずっと　飼って　その上に　筵を　かけておいて

（C　ンー）　ムイ　カッ　クレテ　ミズー　マター
（C　んー）　××　××　やって　水を　また

ウエー　カケトケバー　ア　ネッ
上に　かけておけば　あ　ね

ハンニチニ　イッカイグライシカ　クンランナカッタカラ。
半日に　1回くらいしか　やれなかったから。

188C：＊＊＊。
＊＊＊。

189D：ンダカラ　モトアー　アレダンベー
それだから　もとは　あれだろう

ミンナ　ダイタイ　イマデモ　ソダケド　ウチデー　アー
みんな　だいたい　今でも　そうだけれど　家で　ああ

シークジョ　コシ　ハッ　ツクッテ　ヤッテルケンド
飼育所［を］　××　××　作って　やっているけれど

アレガ　アレダイノー　ンー
あれが　あれだよねえ　んー

ショーワノー　ヨンジューニネンカノー　イチネン
昭和の　42年かねえ　［4］1年

ショーワヨンジューイチネンノ　トシガ　ダメデ
昭和41年の　年が　だめで

ダイタイ　アノー　バンシューアタリアー　アレダイノー
だいたい　あの　晩秋［蚕］あたりは　あれだよねえ

ドコンチモ　トッテル　ウチガ　ネンダイノー。　（B　ホー）
どこの家も　採ってる　家が　ないのだよねえ。（B　ほう）

アノ　ミンーナ　ハズレゲーコ、　ミンナ　シンジャッテ、
あの　みんな　外れ蚕、　みんな　死んでしまって、

（B　ンッ。　ソーユー　コトガ　アッタンダイネー）
（B　ん。　そういう　ことが　あったのだよねえ）

ソレデ　ショーネー　　アレダイネー、
それで　しょうがない　あれだよねえ、

アノー　ス　スノー、　ヨンジューネンゴロカラ　アノ
あのお　×　そのう、　40年ごろから　　あの
10↑11
キョードーチサンシークジョーガ　（B　ンッ）
共同稚蚕飼育所が　　（B　ん）

ホラ、　ハジマッタンダイノー。
ほら、　始まったのだよねえ。

190B：ソレガ　デキテッカラ　イーンダイネー。
それが　できてから　よいのだよねえ。

191D：ンー。　ソイデー　ウチノ　　ホーナンカモネー　アレダヨ
んー。　それで　［私の］家の　ほうなんかもねえ　あれだよ

アー　キョードーシークジョー　コセーベージャネカ　　ッテ
ああ　共同飼育所を　　こしらえようではないか　って

イッタラ　ハジメヤ　ヤッ　マダ　ジキショーソーダ　ッツー
言ったら　始めは　いや　まだ　時期尚早だ　　という

（B　ンッ）　ユーンデ　エ　ダメダッタンサノー。　（B　エッ）
（B　ん）　言うので　×　駄目だったんだねえ。　（B　ええ）

ソーデー　イチネンノバシ　ニネンノバシ　　シテグ　ウチニ
それで　１年延ばし　２年延ばし［に］　していく　うちに

アレダイノー　ヨンジューイチネンノ　トシガ　ショシュー〔61〕モ
あれだよねえ　41年の　年が　初秋［蚕］も

ミンナ　クサッチャッタシ　（B　ンッ）
みんな　腐ってしまったし　（B　ん）

バンシューナンカ　（B　ンッ）
晩秋［蚕］なんか　（B　ん）

ヒトッパコデ　アレダ　ウチニ　ヨッチャー
１箱で　あれだ　家に　よっては

ゼンブデ　イッカンメーグレーシカ　トレネー　ウチガ
全部で　１貫目くらいしか　採れない　家が

イックラモ　アッタン。
いくらでも　あったの。

192A：ハー。
はあ。

193C：トイカク　ムカシワネー　（D　ンッ）　ヨク
とにかく　昔はねえ　（D　ん）　よく

コーユ　コト　ユッタガネネー。
こういう　こと［を］　言ったじゃないねえ。

ヒキアリノ　メシトー　アノー　バンシューワ　アタンネーンダッテ。
碾割りの　飯と　あのう　晩秋［蚕］は　当たらないのだって。

{笑}　(A・D　{笑})
{笑}　(A・D　{笑})

ソレデネー　アノ　コトアデ　ユッタンダ。
それでねえ　あの　////　言ったのだ。

バンシュ　　アテルモンデネート　　オモーグレーデネー。
晩秋［蚕を］　当てるものではないと　思うくらいでねえ。

(D　ソーサ)　ンー。　ヒキアリメシトー　アレダンベー
(D　そうね)　んー。　碾割り飯と　　あれだろう

{笑}　バンシューダンナ　アタラネーンダッテ。
{笑}　晩秋［蚕］などは　当たらないのだって。

194D：マー　アレダイ。
まあ　あれだ。

195B：デモ、　デンキシーク　ッツンガ　　ハヤッタデショ。
でも、　電気飼育　　というのが　流行ったでしょ。

196D：ソー　ソー。　(C　ンー)　アレ　ミンナー。
そう　そう。　(C　んー)　あれ　みんな。

197B：ネッ　アレデー　マー　ダンダン。
ねえ　あれで　　まあ　だんだん。

198D：アレガ　アレダイネ　キョードーシークジョーダノナン　ツ
あれが　あれだよね　共同飼育所だのなんて　　いう

ツクル　マッ　　モトダ、　ハジマッタイノ。
作る　　まあっ　もとだ、　始まったよね。

（B　エー　エー）　アー。
（B　ええ　ええ）　ああ。

199C：トニカッ　ムカシワネー　シ　アノ
とにかく　昔はねえ　　×　あの

ショードクスル　ナンテ　ユッタッテネー、
消毒する　　なんて　言ったってねえ、

アレダー　イチポンドグレー　カッチキテネ
あれだ　　1ポンドくらい　　買ってきてね

ソデ　　サンシツ〔62〕デ　ショードクスンダネ。
それで　蚕室で　　消毒するのだね。

ソレ　　キキッコネーンダイネー。
それ［は］　効きっこないのだよねえ。

（B　ソーユー　トコガ　　マダネ）　ンダカネ
（B　そういう　ところが　まだね）　それだからねえ

ショードクスーモノガ　ソノモノガ　テッテイシテナカッタンダイネー。
消毒するものが　　そのものが　徹底していなかったのだよねえ。

200B：ソーダイネー。
そうだよねえ。

201C：イマーネー　ンーマケルホド　アレダ　アレダイネ　ブツモンネ。
　　今はねえ　ぶちまけるほど　あれだ　あれだよね　まくものね。

202B：エー。
　　ええ。

203A：ムカシア。
　　昔は。

204D：ヤッ　タシカニ　ムカシア　アレダヨー
　　いや　確かに　昔は　あれだよ

　　ホルマリン　ナンツンナノー　（A　アー）　ミンナ　イチリ
　　ホルマリン　などというのを　（A　ああ）　みんな　×××

　　イチリッターキリ　ヒャーッテネー　（A　アー）
　　１リットルしか　入ってない　（A　ああ）

　　（C　イッ　イッ　イチポンドサー）　（A　イチポンド）　ビンデサ
　　（C　××　××　１ポンドねえ）　（A　１ポンド）　瓶でね

　　チーセーデ　ネダンガ　タカカッタンサ　ンート。
　　小さいので　値段が　高かったのね　うんと［＝とても］。

　　（B　ソー）　ソダカラ　ソンナニ　カイ、
　　（B　そう）　そうだから　そんなに　買い、

205A：ソレオ　イッカイ　ツカエバ　イーケド　ソレオ
　　それを　１回［で］　使えば　いいけど　それを

ワケテ　ツカッタガンネ　（D　ソーダン）　ナンカイニモ。
分けて　使ったじゃない　（D　そうだよ）　何回にも。

206D：ンダカラネー　　サイキンワー。
それだからねえ　最近は。

207C：ンー。　ダカラ　シマーシタ　ッツーダケダケノ　モノデ。
んー。　だから　しました　という××だけの　もので。

{笑}　＊＊＊。
{笑}　＊＊＊。

208A：ソレ　ニールンダナンテネ。　（C　キカネンダ　　ウン）
それ　煮るのだなんてね。　（C　効かないのだ　うん）

ニショードク。
煮消毒。

209B：ソーネ。
そうね。

210D：サイキンワ　ショードクガ　テッテイシテルカラー
最近は　消毒が　徹底してるから

（A　アー）　ビョーキガ　シットモ　ネン。
（A　ああ）　病気が　ちっとも　ないの。

211C：ニ　ニショ　ニショードク　ツンナ　　ネー　アノー　ナンダー
×　×××　煮沸消毒　というのは　ねえ　あのう　なんだ

デンチュー　ユーケドネー。　　ドブロイク〔63〕　ミテーン
連中［が］　言うけれどねえ。　土室育　　みたいな

ナカ　　チャット　シタ　　（A　アー）
中［に］　ちゃっと　した［＝密閉した］　（A　ああ）

トコーデ　ヤットネー　ニショードクガ　キクンダイネー。
ところで　やるとねえ　煮消毒が　　効くのだよねえ。

ダカ　　コー　ユ　＊＊＊ン　トコロデ　ヤッタンダ
だから　こう　×　＊＊＊×　ところで　やったのでは

キカネンダヨ、　　アンナ　モナー　キモチダケデ。　{笑}
効かないのだよ、　あんな　ものは　気持ちだけで。　{笑}

（A　{笑}）　（D　マー）　トコーガ　イマーネー
（A　{笑}）　（D　まあ）　ところが　今はねえ

マッタクー　ハ　　アレダイ　ビシャビシャシチャー
まったく　　もう　あれだよ　びしゃびしゃしては
　　11↑12
ナルホドネー　　（A　ン）　ヤルモンネー。
［びしゃびしゃに］なるほどねえ　（A　ん）　やるものねえ。

212A：キカイデ　スンナモン　　ネー。
　　機械で　　するのだもの　ねえ。

213D：マー　ギジツガ　アレダイノー　アガッチタンダイノー。
　　まあ　技術が　　あれだよねえ　上がってきたのだよねえ。

(B　エー)　アー。
(B　ええ)　ああ。

214C：ン　ソーソ。　　ソシテネ　ソレネ　　アレダー
ん　そうそう。　そしてね　それねえ　あれだ

ケーケン　ケーケンガ　イカシテアンダイネ。　(D　ンー)
××××　経験が　　活かしてあるのだよね。　(D　んー)

ケーヒ　ケーケンオ　イカシテ　イマ　ゲンダイノ　アー
×××　経験を　　活かして　今　　現在の　　ああ

ヨーサンニ　ナッタ　ワケダイネー。
養蚕に　　なった　わけだよねえ。

215D：ソーダネー。
そうだねえ。

216B：デモ　メスオスノ　カンベツオ　スルト
でも　雌雄の　　鑑別を　　すると

ホトンド　マチガイア　ナイネ。　(C　アッ)
ほとんど　間違いは　　ないね。　(C　あ)

ア　メスワ　ズーット　カゴエ　ゼンブ　フセテ　(A　アー)
あ　雌は　　ずっと　　籠へ　　全部　　伏せて　(A　ああ)

アノ　アナノ　アル　カミー　フ　シートイテ
あの　穴の　　ある　紙を　　×　敷いておいて

オトコア　オトコデネ。　アノ　ホカエ　アレシテ　マー
男は　　男でね。　　あの　他へ　　あれして　まあ

カケテッカラ　ミンナ　オシッコ　　サシタリ
かけてから　　みんな　おしっこ［を］　させたり

ミンナ　ソレ　タネ　ウマセルンダケド　クラヤミニ　シテネ。
みんな　それ　種　　産ませるのだけど　暗闇に　　してね。

（C　イマーネ）　ホトンド
（C　今はね）　　ほとんど

（C　ムカシャーネー　ソーユ　　コト　　ヤッタケドネー）
（C　昔はねえ　　そういう　こと［を］　やったけどねえ）

マチガイア　ナカッタン。
間違いは　　なかったの。

217C：イマワネー　カイコノ　ウチニー　ソノ　メスオス　カンベツ
今はねえ　　蚕の　　うちに　　その　雌雄　　鑑別

シチャーンスヨ。　　（B　ンッ）
してしまうのですよ。　（B　ん）

ダカラ　モ　カイコノ　ダケノ　ナッタ　カイコノ　ウチニ
だから　×　蚕の　　×××　×××　蚕の　　うちに

メスト　オストー　ワケチャーカラー　（B　エッ）
雌と　　雄とを　　分けてしまうから　（B　ええ）

イマー　アノ　ワク　　イレル　（B　ソーダイネー　エッ）
今は　　あの　枠［に］　入れる　（B　そうだよねえ　ええ）

ヒス　ヒツヨーワ　ネン。　　セワー　　ネン。
××　必要は　　ないの。　世話［が］　ないの。

218A：ジャ　ハッ　ニーレー〔64〕カ　サンレーデ　ワカルンカイ。
では　もう　２齢か　　３齢で　　わかるのかい。

219B：アッシアー　ソーユー　カンベツ　　シタンダヨ。
私は　　そういう　鑑別［を］　したのだよ。

220C：エッ？　ヤッ　ン　ニレー　サンレージャナイ。
えっ？　いや　ん　２齢　　３齢ではない。

ヤッパリ　ゴレーン　ナッテネ　（A　ゴレーニ　ナッテ）
やっぱり　５齢に　　なってね　（A　５齢に　　なって）

シッター　　デッカク　　ナンナケリャ
ちっとは［＝少しは］　でっかく［＝大きく］　ならなければ

ワカンネー　ン　（A　ンー　ンー）　シルシガ。　{笑}
わからない　×　（A　んー　んー）　印が。　　{笑}

（B　ワカルン。　アッ）　ンッ　オンナト　オトコノ　シルシガ、
（B　わかるの。　あ）　ん　女と　　男の　　印が、

シルシガ　ワカンネン。　（B　エッ）
印が　　わからないの。　（B　ええ）

トコロガ　イマネー　イマワ　ゴレーノ　アレダンベネー
ところが　今ねえ　今は　5齢の　あれだろうねえ

ヨッ　ヨッカ　イツカメーアタリッカラ　ハジメルカ　（A　ンー）
××　4日　5日目あたりから　始めるかも　（A　んー）

シンネーネー。（A　ンー）（B　ンー）
しれないねえ。（A　んー）（B　んー）

ンーデネー　カイコノ　ウチニ　ワケチャンスヨ。
そんでねえ　蚕の　うちに　分けてしまうのですよ

221A：ジャ　セワ　ナイネー。
では　世話［が］　ないねえ。

222C：セワー　ネン。
世話［が］　ないの。

223B：ソーインニ　ナッタンダイネ。
そういうのに　なったのだよね。

224C：ンッ　ムカシアー　キカイデ　ワケタリネー、　アノー
ん　昔は　機械で　分けたりねえ、　あのう

ブンリキーデ　カケタリ　イロイロ　ヤッタ　コト
分離機で［＝に］　かけたり　いろいろ　やった　こと［が］

アルンダネー。（A　アー）　ンダケド　イマワネー
あるのだねえ。（A　ああ）　それだけど　今はねえ

225B：オスワ　ツカレルカラ　エドー　ホットイテネー
雄は　疲れるから　井戸を　掘っておいてねえ

ホーレデ　イレトイタヨ。　（C　ソー）　ウチア。
それで　入れておいたよ。（C　そう）　うちは。

226A：ジャー　レーゾー　（B　ンッ）　シトイタン。
では　冷蔵　（B　ん）　しておいたの。

227B：モー。　ンッ。
もう。　ん。

228C：マ　レーゾーコッツンガ　アノ　トージア　ナカッタカラノー。
まあ　冷蔵庫というのが　あの　当時は　なかったからねえ。

229A：ンー。
んー。

230B：レーゾーコーノ　マネダイネー。
冷蔵庫の　真似だよねえ。

231C：ンデ　（B　エッ）　マー　アレダイ　イ　ヤ　イケ　イクラカ
それで　（B　ええ）　まあ　あれだよ　×　×　××　いくらか

アノ　オンドノ　ヒキー　トコー　オク　ッツーダケダンダネ。
あの　温度の　低い　ところ［へ］　置く　というだけなのだね。

（B　エッ。ソー）　（A　ンー）　タケート　ホラー。
（B　ええ。そう）　（A　んー）　高いと　ほら。

232B：パーッパ　サセレバ　チョーガ　ホラ　（A　ンー）
　　パーッパ　させれば　蝶が　　ほら　（A　んー）

　　ハネ　　ハタイチマーカラ。
　　羽［を］　はたいてしまうから。

233A：アー。　ナカナカ　タイヘンダッタネ。　（B　エッ）
　　ああ。　なかなか　たいへんだったね。　（B　ええ）
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　12↑13
　　イマ　　レーゾーコガ　アルカラ　セワー　　ネー。
　　今［は］　冷蔵庫が　　あるから　世話［が］　ない。

234B：マー　デ　カイコノ　サカリワ　クワー　キル　ッタッテー
　　まあ　で　蚕の　　盛りは　桑［を］　切る　といったって

　　ミザマ　　ッツー　デッカイ　ザマエ
　　「ミザマ」　という　大きい　籠へ

　　ミザマ　　オッツメホーデー　モッテキタノー
　　「ミザマ」［に］　押し詰め放題　　持って来たのを

　　イッペンデ　キルンダカラ。　キョーソーデ。
　　一遍で　　切るのだから。　競争で。

　　（A　ハー　アー）　ンー　アッチナンカ　ソレニ　キッタン。
　　（A　はあ　ああ）　んー　私なんか　　それに　切ったの。

　　イロイロ　ショードクー　ヨク　シナケリャ　（D　デー＊＊＊）
　　いろいろ　消毒［を］　よく　しなければ　（D　／／＊＊＊）

ダメナンダイネー　コラ　　タネワ、　ナーンタッテ　エッ。
駄目なのだよねえ　これは　種は、　　何と言っても　ええ。

235C：デー　　ムカ　ムカシアネー　アーノー　ワレワレワ
[それ] で　××　昔はねえ　　あのう　　我々は

ハジメテ　ヤッテ　ソンナ　トニカク　イチブマッカケダイネー。
初めて　やって　そんな　とにかく　一分真四角だよねえ。

ソレデ　キルンガ　ジョーズダ　ッツンダー。　ンデネー
それで　切るのが　上手だ　　というのだ。　それでねえ

ヤーケー　クワガ　　トッチキテー　イチブマッカクニ
柔らかい　桑が [＝を]　採ってきて　　一分真四角に

キリャー　シナビル　シナビル　ト　ユー　イワネーベーダイネー。
切れば　　萎びる　　萎びる　　と　いう　言わないばかりだよねえ。

ソレデ　イチンチニネー　モー　ショシューアタリ
それで　1日にねえ　　もう　初秋 [蚕] あたり [は]

ジューサンカイグライ　クレタンダ。
13回くらい　　やったんだ。

ネル　マガ　ネン。
寝る　間が　ないの。

236B：ダカラ　アレダガネ、　　クワダッテ　ナンダッテ。
だから　あれじゃない、　桑だって　　何だって。

237D：ソレダッテ　ムカシア　アレダイノー　コマッカク　キッタノーサー
それだって　昔は　あれだよねえ　細かく　切ったのをねえ

（B　エー）　アノー　クワオ　フリー〔65〕デ
（B　ええ）　あの　桑を　ふるいで

クリタ　コト　アルノー。
やった　こと［が］　あるねえ。

238C：ソッ　フリーデ　コレ　クリタコトガアル。
そう　ふるいで　これ　くれたことがある。

239B：ソーダヨ。　（A　ジャー）　（D　クワブリ　ッツンノー）
そうだよ。　（A　では）　（D　桑篩　というのを）

ミーデ　フーイタンダガネ。
ざるで　ふるったのじゃないね。

240D：ンー。　イマ　＊＊＊　ミテーニ　ソソッカニ〔66〕
んー。　今　＊＊＊　みたいに　大雑把に

テデ　ミンナ　コレ。
手で　みんな　これ。

241A：ンー。　イチバン　フリーデネ　フルッテ　クレタン。
んー。　いちばん　ふるいでね　ふるって　やったの。

（D　クレタ）　マーリ　コー　ボー　オイテネ。
（D　くれた）　回り［に］　こう　棒を　置いてね。

242D：ボー　オイテノー。
　　棒を　置いてねえ。

243A：シカクノ　ジョーギー　オイテー　ソデー　フリーデ
　　四角の　定規［を］　置いて　それで　ふるいで

　　コー　フニ　フルッテ。
　　こういう　ふうに　ふるって。

244D：アー　マー　テーネーダッタンダイノー。
　　ああ　まあ　丁寧だったのだよねえ。

245B：マッタク　アレダッタイネー。
　　まったく　あれだったよねえ。

246C：ヤッ　テーネー　＊＊＊。
　　いや　丁寧　＊＊＊。

247A：ソデ　ウエー　ノコッタン　キリッカエシテネー。
　　それで　上に　残ったの［を］　切り返してねえ。

248B：シナビチマーガンネ。
　　萎びてしまうじゃないねえ。

249D：ンッ　テーネーニ　カイスギタカラ　アレダイ
　　ん　丁寧に　飼い過ぎたから　あれだよ

　　オコサマ〔67〕　ダイジニ　シスギタン。
　　お蚕様［を］　大事に　し過ぎたの。

250B：エー。
ええ。

251C：トニカク　アラー　カイコサマ　オコサマダッタカンノ　ムカシアー。
とにかく　あれは　蚕様　お蚕様だったからねえ　昔は。

252D：アー　ムカシワ　オコサマ　オコサマダカラ、　サマダカラノー。
ああ　昔は　お蚕様　お蚕様だから、　様だからねえ。

アー。（A　{笑}）
ああ。（A　{笑}）

253C：アー　サマダ。　エレー　モンダ　ッツ。　{笑}
ああ　様だ。　偉い　ものだ　という。　{笑}

254B：ダカラ　（A　アー）　センヨー　ツクットイテ
だから　（A　ああ）　専用［桑を］　作っておいて

ユーガタ　イソイデ　ヨルー　トル　クワワ　ソーユーネ、
夕方　急いで　夜　採る　桑は　そういうね、

センヨーソー　トッタリサ　マニアーネーカラ。
専用桑を　採ったりね　間に合わないから。

マー　アレダッタネー　（D　ハテー　アレダンベガン）
まあ　あれだったねえ　（D　さて　あれだろうかな）

タネヤ　スルナ　ヨイジャナカッタネー。
種屋［を］　するのは　容易ではなかったねえ。

255D：バンシューノ　クワアタリニ　ナレバ　アレ　オレ
晩秋の　桑あたりに　なれば　あれ　俺［は］

ミタケド　カミトミダノ　ホー　イッテ　イッテ
見たけど　上富田の　ほう［へ］　行って　行って

ナンダカ　ヨーガ　アッテ　イッタ　トキニ、
なんだか　用が　あって　行った　時に、

ドコノ　ウチノ　ハタケモ、　ハタケニ　ミンナ
どこの　家の　畑も、　畑に　みんな

チョーチンノ　ブルワシゲテ　アッテー、　（B　ソーナンダヨ）
提灯を　ぶら下げて　あって、　（B　そうなのだよ）

ナンダ　ト　オモッタラ　ミンナ　クワツミナンダノ。
何だ　と　思ったら　みんな　桑摘みなのだね。

（B　エー　クワツミ）　アスコデモ　コッチデモ
（B　ええ　桑摘み）　あそこでも　こっちでも

ミーンナ　マニアーナクッテ　ヒルマ　ヤーダケラー　マー。
みんな　間に合わなくて　昼間　やるだけなら　まあ。

256A：ンー　マニアーナクッテネー。
んー　間に合わなくってねえ。

257B：ヒ　ヒガン　ヒガンギリ　シナケラネー　（D　ンー）
×　彼岸　彼岸切り　しなければねえ　（D　ううん）

センヨーワ　デキネーンダ。
専用［桑］は　できないのだ。

258D：ホーダカラネ　（B　エッ）　ヤッパシ　アノ　ソデ
そうだからね　（B　ええ）　やっぱり　あの　それで

ヨーキワ　スズシーカラ　ムリヤ　ネンダイノー。　（B　エー）
陽気は　涼しいから　無理は　ないのだよねえ。　（B　ええ）

ソダカラ　ミンナー　（B　エッ）　ソーナンダヨ。
それだから　みんな　（B　ええ）　そうなのだよ。

ガンバッテ　オソ　アサ　ハヤクッカラ　オソクマデ　クワトリ。
頑張って　××　朝　早くから　遅くまで　桑採り。

259B：ヨル　トル　クワワ　センヨーソー　ッツー。
夜［に］　採る　桑は　専用桑　という。

（D　アー）　{笑}
（D　ああ）　{笑}
13↑14
260D：マー　ソレカラ　ミルトサー　イマー　ハー　ドーモ
まあ　それから　見るとねえ　今は　もう　どうも

ミンーナ　カワッチャッテー　（C　ンー）　アレダナー
みんな　変わってしまって　（C　んー）　あれだなあ

（A　ンー）　ドコイデモ　トラックデサー　アー　（B　ネー）
（A　んー）　どこへでも　トラックでねえ　ああ　（B　ねえ）

ハ　ハサミデ　バキバキ　ハギッテキテ　（B　ソー）
×　鋏で　　バキバキ　切ってきて　　（B　そう）

ソノママ　サーット　クレチャー
そのまま　サーッと　やれば

ハー　（B　ソー）　イーンダカラー。　アー。
もう　（B　そう）　いいのだから。　ああ。

261B：ショーダレ　　ショータレデモ　ナンデモネー。
しょうたれ［＝びしょ濡れ］　しょうたれでも　何でもねえ。

262D：ソデ　ソノホーガ　（A　イー　ンッ）
それで　そのほうが　（A　よい　ん）

クワガ　アレダイノー　シンノ　ホーノ　ヤラケー　トコカラー
桑が　あれだよねえ　芯の　ほうの　柔らかい　ところから

カタイ　トコマデ　ミンーナ　タベチャッテー　（B　エー）
硬い　所まで　みんな　食べてしまって　（B　ええ）

（C　ソ　ソー　＊＊＊ッケカラネー）
（C　×　そう　＊＊＊／／からねえ）

オカイコガ　タベテー　モノドオー　ヤラケー　クワオ　フッ
お蚕が　食べたい　もの×を　柔らかい　桑を　××

アエデモ　カテー　クワモノー　ゼンブ　クッチャーンダカラノー。
あれでも　硬い　桑もねえ　全部　食ってしまうのだからねえ。

(B　エー)　ダカラ　セーセキガ　ンート　　イン。
(B　ええ)　だから　成績が　　うんと［＝とても］　いいの。

263A：ンダカラ　イマノ　ホーワ
それだから　今の　ほうは

(B　オーキク　シタケリャ　ソノヨーナ)　ネッ　イーンダイネ。
(B　大きく　したければ　そのような)　ね　いいのだよね。

264B：クスリ　アノー　クレレバ　フトルンダナンテネー。
薬［を］　あのう　やれば　太るんだなんてねえ。

(D　ンー　ンー)　ソレモー　ウチモー　マイタン。
(D　んー　んー)　それも　［私の］家も　まいたの。

(D　ソーサ)　エッ　ソスットー　マー　タシカニ
(D　そうね)　ええ　そうすると　まあ　確かに

ヘシテー　ヨケー　クーネ。
／／／　よけい［に］　食うね。

265D：ハー　ドーセ　アレダヨ　(B　エッ)　(A　アー)　アノー
もう　どうせ　あれだよ　(B　ええ)　(A　ああ)　あのう

(B　ダァラ　カイコー　フトルンダイネ)
(B　だから　蚕［が］　太るのだよね)

ジューブン　タベラレンダヨ。　アノー。
十分　食べられるのだよ。　あのう。

266A：ジャ　アノ　オクラセルンカネ　ソノ　クスリ　ッツンナ。
　　では　あの　遅らせるのかね　その　薬　というのは。

　　（B　エー）　ンー。
　　（B　ええ）　んー。

267C：オラ　ソーユン　ツカッタ　コター　ネーヤーナー。
　　俺は　そういうの　使った　ことは　ないね。

268B：ナニマン　ツンダッケナー。
　　何まん　というのだっけなあ。

269A：ウチア　ツカッタ　コター　ネーミタイヨ。
　　[私の] 家は　使った　ことは　ないみたいよ。

270B：ウチア　ツカッタノ。　（C　へー）　アー。
　　[私の] 家は　使ったの。　（C　へえ）　ああ。

271A：イチンチ　ヨケー　クレレバネ　（B　ンッ）
　　一日　よけい　やればね　（B　ん）

　　ンート　フトルアネ。
　　うんと　太るわね。

272B：ソー。
　　そう。

273D：マー　タシカニ　アレダイノー　（A　ンー）　アノー
　　まあ　確かに　あれだよねえ　（A　んー）　あのう

エダクワ〔68〕デ　クレタ　ホーガ　リョーワ　イッタンダノ。
枝桑で　やった　ほうが　量は　要ったのだね。

274C：ソデネ　ムカシアネー。
それでね　昔はねえ。

275A：アッ　ソレダラ　ソレデー　アレダガネー
あ　それなら　それで　あれじゃないねえ。

276B：ダッテ　キッテ　クレタヨリー　アノー
だって　切って　やった［の］より　あのう

エダクワノ　ホーガ　＊＊＊。
枝桑の　ほうが　＊＊＊。

277A：イー　トコト　ワリー　トコノ　アエダ
よい　ところと　悪い　ところの　あれだ

カタイント　ヤーラカインガ。
硬いのと　柔らかいのが。

278C：ミ　ミンナー　アガルマデ　ミンナ　コレデ　ヤッタンダカラ
×　みんな［が］　上簇するまで　みんな　これで　やったのだから

イマーネー　ンー　ジョ　ジョーデ
今はねえ　んー　××　［桑を］条で［＝棒のままで］

クッルカンネー。　（D　ンー　ンー）
やるからねえ。　（D　んー　んー）

シナビル　リツモ　（B　ソー）　スクネーヤネー。
萎びる　率も　（B　そう）　少ないよねえ。

279D：シ　シナビネンダイノー。
×　萎びないのだよねえ。

280A：ソデ　クーキワ　イーシネー　（B　ンー）　（C　ソー）
それで　空気は　よいしねえ　（B　んー）　（C　そう）

アケ　アケトクンダカラ。
××　開けておくのだから。

281B：ソー　ンー。
そう　ううん。

282D：アー　クッ　ソイデ　ムカシワ　クーキブソッ
ああ　××　それで　昔は　空気不足

283A：クーキガ　タンナカッタンダイネー。
空気が　足らなかったのだよねえ。

284D：タンナカッタ　タシカニ　タンナカッタノー。
足らなかった　確かに　足らなかったねえ。

クーキガ　タンネン。
空気が　足らないの。

285B：エッ。
ええ。

286A：ショシューナンツア　　アマド　　シメテネー　（B　ソー）
初秋［蚕］などというのは　雨戸［を］　閉めてねえ　（B　そう）

（D　＊＊＊）　ウラノ　ホーノ　　スコーシ　アケテ。
（D　＊＊＊）　裏の　　ほうの［を］　少し　　開けて。

287D：オラー　オキ〔69〕　オコス　コトガ　モッテーネー　ッツンデ
俺は　　炭火［を］　起こす　ことが　もったいない　というので

｛笑｝　（A　｛笑｝）　オキ　　オコシタッテ
｛笑｝　（A　｛笑｝）　炭火［を］　起こしたって

ソレデ　アケネーカッタカラノー。　（A　｛笑｝）
それで　開けなかったからねえ。　（A　｛笑｝）

ホーダカラ　ミンナ　オカイコーガ　アタマ　　イタクッテ
そうだから　みんな　お蚕が　　頭［が］　痛くて

ドーショモネン。　　アーッ。
どうしようもないの。　ああ。

288C：マー　シンセツガ　ドー　スゴシタンダイノー、
まあ　親切が　　度を　過ごした［＝越した］のだよねえ、

ムカシアー。　カイコガネー。　（A　｛笑｝）
昔は。　　飼い蚕がねえ。　（A　｛笑｝）

289D：ヨーサンギョーシャガ　＊＊＊。
養蚕業者が　　＊＊＊。

290A：シラナ　シラナカッタンダイネ。　（D　エッ？）
　　×××　知らなかったのだよね。　（D　えっ？）

　　クーキガ　タンナイツーノア　　シラナカッタ。
　　空気が　　足らないというのは　知らなかった。

291D：タンネンダヨ。　　ソーダヨ。
　　足らないのだよ。　そうだよ。

292B：ダカ　　イマー　センプーキー　イレタリ、　ネー　　（A　エッ）
　　だから　今　　扇風機［を］　入れたり、　ねえ　　（A　ええ）

　　クーキー　　イレルー　ドーグー　　カッテー　イレトクガネー。
　　空気［を］　入れる　　道具［を］　買って　　入れておくじゃない。

　　（A　エー）　ホーボーデ。　（A　＊＊＊）
　　（A　ええ）　方々で。　　（A　＊＊＊）

14↑15

293A：ムカシアー　アマドー　シメテ　ウラ　　チーットンベ　アケテネー
　　昔は　　雨戸を　　閉めて　裏［を］　少しばかり　　開けてねえ

　　（B　ソー）　（D　ソー　ソー）
　　（B　そう）　（D　そう　そう）

　　ホデー　ニンゲンナ　アツイカラ　スグ　ソトエ　デチャーカラ
　　それで　人間は　　暑いから　　すぐ　外へ　　出てしまうから

　　クワ　　クレレバ。　（D　{笑}）　（B　ソー）　ソレデ
　　桑［を］　やれば。　　（D　{笑}）　（B　そう）　それで

ゾーキンガケグライダモン　ネッ。
雑巾がけくらいだもの　　ねっ。

294C：＊＊＊　オソロシクテ　ミンナ　ヤッタンダケドネー。
＊＊＊　恐ろしくて　　みんな　やったのだけどねえ。

295B：デモ　タネヤノ　ホーデー。
でも　種屋の　　ほうで。

296C：トコロガ　クレーテ　クレー　　トキワネ
ところが　××××　［桑を］やる　時はね

コマカニ　キッタンガ　ジョーズー　キッタンダ　ッツッテー
細かに　　切ったのが　上手［に］　切ったのだ　と言って

マ　　シナビロ　シナビロ　ッツーヨーニ　キッタンダモノ
まあ　萎びろ　　萎びろ　　と言うように　切ったのだもの

アタリメーダイネー　イマー　カンガエテミレバ。
あたりまえだよねえ　今　　考えてみれば。

297B：ソーダイネ。　エッ。
そうだよね。　ええ。

298C：トージアネー　ソレガ　イー　ト　オモッテ　ヤッテタンダカラ。
当時はねえ　　それが　いい　と　思って　　やっていたのだから。

299A：アー　ホントニ　　ウデガ　イーンデネ　（C　ソー）
ああ　ほんとうに　腕が　　よいのでね　（C　そう）

ハバダッタワケ。
幅だった［＝幅がきいた］わけ。

300B：タマヤ　タネヤノ　ホーデ　タネー　イタメタ　コトモ　アッテ。
たまには　種屋の　ほうで　種［を］　傷めた　ことも　あって。

ネーッ。（C　ソー）　デンタイニ　コノー　ワクカラ　イッパイー
ねえ。（C　そう）　全体に　この　枠から　いっぱいに

カイコガ　アレシネーデ　コー　タネガ　シナビタヨーナー
蚕が　あれしないで　こう　種が　萎びたような

カイコガー　アッタンデ　イッペンニ　キュージュー〔70〕グレッツ
蚕が　あったので　いっぺんに　90［枚］くらいずつ

ハイタコトモ　アルヨ。（D　ウーン）　エッ。
掃いたことも　あるよ。（D　うーん）　ええ。

301C：フーン　{咳払い}　トニカクネー　アノ　ビリューシビョーノ　アル
ふうん　{咳払い}　とにかくねえ　あの　微粒子病の　ある

トキャーネー　（B　タネワ　モット　ヨケー　ハイッタケドモ）
ときがねえ　（B　種は　もっと　よけい　掃いたけれども）

モンダイダッタンダイネー。　ビリューシビョー　モー　ノー
問題だったのだよねえ。　微粒子病　もう　ねえ

ナンツッタッテー　ボタイイデンダカラネー　（A　ンッ）
何といったって　母体遺伝だからねえ　（A　ん）

デンセンシテルカラー　ソレ
伝染してるから　　それ

イッショケンメ　ジョーズ　　ヤッタッテ　デルンダカラ。
一生懸命　　上手［に］　やったって　出るのだから。

302A：ンデ　　ムカシワ　ビリューシ　ッツンガ　　アッタガネ。
それで　昔は　　微粒子　　というのが　あったじゃないね。

303C：ソー　ソー　ビリューシ。　（A　ネー）
そう　そう　微粒子。　　（A　ねえ）

304B：ビリューシガネー。
微粒子がねえ。

305A：スコシ　ヘター　　カイバ　ビリューシ。
少し　下手［に］　飼えば　微粒子。

306C：ヤッ　ヘタ　　カワーナクモネー　（A　ンー）
いや　下手［に］　飼わなくてもねえ　（A　んー）

アレア　ボタイイデンデネー　モー　タマゴン　ナカニ
あれは　母体遺伝でねえ　　もう　卵の　　中に

（D　アッタンダイネ）　スデニ　キンガ　ハイッテタンダカラ。
（D　あったのだよね）　すでに　菌が　　入ってたのだから。

307B：ンー。
んー。

308A：ンジャ　ジョーズ　ヘタデ　ナク　ンー、
それでは　上手　　下手で　なく　んー、

モトカラ　アッタン。
もとから　あったの。

309C：ソ　ソレワネー　モー　モトー　　ワリン。
×　それはねえ　もう　もと［が］　悪いの。

アラ　タネヤガ　ワリン。（A　ンー）　（B　ソーダヨネ）
あれは　種屋が　悪いの。（A　ううん）（B　そうだよね）

ビリューシノ　タネー　スルナー　タネヤガ　ワリン。
微粒子の　種［を］　するのは　種屋が　悪いの。

（B　エッ）　ソラ　ズイブン　ソイ　　コト
（B　ええ）　そら　ずいぶん　そういう　こと［を］

ジョージョニネー　ケンサワ　シ　シタンダケドネー　（A　ンー）
徐々にねえ　検査は　×　したのだけどねえ　（A　んー）

ヤッパリー　ケンサモレモ　アンダイネ。　（A　アッ）
やっぱり　検査漏れも　あるのだよね。（A　あ）

ソシテ　マイトシ　ソノ　ビリューシビョーノ　デル　サンヒツデ
そして　毎年　その　微粒子病の　出る　蚕室で

マタ　カエバ　タネニ　ナクモ　マタ　ソコエ
また　飼えば　種に　なくても　また　そこへ

デンセン　シテグワケダ。
伝染　　していくわけだ。

310B：ソーダイネ。
そうだよね。

311C：ンー。
んー。

312A：デ　ショードクワ　シナイモンネ。
で　消毒は　　しないものね。

313B：＊＊＊　ツユケガ　ノコルカラネ。
＊＊＊　露気が　　残るからね。

314C：ショードクワ　サイ　サイキ。
消毒は　　××　×××。

315A：タダ　キレーニ　ソージー　　シタグライデ。
ただ　きれいに　掃除［を］　したくらいで。

316C：サッキ　ユッタヨーニ　アノー　（A　ン）　ホントニ
さっき　言ったように　あのう　（A　ん）　ほんとうに

オマジナイ　（A　{笑}）　ノ　ショードク　ナンダカラ。
おまじない　（A　{笑}）　の　消毒　　なのだから。

317D：アノ　ジブンワ　アレカネー　アノー　ヨクサ　アノー
あの　頃は　　あれかねえ　あのう　よくね　あのう

15↑16

群馬 16-1

コッチノー　トチノー　タネヨリワ
こっちの　　土地の　　種よりは

シンシューダ　ダネノ　ホーガ　イー　ッツンデサー
信州×　　種の　　ほうが　よい　というのでねえ

シンシューノー　イマノ　ニカセーダイノ　（B　エー）
信州の　　今の　　二化性だよね　　（B　ええ）

イチバン　カイイー　　シュルイオ、
いちばん　飼いやすい　種類を、

シンシュダネオ　ヨコッタンダイノー。　（B　エッ）
信州種を　　寄越したのだよねえ。　（B　ええ）

ソダカラネー、　　アノー　ジモトノ　タネワ
それだからねえ、　あのう　地元の　　種は

ミンナ　マイッチャッテモ　（B　ンッ）
みんな　参ってしまっても　（B　ん）

シンシューノ　タネ　　ハイタ　ヒトワ
信州の　　種［を］　掃いた　人は

ミンナ　マイ　　トッ　トルン。
みんな　繭［を］　×　　採るの。

ソノ　カーシ　マイワ　ワリカッタケンドー、　（C　ンー）
その　代わり　繭は　　悪かったけれど、　　（C　んー）

イックラ　マユガ　ワルクモー　（A　ンー）
いくら　繭が　悪くても　（A　んー）

トレレバ　イー　ッツン。
採れれば　よい　というの。

318A：ウレナケラネー。
売れなければねえ。

319C：トージワネー　（A　ンッ）　イッカセート　ニカセーノ
当時はねえ　（A　ん）　一化性と　二化性の

マユワネー　ゼンゼン　チガッタンダイネー。　（D　ンー　ンー）
繭はねえ　全然　違ったのだよねえ。　（D　んー　んー）

イッカセーツンナ　イチネン　イッカイ　デネーカラー。
一化性というのは　一年　一回［しか］　出ないから。

ダケドネ　マイガ　ヨカッタンダヨ。　（D　ンー　ンー）
だけどね　繭が　よかったのだよ。　（D　んー　んー）

ソッデネ　ヨクッテネ　ソレガネー　アキー　マー　ア
それでね　よくてね　それがねえ　秋に　まあ　あ

アキノガ　カッテネ　ア　イッカセーオ　カッテミロ　ッテ
秋のが　飼ってね　あ　一化性を　飼ってみろ　って

カッテミテ　ソレ　セーコーシネン。　ダメナルン。
飼ってみて　それ［が］　成功しないの。　駄目［に］なるの。

(D フン フン) ソデ イッカ イッカト ニカノネー
(D ふん ふん) それで 一化 一化と 二化のねえ

コーハイオ コセーテミタン。 ソッデモ ヤヤ ヨカッタケドネー
交配を 拵えてみたの。 それでも やや よかったけれどねえ

ケッキョクワネ ノコッタンノワ ニカ ニカダイ ニカ ニカダイネ。
結局は 残ったのは 二化 二化だよ 二化 二化だよね。

ダカラ ハル、 イマワネ アノー ニカセーオネー
だから 春、 今はね あのう 二化性をねえ

ハル カッテ、 ソ ソイツオ ハル カウンニ
春［に］ 飼って、 × そいつを 春 飼うのに

テーオンデ サイセースルト ニカスルカラ (B ンッ)
低温で 催青すると 二化するから (B ん)

コーオンデ サイセスンダヨ。 マ ナナジューゴロクドダ。
高温で 催青するのだよ。 まあ 75、6度だ。

＊＊＊ ソースット イエバネ。 ソースト ハー
＊＊＊ そうすると 言えばね。 そうすると もう

ニカセーデ アッテモ ニカキ〔71〕ノ セーセキガ デンダイネ。
二化性で あっても 2かきの 成績が 出るのだよね。

ソイツオネー コンダー タマゴー ウマシテ
そいつをねえ 今度は 卵を 産ませて

マー　ジンコーフカデ　エンサンショリ　シテ　（B　エー）
まあ　人工孵化で　塩酸処理［を］　して　（B　ええ）

ソエデ　アノー　ンー　ショシュートカ　バンシューノ
それで　あのう　んー　初秋［蚕］とか　晩秋［蚕］の

タネ　デキルン。（B　ソーダイネッ）
種［が］　できるの。（B　そうだよね）

ムカシアネ　アーノ　ソレ　イッカセーノ　アキー　ウマシタノ
昔はね　あの　それ　一化性の　秋に　産ませたの

アー　マー　ウチアタリ　アカギヤマノサー
ああ　まあ　［私の］家あたり［では］　赤城山のねえ

フーケツ　ッテー　（D　フ　フーケツダンベノー）　（B　エー）
風穴　って　（D　×　風穴だろうねえ）　（B　ええ）

ジゴクダニ〔72〕ニ　モッテッテネー　（B　エー）
地獄谷に　持って行ってねえ　（B　ええ）

シマッタンダヨ。　ソイツオネー　モッチキテー
しまったのだよ。　そいつをねえ　持ってきて

マー　ミンナニー　カッテモラッタ　ワケダケドネー。
まあ　みんなに　飼ってもらった　わけだけどねえ。

320B：コノ　ヒトノ　ウチカラ　アノー　X９サンノ　ウチア　タノンデー、
この　人の　家から　あのう　X９さんの　家は　頼んで、

エー、　ソレデッ　ネッ。　（C　アー）　アー。　＊＊＊。
ええ、　それで　　ね。　（C　ああ）　ああ。　＊＊＊。

16↑17

321D：ソダカラ　　ムカシダカラ　フーケツダカラ　アッタンベー。
それだから　昔だから　　風穴だから　　あったのだろう。

（B　センセー　センセー　ッテ　イワレテ）
（B　先生　　先生　　って　言われて）

ミンナー　アノ　タネオ　クレーガネ。
みんな　　あの　種を　　黒いじゃない。

イマー　ミンナー　アレダイノー　アノー
今は　　みんな　　あれだよねえ　あのう

ニカデ　アレダカラ　タネガ　シレーガノー。
二化で　あれだから　種が　　白いじゃないねえ。

322C：シレーカイ？　シロクネーハズダヨ。
白いかい？　　白くないはずだよ。

323D：キーロミテナ。　マッ　アノ　ハイル　トキン　ナルト
黄色みたいな。　ま　　あの　入る　　時に　　なると

イロガ　カワルケンドサ。
色が　　変わるけれどね。

324C：ン　アンネー　ンーダ　トキア　キーレーヤネ。　（D　ウン　ウン）
ん　あのねえ　産んだ　時は　　黄色いよね。　（D　うん　うん）

ダケ　　ソノママネー　アノー　レーゾーシチャンダヨ。
だけ［ど］　そのままねえ　あのう　冷蔵してしまうんだよ。

(D　ハー　ハー)　ジンコーエットーズイキシンセン　ツッテネ。
(D　はあ　はあ)　「人工越冬随時浸酸［法］」　といってね。

(B　ン　ンー)　ジンコーニ　エットースン　フユー　コセーテー
(B　ん　んー)　人工に　越冬するの　冬を　こしらえて

ソデー　アノー　ハク　ジキネ　エー　トーカマエトカ　ト　イッテ
それで　あのう　掃く　時期ね　ええ　十日前とか　と　いって

エンサンノ　ナカニ　ツケン。　ジンコーフカ　スン。
塩酸の　中に　漬けるの。　人工孵化　するの。

ソースト　カンゼンニ　ジ　ソノ　ヒマワリデ　デルンダカラー。
そうすると　完全に　×　その　日回りで　出るのだから。

(D　ハハー)　ンー。　イマ　ソノ　ホーホーダロー　ト
(D　ははあ)　んー。　今　その　方法だろう　と

オモンダー。　オレモ　ハナレテルカラ　ワカンネーン。
思うのだ。　俺も　離れているから　わからないの。

ジューネンベー　(B　ンー)　ホトンド　ハナレテルカラ。
10年ばかり　(B　んー)　ほとんど　離れているから。

325D：＊＊＊
＊＊＊

326B：ソノ　ツグノトシニャ　アラコノ　X10サンガ　キテネ　ミナライニ
その　次の年には　荒子の　X10さんが　来てね　見習いに

（A　ハー）　ヨーサンノ　ホーノ。　アノ　ヒトガ　ニネン。
（A　はあ）　養蚕の　ほうの。　あの　人が　2年。

327A：タネヤサンダカラ。　（B　アッ）　アッ。
種屋さんだから。　（B　あ）　あ。

328B：ソノ　マエワ　X11サンガ　キテ　ア
その　前は　X11さんが　来て　あ

センセー　センセー　ツッタンダケドネ。
先生　先生　って言ったのだけどね。

アノ　ヒトモ　ツイン　ナクナッチャッタケドサ。
あの　人も　ついに　亡くなってしまったけどね。

ダケド　ソノ　アイサニ　ウチワ
だけど　その　間に　[私の]家は

カジガ　アッタカラネー　コレデ　マイッチャッタケド
火事が　あったからねえ　これで　まいってしまったけど

（A　ンー）　マー　ンデモ　タネモ　ミンナ　ダシタカラ
（A　んー）　まあ　それでも　種も　みんな　出したから

ツグトシ　モー　ツグハル　ハー　スル　シタクデ。
次の年　もう　次の春　もう　する　したくで。

クレノ　ニジューゴンチニ　マー　ヨソカラ　タノンダ　ヒトガー
暮れの　25日に　　まあ　よそから　頼んだ　人が

ヤガクニ　イッチテー　ソーノ
夜学に　行っていて　その

ショージー　チョーチン　ツルシッパナシナンデ、
障子に　提灯［を］　つるしっぱなしなので、

ソーレデ　ソッカラ　ヒガ　ハジマッテ　モー、
それで　そこから　火が　始まって　もう、

ドンドン　ドンドン　モエル　サーギダカラー
どんどん　どんどん　燃える　騒ぎだから

ゴネンモ　フカッテ　ケヤキー　ヒノキー　ナンツー
５年も　かかって　欅に　檜に　何という

イライ　トコノマダノー、　マーリジュー　ローカモ　アッテ
偉い　床の間だの、　まわり中　廊下も　あって

チャントシテー、　ヒカルヨーナ　ウチダッタ　ッツーケド。
ちゃんとして、　光るような　家だった　というけど。

アッチモ　ソラー　チッター　オボエテルケドモ。
私も　それは　少しは　覚えているけれども。

モーネー　ヤケテ　ソッデモ　ソノ　ヒトノ　セイデ　ヤケタケド
もうねえ　焼けて　それでも　その　人の　せいで　焼けたけど

17↑18

（C　ンー　ソーダッタイネー）　＊＊ダヨー　ソッデモ
（C　んー　そうだったよねえ）　＊＊だよ　それでも

タネ　　ムサナカッタカラネー　（C　アー）
種［は］　燃さなかったからねえ　（C　ああ）

ホーレデ　マタ　（C　タネワ）　ゼンブ
それで　また　（C　種は）　全部

ガワクダナンツ　　モシチャッタノ
蛾枠だなんていう　燃しちゃったの［を］

マタ　ツグトシ　　カッタンダヨ。
また　次ぐ［＝次の］年　買ったのだよ。

329C：タネ　　シマッテアッタカンネー。　（B　モー）
種［は］　しまってあったからねえ。　（B　もう）

ウチ　　オカネーカラネー　（B　エー　エー）　フユワー。
家［に］　置かないからねえ　（B　ええ　ええ）　冬は。

330A：ジャ　ヨカッタンネ。
では　よかったのね。

331B：コッチカラ　ムコーマデ　ハコー　ナラベタッテ
こっちから　向こうまで　箱を　並べたって

テンデ〔73〕　ミトースホドー　アッタンダヨ。　（A　ンッ）
まったく　見通すほど　あったのだよ。　（A　ん）

ホーレガ　ミンーナ　マタ　ツグトシ　カッテ、
それが　みんな　また　次の年　買って、

マタ　タネヤ　シタンダヨネ。
また　種屋［を］　したのだよね。

332A：ア　ソレマデー　ウチ　ツクッテ。
あ　それまで［に］　家［を］　作って。

333B：アッ　ツクッタン。（A　ハー）　アノネ　クレノ
あ　作ったの。（A　はあ）　あのね　暮れの

ニジューゴンチニ　ヤケテサー　ソレカラ　ハジメテネ
25日に　焼けてねえ　それから　始めてね

アタシノー　アイテガ　マー　ナカラ〔74〕　キマッテ　イタンデ、
私の　相手が　まあ　ほとんど　決まって　いたので、

ソレデー　ソノ　ヒトモ　キテクレ、
それで　その　人も　来てくれ、

タノミテー　ッテ　キテクレテー、　ナワー　ナッテ、
頼みたい　って　来てくれて、　縄［を］　なって、

コデナワ〔75〕　ナッテ、　ソノー　カベダノ
小手縄［を］　なって、　その　壁だの

ナンツー　アーユー　コーマイー〔76〕　ッツーノ　カイタリネ
なんという　ああいう　木舞　というの　かいたりね

ホッデー　ヨンジューニン　ツー　　コビキ、　エー
それで　　40人　　　　　　という　／／／、　ええ

ソノ　アレダイネ、　コー　「エンヤラサー」スル　ヒトダノネ
その　あれだよね、　こう　「エンヤラサー」する　人だのね

（A　エー）　ミンーナ　キテクレテ、
（A　ええ）　みんな　　来てくれて、

アタシガ　トノコヌリ〔77〕　イロイロナ　コトー　シテ、
私が　　とのこ塗り　　いろいろな　ことを　して、

アノー　サンガツノ　サンジューイチンチマデニ
あのう　３月の　　31日までに

ソノ　ウチオ　ツクリアゲテネ。　イマノ　ウチオ　ツクリアゲテ
その　家を　　造りあげてね。　　今の　　家を　　造り上げて

ソレデ　マー　タネヤ　　シタンダカラネー。
それで　まあ　種屋［を］　したのだからねえ。

334A：ジャー　イソガシカッタネー。
では　　忙しかったねえ。

335B：ソーダカラ　ソレデ　サンジューイチンチニ　（A　エッ）
そうだから　それで　31日に　　（A　ええ）

アタシノ　ムコー　トッテ　（A　ハァー）　ソレデ
私の　　婿を　　とって　（A　はあ）　　それで

ソレカラ　ソレカラ　ジューシチネン、　ンー　ソノ
それから　それから　17年、　んー　その

ホンケニ　イテー　ジューシチニングラシ。　ソレデ
本家に　いて　17人暮らし。　それで

336A：ズイブン　オーショタイネ。
ずいぶん　大所帯ね。

337B：ソレデ　エッ。　ショーワキューネン、　ショーワキューネンニ
それで　ええ。　昭和９年、　昭和９年に

モコーエ　ワカレタ　ワケ。　（A　ハー）　シンタクノ　ホーイ。
向こうへ　分かれた　わけ。　（A　はあ）　新宅の　ほうへ。

ダケドネー　モー　オージョタイダカラ
だけどねえ　もう　大所帯だから

イクショタイモ　アッタンダカラー。
何所帯も　あったのだから。

アタシノ　（A　エッ）　キョーダイ、
私の　（A　ええ）　兄弟、

アタシノ　ダンダン　コドモガ　デキタリ、
私の　だんだん　子どもが　できたり、

18↑19
シンタクノ　コドモガ　ア　ゴニンモ　イタリ、　（A　アー）
新宅の　子どもが　あ　５人も　いたり、　（A　ああ）

オジサン、　オバサン、　ミンナ　イタカラネー。
おじさん、　おばさん、　みんな　いたからねえ。

モー　ダカラ　ジューシチニングラシダッタヨ。
もう　だから　17人暮らしだったよ。

338C：へー。（A　アー）　ソンナ　　イタッタカノー
へえ。（A　ああ）　そんな［に］　いたものだったかねえ

アン　トージ。
あの　当時［は］。

339B：ソダカラ　　ゴショーダキモ
それだから　5升炊きも

（A　カイ　カイシャミテーダネ。　{笑}）
（A　××　会社みたいだね。　{笑}）

カー　ゴショーダキモ　カーシ　ナンツンデネ。
××　5升炊きも　　買うし　などというのでね。

340A：ジューシチニンモ　イリャーネ。　エッ。
17人も　　いればね。　ええ。

341B：ゴショーダキノ　カマーイ　チャント　ゴハンガ
5升炊きの　　釜に　　ちゃんと　御飯が

シカケテアッタンダケド、　　ソレガ　ミンーナ
しかけてあったのだけれど、　それが　みんな

マイッカタ〔78〕イ　モチダシタカラ、
前の方へ　　持ち出したから、

コレア　ニカイカラ　ハジマッタンダ　ッツー。
これは　2階から　始まったのだ　という。

ハー　カケッチキタッテ　　アー
もう　駆けて［＝走って］来たって　ああ

ニカイカラ　ハジマッタンダ　ハジマッタンダッテ、　クルケドモ、
2階から　始まったのだ　始まったのだって、　来るけれども

ソレガ　ヒトー　モツ　コトガ　デキネーンデ
それが　人を　／／　ことが　できないので

タツミー　カゼガ　フイタカラネ。
辰巳に　風が　吹いたからね。

エンキョンチノ　ホーエ　ミーンナ　キガ　トンデグン。
隠居の家の　ほうへ　みんな　木が　飛んでいくの。

スギノー　チュート〔79〕デ　ボーッボーッテ　モエテルンダヨ。
杉の　中途で　ぼうぼうって　燃えているのだよ。

（A　アー）　ンデ　コッチワ　イライ　タカヤブダンベ？
（A　ああ）　それで　こっちは　偉い　竹藪だろう？

コーンナ　フテー　タカガ　ンート　アッテ、
こんな［に］　太い　竹が　うんと［＝たくさん］　あって、

マー　ヤマノ　ダイジン　ッテ　ユワレタンダカラ
まあ　山の　　資産家　　と　　言われたのだから

コッチー　スギモ　アッタケド、
こっちに　杉も　　あったけれど、

スッカリ、　ソレーモ　イーカゲン　ノコッテルケドモ　　タオシテ
すっかり、　それも　　いいかげん　残っているけれども　倒して、

ソレオ　ゼンブ　ザイモクニシテ、　ドンドンシテ
それを　全部　　材木にして、　　どんどんして

サンジューイチンチマデニ、　サンガツノ。
31日までに、　　3月の。

342A：ハー　タイヘンダッタネー。
はあ　たいへんだったねえ。

343B：エー　ソーレデ　タイヘンダヨ。
ええ　それで　　たいへんだよ。

344C：マ　　ザイバツ〔80〕ダカンネー。
まあ　財閥だからねえ。

345B：ンートニ　　タイヘンダヨ。
ほんとうに　たいへんだよ。

346A：ンー　ザイバツダカラ　デキルケドネ。
んー　財閥だから　　できるけれどね。

347C：ダカラ　デキルケド　　フツージャ　デキネーヨ。
　　だから　できるけれど　普通では　　できないよ。

348A：エー　チカラノ　ネー　ヒトダラ　デキネーヨ。
　　ええ　力の　　ない　人なら　　できないよ。

349C：ンー　フツージャ　デキネーヨ。
　　んー　普通では　　できないよ。

350B：モーネ　ナントカ　オカイコー　シナクチャー
　　もうね　なんとか　お蚕を　　しなくては

　　タネヤ　　シナクチャー　ショーガネー　ツンデ　　ソノ
　　種屋［を］　しなくては　　しようがない　というので　その

　　オジーサンワー　ウーマン　ノッテモ　ヨーサンキョーシー　シテ　エ
　　おじいさんは　　馬に　　乗っても　養蚕教師［を］　　して　×

　　ミンナ　シドーシテ　アルッタンダカラ。
　　みんな　指導して　　歩いたのだから。

351A：X12サンガ。
　　X12さんが。

352B：アッ。　ソーダヨ。　（A　ハー）　ヤガクダッテー
　　あ。　　そうだよ。　（A　はあ）　夜学だって

　　オテラマデ　イッテー　オセータンダシネ。　（A　ンー）
　　お寺まで　　行って　　教えたのだしね。　　（A　んー）

ソレデー　ソノ　サンジューイチンチニ　ゴシューギーシテ
それで　その　31日に　ご祝儀して

ソレカラ　ズーット　ジューシチネン　ホンケニ　イタノ。
それから　ずーっと　17年　本家に　いたの。

353A：ハー　ナガカッタネー。　ジューシチネンジャ。
はあ　長かったねえ。　17年では。

354B：エッ。　ジューシチネン。　ソレデ　ショーワキューネンニ
ええ。　17年。　それで　昭和9年に

ワカレテ　コッチー　キタケドモ、　オバーサンガ
分かれて　こっちに　来たけれども、　おばあさんが

ジューシチ　ンー　キューネンノ　ジュー、　シ　クガッ
17［年］　んー　［1］9年の　×××　×　×××

アレダ　アー　トージノ　ヒニネ
あれだ　ああ　冬至の　日にね

アノー　コンニャクダンナンツー　ニテ　タベル　ヒニ
あのう　蒟蒻だなんていうの［を］　煮て　食べる　日に

ソノ　ヒニ　ジューシチンチニ　コッチー
その　日に　17日に　こっちに

クレノ　ニジュ　アノー、　ジューシチンチニ　キテ
暮れの　×××　あのう、　17日に　来て

19↑20

ヨカッタナー　コンナケノ　ウチガ　デキチャー
「よかったなあ　これだけの　家が　できては

ココエ　セキ〔81〕ガ　アレバ　ココイ　イマ　ヒトツ
ここへ　場所が　あれば　ここへ　もう　一つ

オシーレ　ツクッテモ　エーヤナー　ナンテ。
押し入れ［を］　作っても　いいなあ」　なんて。

ソデー　アノー　シテ　アタシガ　ツイテキテ、　ンデ　ミテ
それで　あのう　して　私が　連れて来て、　それで　見て

ソノ　オバーサンワ　スグネ　ジューシチンチニ　キテ
その　おばあさんは　すぐね　17日に　来て

ハー　ニジューロクンチニ　シンジャッタノ。
もう　26日に　死んでしまったの。

355A：オバーサン　ッツート　ダレダ。
おばあさん　ていうと　誰だ。

356B：X13オバーサン。
X13おばあさん。

ヤマグチ〔82〕　アノ　オーヤカラ　キタ　オバーサン。
山口　あの　大屋から　来た　おばあさん。

357A：ハー　シラネンネ。
はあ　知らないのね。

358C：アー　シラネン。
　　ああ　知らないの。

359B：ソーレデ　ソイ　リッパナ　ヒトダッタケドネ　（C　アー　アー）
　　それで　××　立派な　人だったけどね　（C　ああ　ああ）

　　（A　アー）　チャントシタ　ヒトダッタケドネー
　　（A　ああ）　きちんとした　人だったけれどねえ

　　アタシニ　（C　アノ　ヒゲー）　ナンデモ　イロイロ。
　　私に　（C　あの　髭［を］）　何でも　いろいろ。

360C：ヒゲノ　コー　ハエタ　オジーサンナラ　シッテルケド。
　　髭の　こう　生えた　おじいさんなら　知っているけれど。

361B：エッ　ソノ　X14オジーサンノ　アイテ。
　　ええ　その　X14おじいさんの　相手。

362C：X14ツンカ。　アノ　ヒトアネ。
　　X14っていうのか。　あの　人はね。

363B：エッ。　ソレデ　アレダヨ
　　ええ。　それで　あれだよ。

364A：ハナレテルカラ　ゼンゼン　シラナイ　ソノ　オジーサン。　アー。
　　離れているから　ぜんぜん　知らない　その　おじいさん。　ああ。

365B：モー　ジューシチンチニー。　ウチノ　ホー　ミー　キテー
　　もう　17日に。　家の　ほうを　見に　来て

ソレデー　ニジューロクンチニ　シンダンダカラ　モー　ネー
それで　26日に　死んだのだから　もう　ねえ

（A　ウーン）　ロースイデワ　アッテモ
（A　んー）　老衰では　あっても

アタシア　ワカレルンダシ　ソレガ　ツラクッテー
私は　別れるのだし　それが　つらくって

オチコンダンダンベッ　（D　アー　ソッカ　＊＊＊）
落ち込んだのだろう　（D　ああ　そうか　＊＊＊）

ツンデ　スグー　イツース　モチー　ツイテネ
というので　すぐに　5臼［の］　餅［を］　ついてね

ソレデ　ヒトニー　（C　＊＊＊カイ）　オモチー　イタダクナー
それで　人に　（C　＊＊＊かい）　お餅［を］　いただくのは

ネッ　アレダカラ　ソーユー　コトナンダヨ。
ね　あれだから　そういう　ことなのだよ。

366D：ヨク　ワカラネン。
よく　わからないの。

367C：ナンダ　キオクガ　ネーナー　オレモ。
なんだ［か］　記憶が　ないなあ　俺も。

20↑

群馬県前橋市1983注記

〔1〕ナツゴ

夏蚕。6月下旬から7月中旬にかけて飼育する蚕。

〔2〕アガッタ

「アガル」は，上蔟する，の意。上蔟は，繭をつくらせるために，蚕を蔟（まぶし）の上に乗せること。上蔟させることは，「アゲル」という。

〔3〕マエダシ

繭出し。製品として，繭を出荷すること。

〔4〕コモリ

篭もり。蚕が繭の中に籠もっても，さなぎにならないものらしい。

〔5〕オチル

蚕が繭を作らない［＝さなぎにならない］で，蔟から落ちること。

〔6〕ジョーゾク

上蔟。繭を作らせるために，蚕を蔟の上に乗せること。

〔7〕クズモン

屑物。製品として出荷できない繭。

〔8〕ウスカッタ

桑が少ない状態。多いことは，「アツイ」という。

〔9〕ハキタテ

孵化した毛蚕（けご）を，蚕卵紙から掃き取って，他の紙，または蚕座へ移すこと。また，移してすぐの時期。

〔10〕メドキ

花の咲く桑の木。

〔11〕メド

花の咲く桑の木。また，桑の花の蕾も「メド」という。

〔12〕サンシュ

三種。蚕（卵・繭）の種類。日本種・支那種・欧州種などがある。

〔13〕アオジク

青軸。桑の種類。

〔14〕アカジク

赤軸。桑の種類。

〔15〕ビリューシビョー

微粒子病。蚕の病気。蚕が幼虫の初期，微粒子病原体に感染すると，小さな黒褐色の斑点が生じて，発育できずに死んでしまう伝染病。「ビリューシ」ともいう。

〔16〕ワクセー

枠生。蚕に卵を生ませるために入れる枠。一つの枠に一匹ずつ入れる。

〔17〕ザマ

背負い籠。背負うためのひもを取りつけてある籠。

〔18〕サンギョー

群馬県蚕業試験場。

〔19〕バンシュー

晩秋蚕。８月下旬から９月の彼岸頃にかけて飼育する蚕。

〔20〕コーカビョー

硬化病。蚕の病気。糸状菌の寄生によって起こり，屍体が硬化する。「オシャリ［＝白彊病］」ともいう。

〔21〕オシャリ

白狂蚕。蚕の病気で，硬化病の一種。また，さなぎにならずに，蔟から落ちて，黒く硬化した蚕のことも指す。

〔22〕ニッシュコーバイ，ニッシコーハイ

日支交配。蚕の日本種と支那種を交配してできた種。

〔23〕イッカセー

一化性。一年に一回しか，卵から孵化しない性質の蚕の卵の種類。

〔24〕サイセーシ

催青紙。蚕が卵を生みつける紙。その紙の上で，温度・湿度・光線などを調節して，蚕の卵を孵化させる。

〔25〕テーオンサイセー

低温催青。蚕種を15～20℃の温度で孵化させること。

〔26〕ニカ

二化性。温度調節をして，低温で孵化させると，１年に２回孵化する性質の，蚕の卵の種類。同じように温度調節しても，１年に１回しか孵化しないものを，「一化性」という。

〔27〕イッカキ

意味不明。

〔28〕ナマダネ

生種。蚕卵を，冷蔵しないで孵化させる場合の卵。

〔29〕センド

繊度。繭の糸の太さ。単位はデニール。

〔30〕ガワク

蛾枠。蚕に卵を生ませるための紙。

〔31〕デニール

絹糸・ナイロン糸などの太さを表す単位。糸の太さは直径の測定が困難なので、質量と長さとの比で表す。長さ450mで，質量が0.05ｇのものを１デニールとする。

〔32〕ナカ

中。繭の糸の太さの単位。

〔33〕フーエーカン

豊栄館。話し手Ｃ氏宅の，種屋としての名称。

〔34〕フーサンカン

豊蚕館。話し手Ｂ氏宅の，種屋としての名称。

〔35〕ツユケー

露気。この場合，水滴のついた桑の葉のこと。

〔36〕シュジュンコー

話し手Ｂ氏の兄。

〔37〕ヒカリッパ

光葉。桑の枝の上から４枚目くらいの光っている葉。

〔38〕アラコ

地名。荒子。下富田から約２㎞東方の町名。

〔39〕オモロ

地名。大室。赤城山の南山麓の端にある。

〔40〕シャコー

社交。蚕卵を売って歩くこと。

〔41〕ヨッタリ

４人。「よたり」の変化した語。

〔42〕ニジューニヤサマ

二十二夜様。二十二夜待ち。月待の行事のひとつで，村人が当番の家などに集まり，旧暦二十二夜の月の出を待って，拝み，まつること。

〔43〕ショーギー

竹で編んだ笊のようなもの。一部に枠がなく，食品の水切りなどに使う。

〔44〕ヒール

蚕の蛾の方言形。

〔45〕ボーヤサン

坊ちゃん。ぼんぼん。

〔46〕セタノー

群馬県立勢多農林高等学校。

〔47〕ウツボイ

地名。笊井。前橋市の桃ノ木川流域にある。

〔48〕コワイ

「堅い」の意味。「疲れる」・「強い」の意味では使われない。

〔49〕グンマーアカギ

群馬赤城。桑の種類。

〔50〕オーシマソー

大島桑。桑の種類。

〔51〕トミエソー

富栄桑。桑の種類。

〔52〕オーシマリョソー

大島りょ桑。桑の種類。

〔53〕カシューサンセンヨーソーイン

夏秋蚕専用桑園。

〔54〕イチノセー

一の瀬。桑の種類。

〔55〕コースイシャ

交水社。紡績会社の名称。

〔56〕シッパクリ

やりそこない，しそこない，失敗，といった意味。

〔57〕マツッポグリ

松毬。松かさ。

〔58〕ハギル

はさみを使って，ものを切ること。包丁などで，ものを切りきざむ場合には使わない。

〔59〕ニワ

庭。五齢期。４回目の脱皮をすませた蚕。

〔60〕ゲー

「ものの上」の意。何かのものの上でなく，単に上方をいう場合には，「ゲ」は使わない。

〔61〕ショシュー

初秋蚕。７月の末から８月22日頃にかけて飼育する蚕。

〔62〕サンシツ

蚕室。蚕を飼育するためにのみ使う建物。

〔63〕ドブロイク

土室育。群馬式稚蚕簡易飼育。補温・補湿・換気装置や屋根のついた厚壁土造りの約１間四方の飼育室を１単位とする飼育施設で，稚蚕を飼育する方法。

〔64〕レー

齢。蚕の発育・大きさを示す単位。

〔65〕フリー

ふるい。

〔66〕ソソッカニ

「大雑把だ」・「いい加減だ」という意味。

〔67〕オコサマ

蚕のこと。「オコサマ」とか「オカイコ」のように言った。養蚕は，重要な収入源であったので，子供を育てるように丁寧に大事に扱った。

〔68〕エダクワ

枝桑。一葉一葉摘んで蚕に与える桑に対して，枝ごと切って与えるものをいう。

〔69〕オキ

炭火。火勢が盛んで赤く熱した炭火。または，薪が燃えたあとの赤くなったもの。

〔70〕キュージュー

催青紙で90枚という意味。１枚の催青紙から数百「匹の蚕が孵化するので，90枚というのは，かなり多いということになる。

〔71〕ニカキ

意味不明。２回繭掻きをすることの意か。

〔72〕ジゴクダニ

赤城山の風穴の名前。

〔73〕テンデ

「まったく」，「ほんとうに」，「とても」，という意味の副詞。

〔74〕ナカラ

「ほとんど」，「かなり」，という意味の副詞。

〔75〕コデナワ

小手縄。麻縄のかわりに編んだ細い縄。俵を編んだりする時にも使う。

〔76〕コーマイー

木舞。壁の下地・軸としての竹ぐみ。「コマイダケ」とも。ふつうの竹を割ったもの。

〔77〕トノコヌリ

とのこ塗り。黄土を焼いて粉にしたもので，板・柱などの色づけをしたり，漆器の塗り下地の原料として用いたりする。

〔78〕マイッカタ

前の方。家の裏の庭（セド）に対して，家の前方の庭などを指すこともある。

〔79〕チュート

途中。「チュートンゴロ」とも。

〔80〕ザイバツ

財閥。「金持ち」，「大尽」，という意味。

〔81〕セキ

空いている部分を表す。空間的にも時間的にも使われる。

ホネベーデ　クーセキガネー（骨ばかりで，食べるところがない）

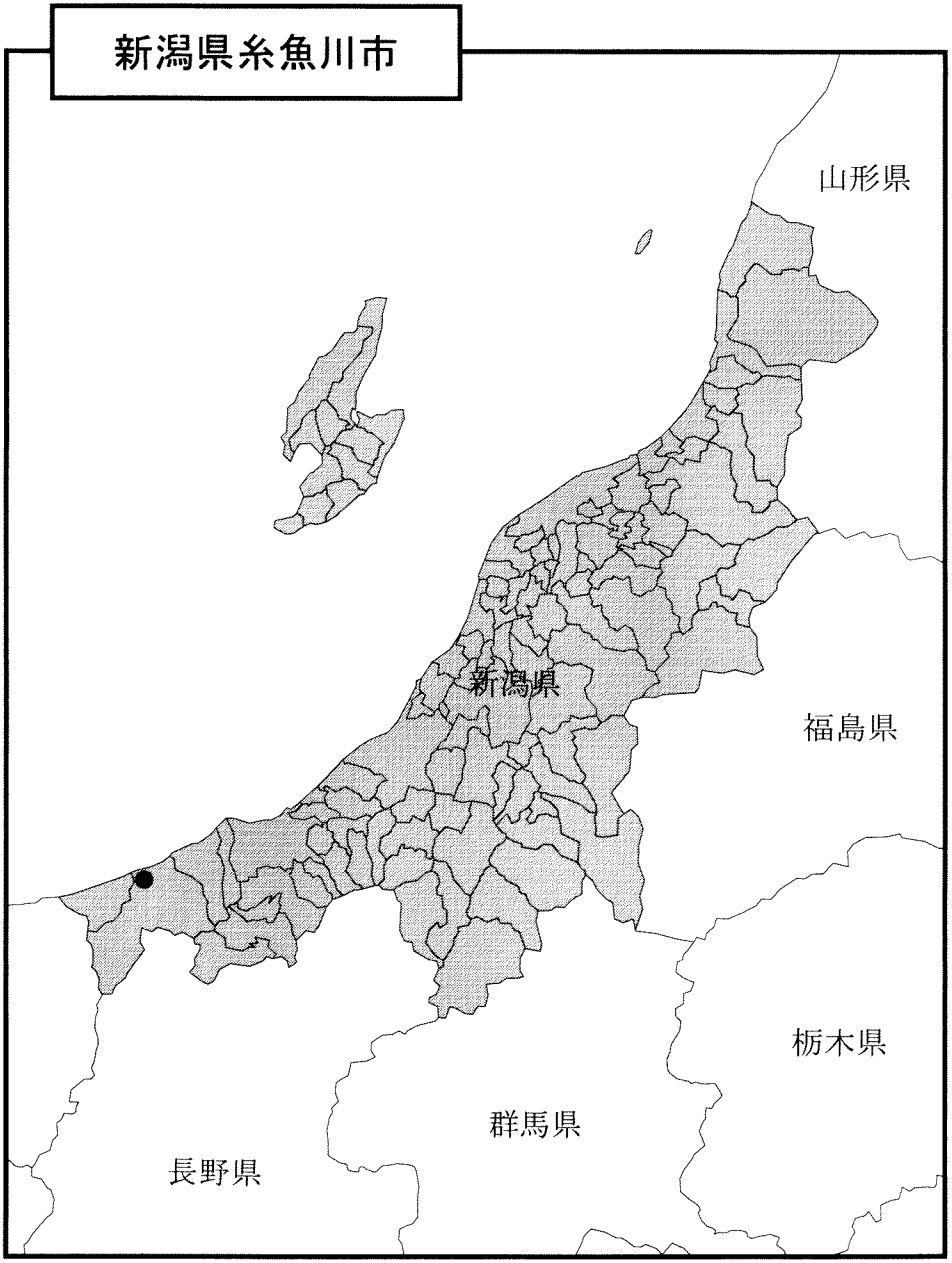
タツセキタッテー　ソンナコトシテ

（出発する時になって，そんなことをして）

〔82〕ヤマグチ

地名。山口。勢多郡大胡町の字名。

Ⅱ．新潟県糸魚川市
1980


新潟県糸魚川市
山形県
新潟県
福島県
栃木県
群馬県
長野県

新潟県糸魚川市1980話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	谷内 宏一
	牧江 年春
	安田 ひなの
	渡辺 秀雄
収録担当者	山岸 幸行
文字化担当者	山岸 幸行
共通語訳担当者	山岸 幸行
解説担当者	山岸 幸行

（敬称略　項目別50音順）

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	坂口 直樹
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

新潟県糸魚川市1980解説

収録地点名　　新潟県糸魚川市上刈（いといがわしうえかり）

収録地点の概観

位置

糸魚川市は，新潟県の西部にあり，東部・南部は富山県・長野県と接し，北部は日本海に面する。上刈は，糸魚川市の北部に位置する。

交通

日本海沿いには国鉄北陸本線と国道８号線が，姫川沿いには国鉄大糸線と国道148号線が並走している。北陸本線糸魚川駅から南に１kmほどで上刈に至る。

地勢

糸魚川市は，面積467.14㎢。支流を集めて北流する早川・海川・姫川の河口部にデルタ性扇状地が形成されている。南西部には北アルプスが，南東部にはくびき頸城連峰がそびえている。

行政区画

戦国時代には上杉謙信の越中侵攻の前線基地となった他，信濃への塩の道の起点となるなど，昔から交通の要所であった。江戸時代の前期は次々と領主が変わったが，18世紀初めから松平日向守の領地となり，陣屋が置かれ，藩政の中心地として，また商業の中心地として栄えた。陣屋跡は，上刈に残っている。

上刈は，1889(明治22)年から奴奈川村，1901(明治34)年から糸魚川町，1954(昭和29)年から糸魚川市となった。

戸数・人口

1980(昭和55)年10月１日現在，世帯数9,992戸，人口36,080人である。

産業

上刈は，かつては農業に従事する者がほとんどで，稲作の他に丘陵地を利用したミカンなどの栽培もおこなわれていた。現在は，町の中心部にも近く，繊維・軽電気・セメント・有機化学製品工場などに勤務する者が多くなっている。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

新潟県の方言は，東北方言，関東方言，関西方言の特徴が入り混じり，複雑な様相を呈している。県内は，北から，下越・中越・上越地方，そして，佐渡地方に分けられる。糸魚川市は上越地方に属している。

ただし，同じ上越地方でも，頸城平野の広がる上越市を中心とした地域と糸魚川市では，方言に大きな違いがみられる。糸魚川方言は関西方言の影響を受けていることが特徴であり，ワ行五段活用動詞の連用形が「オモータ」（思った），「イータ」（言った）のように長音化したり，存在を表す表現に「オル」（いる）を用いたりしている。これらは，上越市などにはまったく見られない。

音韻

（1）ガ行鼻濁音が多く認められる。

ガケ゜（雁木［＝雪深い地方で，通りに面した軒から庇を長く出して，その下を通路としたもの］）

（2）「イ」が「エ」に変化する例がわずかに見られる。

エレテ（入れて）

ウマエ（うまい）

（3）「ニ」が「ネ」に変化することが多い。

ソノカ゜ネ（そのがに［＝それなのに］）

ヤマモリネ（山盛に）

（4）「リ」が「レ」・「ラ」になる例も見られるが，数は少ない。

カレテ（借りて）

シトラデ（ひとりで）

（5）「ヒ」が「シ」に変化することが多い。

シク（引く）

シトリ（ひとり）

シトツ（ひとつ）

シックリカエシテ（ひっくり返して）

（6）拗音の「ュ」が「ョ」に変化する場合がある。

ショワ（衆は）

マチジョー（町中）

ジョーバコ（重箱）

（7）合拗音が見られることがある。

クヮイケー（会計）

クヮンシン（関心）

クヮンノンサン（観音さん）

オークヮジ（大火事）

（8）音声の融合が多くみられる。

ムカシャー（昔は）

コター（ことは）

オシャゲ（押上）

コシャテ（こしらえて）

文法

（1）人称代名詞の中でも，特に，二人称を表す語の数が多い。相手に対する敬意によって，形式が異なる。

単数　オマン（敬意が高い）

ワレ（敬意が低い）

ウンナ（敬意が低い）

複数　オマンタ（敬意が高い）

オマエチャ（敬意が低い）

ウンナイラ（敬意が低い）

（2）準体助詞「ノ」の代わりに「アン」・「ワン」・「ヤン」・「カ゜ン」・「カ゜」が用いられる。

ソイアン・ソイアンダ（そうなのだ）

タテルワン・タテルワンダ（建てるのだ）

デッカイヤンデ（大きいので）

オコランカ゜ン（怒らないのだ）

イバルカ゜（いばるの［を］）

（3）ワ行五段活用の動詞の連用形は長音化する。

イータネー（言ったねえ）

カーテキタ（買ってきた）

オモートル（思っている）

（4）形容詞の連用形は語幹が長音化する。

ナカ°ーシトク（長くしておく）

クルシーテモ（苦しくても）

（5）打消には，「ン」を用いる。

デキンモンダワ（できないものだわ）

（6）不可能には，「レル」・「ラレル」の否定形「レン」・「ラレン」を使うこともあるが，「エン」を用いることが多い。

ヒリョーノ　ヤレエン　モノワ（肥料をやれない者は）

セーエンヨーナ　コッチャ（できないようなことだ）

（7）勧誘には，「～マイカ」を用いる。

ノムマイカ（飲もうじゃないか）

（8）存在を表すには「オル」，存続を表すには「トル」を用いる。

オリャ　フジマキネ　オッテ（私は藤巻にいて）

シナットル　エダ　（しなっている枝）

（9）尊敬には，「～ナル」を用いる。

シットンナルダロ（知っていらっしゃるだろう）

(10) 原因・理由を表すには，「ソェ」・「セー」・「スェ」・「スカエ」・「スケー」などが用いられる。このうち，「スケー」は少なく，「ソェ」・「セー」が多い。

アブナイソェ（危ないから）

ンダセー（だから）

(11) 逆接を表すには，「ケン」・「ケンド」が用いられる。

ダケン（だけど）

モッテキタケンド（持ってきたけれど）

(12) 順接確定条件を表すには，「タッチャ」・「タチャ」が用いられる。

ナッタッチャ（なったところ）

ハシ　トメタチャ（端［に］止めたところ）

(13) 順接仮定条件を表す「バ」は，前の語と融合して用いられる。

ユキャー　フリャ　スベルシ（雪が降ればすべるし）

（以上の解説は，基本的に，「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿によるものである。）

新潟県糸魚川市1980凡例

談話資料は，方言談話音声，方言談話音声の文字化，方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには，ページ単位で切った方言談話音声を，CDには，方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し，方言談話の共通語訳は，漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは，対照ができるように，上下２段を１組として示した。上段が文字化，下段がその共通語訳である。

文字化については，表音的カタカナ表記を用いている。つまり，長音は「ー」で示し，助詞「は」は「ワ」，助詞「を」は「オ」，助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ゜」「キ゜」「ク゜」「ケ゜」「コ゜」はガ行鼻濁音を表す。

また，分かち書き，句読点などは，便宜的なもので，厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における，方言談話音声の文字化の方法は，後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし，今回，「全国方言談話データベース」として公開するにあたり，文字化・共通語訳を整備する際には，当時のマニュアルにはとらわれず，読みやすさ，意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また，この文字化は，時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって，発話の重なりや，複線的な会話の進行の構造が，文字化からは読み取れない。データを使用する際には，文字化・共通語訳を見るだけではなく，実際に，音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している，話者が交替するまでの連続した発言を１発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号　　〈半角〉

発話の通し番号を，各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

話者記号　　〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A，B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。(句点)　　〈全角〉

ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス　　ソーデス

そうです。　そうです。

、(読点)　　〈全角〉

基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，文字化と対応しなくなっても，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

？　　〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

（　）　　〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり，口をはさんだりした個所。

（A　……）のように、開き括弧の次にあるアルファベットは，発言している話者を示す。（　）の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお，（　）内のあいづちと，独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：（A　アー　ソーデスカ）

｛　｝　　〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：｛笑｝

｛咳｝

｛手を叩く音｝

×××　　〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム　ム　ムツカシー

×　×　難しい

＊＊＊　　〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ＊

お茶漬けの＊

／／／　　〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ　モジナンデスナ、

／／／／／「文字」なんですね。

[ ]　　〈全角〉

方言音声には出てこないが，共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン　　ノセテ

　　みかん［を］　乗せて

＝　　〈全角〉

［ ］内の＝は，意味の説明や，意訳であることを示す。

例：イマ　ユー

　　今　　いう［＝今話題にあがった］

｜　｜　　〈全角〉

注意書きなど。

例：｜Aに対して｜

〔 〕　　〈全角〉

注記。方言形の意味・用法，特徴的音声などについて説明し，文字化・共通語訳の後にまとめてある。〔 〕内の半角数字は，注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ〔1〕

音声

CD-ROMには，冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに，方言音声をリンクさせていて，各ページにある 再生 の部分をクリックすると，そのページの音声を聞くことができる。

CDには，談話全体の音声を収録している。以下にあげるように，適当な個所で，トラックに区切っている。

CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは，方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「新潟21-1」はCDトラック番号が21で，その1ページ目ということである。「新潟21-1」「新潟21-2」……「新潟21-6/22-1」……「新潟39-3」のように表示される。

また，文字化・共通語訳部分には，CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し，その両側の数字はトラック番号である。

↑21，21↑22，……38↑39，39↑ のように表示される。

第７巻のCD（76分22秒）には，神奈川県小田原市の談話，【石運び，嫁入りの頃，年貢の話，冬の雨具，浜の様子，大雪の話】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
21	p.157・ℓ.1	p.162・ℓ.3	0:01:57
22	p.162・ℓ.5	p.167・ℓ.19	0:01:51
23	p.167・ℓ.19	p.173・ℓ.7	0:02:05
24	p.173・ℓ.9	p.176・ℓ.17	0:01:44
25	p.176・ℓ.17	p.179・ℓ.5	0:01:10
26	p.179・ℓ.7	p.185・ℓ.9	0:02:03
27	p.185・ℓ.11	p.192・ℓ.1	0:02:14
28	p.192・ℓ.3	p.197・ℓ.5	0:02:03
29	p.197・ℓ.7	p.202・ℓ.15	0:01:59
30	p.202・ℓ.17	p.208・ℓ.7	0:02:00
31	p.208・ℓ.9	p.212・ℓ.5	0:02:02
32	p.212・ℓ.5	p.217・ℓ.15	0:02:28
33	p.217・ℓ.17	p.222・ℓ.9	0:02:04
34	p.222・ℓ.11	p.228・ℓ.19	0:02:07
35	p.229・ℓ.1	p.235・ℓ.7	0:01:58
36	p.235・ℓ.9	p.240・ℓ.15	0:01:57
37	p.240・ℓ.17	p.247・ℓ.13	0:02:00
38	p.247・ℓ.13	p.253・ℓ.7	0:01:59
39	p.253・ℓ.7	p.255・ℓ.13	0:00:54
計			0:36:35

新潟県糸魚川市1980談話

収録地点　　新潟県糸魚川市上刈（いといがわしうえかり）

収録日時　　1980(昭和55)年10月27日

収録場所　　新潟県糸魚川市上刈　牧江米店

話題　　石運び，嫁入りの頃，年貢の話，冬の雨具，浜の様子，大雪の話

話者

A	男	1902(明治35)年生	(収録時78歳)	農業
B	女	1910(明治43)年生	(収録時70歳)	農業
C	男	1920(大正９)年生	(収録時60歳)	米穀商
D	男	1921(大正10)年生	(収録時59歳)	教員

調査員

E	男	教員

収録時間（CD）　　36分35秒

【石運び，嫁入りの頃，年貢の話，冬の雨具，浜の様子，大雪の話】

話し手

A	男	明治35年生	(収録時78歳)	農業
B	女	明治43年生	(収録時70歳)	農業
C	男	大正９年生	(収録時60歳)	米穀商
D	男	大正10年生	(収録時59歳)	教員
E	男			(調査員)

1A：ウー　オラ　ワカイ　トキネー　アレダワネ
うーん　俺［が］　若い　時に　あれだよね
↑21
オレ　マー　ガッコエ　デテオル　トキダナー
俺［が］　まあ　学校へ　出て［＝行って］いる　時だなあ

キョーワ　ドヨービダ　ッテ　イテー　ソシテ　アノ
今日は　土曜日だ　と　言って　そして　あの

ヒメカワニ　テーボー　アッタンデネー　(D　ンー)
姫川に　堤防［が］　あったのでね　(D　うん)

テーボー　アッタンデ　ソノ　テーボーノ　シコ゜トニ
堤防［が］　あったので　その　堤防の　仕事に

マ　ミンナ　デタモンダワネ。
まあ　みんな　出たもんだよ。

2D：オー　ソーカネ。
おお　そうかね。

3A：ハー　(D　フーン)　ソレー　　アノー
　　はあ　(D　ふうん)　それ［は］　あの

　　ガッコノ　ガクセーデモ　ナンデモ
　　学校の　　学生でも　　何でも

　　イクラデモ　アノー　デテクリャ　ツカウ　ッテ　イーテ
　　いくらでも　あの　　出てくれば　使う　と　言って

　　オ　オラ　　イッタ　コト　　アルワン。　(D　ンー)
　　×　俺［は］　行った　こと［が］　あるんだ。　(D　うん)

　　アー。　(D　ンー)
　　ああ。　(D　うん)

4A：ハンニチ　イッテー　ジューゴセン　(D　ンー)　アー。
　　半日　　行って　　15銭　　(D　うん)　ああ。

　　(D　ンー)　ジューゴセン　モラーテネー　(D　ンー)
　　(D　うん)　15銭　　もらってね　(D　うん)

　　ソシテ　マー　アリャ　カエシ〔1〕　　テ　ユワンネ
　　そして　まあ　あれは　「かえし」［＝石運び作業］と　いうんだね

　　(C　ハー)　モト　　カエシ　　テ　イータモンダ
　　(C　はあ)　もと［は］　「かえし」　と　言ったものだ

　　カエシ　　ッチャ　　ドーイ　　コトナンダ　テ　イタラ
　　「かえし」　というのは　どういう　ことなのだ　と　言ったら

(D　ンー)　カンテクル〔2〕　イシオ　(E　アー)
(D　うん)　かついでくる　　石を　　(E　ああ)

アノー　ココノ　ウエカリナラ　ウエカリノ　ソノ
あの　　ここの　上刈なら　　上刈の　　その

オモダチ〔3〕　ッテ　ユー　シター　アッテネー　(D　ンー)
「重立」　　と　いう　人が　いてね　　(D　うん)

ソシテ　ソノ　シゴト　アー　ジムニ　マー　イットルワン。
そして　その　仕事　　ああ　事務に　まあ　行っているんだ。

5D：ジム。
事務。

6A：ハー　ジムニネー。
はあ　事務にねぇ。

7D：チョーツケ。
帳［面］つけ。

8A：ハー。　ホェデー　ソノ　シトノ　トコエ
はあ。　それで　　その　人の　　ところへ

ソノ　シト　　チャント　イスノー　イスネ　コシカケテ
その　人［は］　ちゃんと　××××　椅子に　腰かけて

ソシテ　コーユー　マエー　マー　アリャ　アルワンサ。　(D　ンー)
そして　こういう　前に　　まあ　あれは　あるのね。　(D　うん)

ソコエ　カンテキテ　セナカ　　コー　（D　ミセルワン）
そこへ　担いできて　背中［を］　こう　（D　見せるんだ）

ミセルワン。　（D　ンー）
見せるのだ。　（D　うん）

イシノ　ダイショーオ　マー　ミセル　ワケダ。
石の　大小を　　まあ　見せる　わけだ。

9D：ハー。
はあ。

10E：ハー。　ハー。　ハー。
はあ。　はあ。　はあ。

11A：ハー。　（E　ハー）　イシノ　ダイショーオ　ミセテネー
はあ。　（E　はあ）　石の　大小を　　見せてね

アー　オマエ　　デッカイヤン　　カンテキタナー　ッテ
ああ　おまえ［は］　大きいもの［を］　担いできたなあ　と

マー　フデノ　アノ　ハンタイノ　ホーネネー　　（D　ンー）
まあ　筆の　あの　反対の　　ほうにねえ　　（D　うん）

スミオ　ツケテ　（D　オー）
墨を　つけて　（D　おお）

ソシテ　チョード　ソレネー　アノー　（D　ホー）
そして　ちょうど　それに　あの　（D　ほう）

ソノ　ハンコ　　オスヨネ　　ナットルワンダ。
その　はんこ［を］　押すように　なっているのだ。

ソー　ユー　アレオ　インサツシテアルワン。
そう　いう　あれを　印刷してあるのだ。

（C　ナール）　　（D　ンー）
（C　なる［ほど］）　（D　うん）

ソレネネー　マ　カリネ　デッカイヤン　　カンテクリャ
それにねえ　ま　仮に　大きいもの［を］　担いでくれば

トー　　オシテクレルトカ　（E　ナールホドネ）
10［個］　押してくれるとか　（E　なるほどね）

ア　チーサイカ゜ンナラ　ミッツシカ　　（D　ンー）
あ　小さいものなら　　3［個］しか　（D　うん）

（C　ンー）　オシテクレントカ　　ッテ
（C　うん）　押してくれないとか　と［言って］

（E　ウン　ウン　ウン）　（D　ンー）　ソーユー　ソレカ゜
（E　うん　うん　うん）　（D　うん）　そういう　それが

カエシ　　ッテ　ユカ゜ンダ。　（D・E　ンー）
「かえし」　と　いうんだ。　（D・E　うん）

ソノ　イマノ　カンテクル　イシノ　ダイショーデモッテ
その　今の　担いでくる　石の　大小によって

（E　ハー）　イシオ　カウ　ッテ　ユー　コトナンダ。
（E　はあ）　石を　　買う　と　　いう　ことなんだ。

アー。（D　カウスェネ）（E　ハー）
ああ。（D　買うからね）（E　はあ）

21↑22

12D：ナルホドー　コリャ　マー　アラタカナモンダ。　（C　ハー）
なるほど　　これは　まあ　はっきりしたものだ。（C　はあ）

ウーン。　タダ　タダネー　ハンネチ　ウロウロ　シトッタセー
うん。　　ただ　ただね　　半日　　うろうろ　していたから

イクラ　クレル　チャンダ　　ナイアンネ。
いくら　くれる　というんでは　ないんだね。

13A：ハー。
はあ。

14C：イチンチ　ハタライテ　ジューゴセンカネ。
1日　　働いて　　15銭かね。

15D：ハンニチカ。
半日か。

16A：イヤ　（C　ハンニチデ）　オラミタイナ　モナー
いや　（C　半日で）　　俺のような　者は

マダ　ガッコエ　デトッタソェサー　　（D　ンー）
まだ　学校へ　　出て［＝行って］いたからね（D　うん）

ソナエニ〔4〕　デカイカ°　カツギエン〔5〕モン。
そんなに　　大きいのは　担ぐことができないもの。

(D　ンー)　チョード　オラカ°ー
(D　うん)　ちょうど　俺たちのものは

マ　　ソェデ　ツケル　　モナー　ソノ　マタ
まあ　それで　[帳面を]つける　者は　その　また

ココノ　オトコショワ　イッテネー　(D　ツケルワン)
ここの　男の人が　行ってね　(D　つけるんだ)

ツケテクレルンダヨ。　(D　ハー)
[帳面に]つけてくれるんだよ。　(D　はあ)

ソエカラ　アノ　トル　　ショーモ
それから　あの　[石を受け]取る　人も

マタ　トッテクレル　　(D　ンー)
また　[石を受け]取ってくれる　(D　うん)

マー　アブナイソェサ　(D　ソー　ソー)
まあ　危ないからね　(D　そう　そう)

ストーント　オトスカ°　アブナイソェ　(D　ンー　ンー)
すとんと　[石を]落とすのは　危ないから　(D　うん　うん)

ホェデ　トル　　ショカ°　アルン。
それで　[石を受け]取る　人が　いるんだ。

トル　　ショト　ムコーニャ　カワラノ　ホーニャ
[石を受け] 取る　人と　向こうには　河原の　ほうには

ツケル　　ショワ　アルワン　(D　ンー)
[帳面を] つける　人が　あるんだ　(D　うん)

ホェデ　ホーダ。
それで　そうだ

17D：ソレモ　ドッチカ　チャ　　オトナダ。
それも　どちらか　といえば　大人だ。

18A：ハー　ソリャ　ムラ　アノ。
はあ　それは　村　あの。

19D：ドーチュワ　ハェ　マ　コドモノ　デッカイカ゜ンデモ
途中は　もう　ま　子供の　大きい者でも

(A　ハー　ハー)　ヤレル　ワケダ。
(A　はあ　はあ)　やれる　わけだ。

20A：デ　　オンナショーデモ　ナンデモ
それで　女の人でも　何でも

ミーンナ　カンタモンダワネ。
みんな　担いだもんだよ。

21D：フーン。
ふうん。

22B：チャーントネー　ワク　　コシラエテネ　ホカネ。
　　ちゃんとね　　枠［を］　こしらえてね　他に。

23A：ハー　ワク　　コシャエテ。　ハー。
　　はあ　枠［を］　こしらえて。　はあ。

24B：オラモ　コノ　コノ　ヨースイ　　シル　　ドキ
　　私も　　××　この　用水［を］　する［＝作る］　時［に］

　　イシ　　トリ　　イッタ　コト　　アル。
　　石［を］　取り［に］　行った　こと［が］　ある。

25A：ハー　ハー。　イヤ　コノ　イシモ　ソエカラ　ホラ
　　はあ　はあ。　いや　この　石も　　それから　ほら

　　サイキン　ノードー　　シタネーカ
　　最近　　農道［を］　した［＝作った］じゃないか

　　（B　ハー　ハー）　アノ　トキモ　イシヤ
　　（B　はあ　はあ）　あの　時も　　石は

　　（B　ソー　ソー）　カンタンダ。
　　（B　そう　そう）　担いだのだ。

26B：イシカジキ〔6〕　シタ。
　　石担ぎ［を］　　した。

27A：ダケン〔7〕　オラ　ジブンナ　カエシ　　テ　イーテネ
　　だけど　　俺の　頃は　　「かえし」　と　いってね

コノ　イマノ　テーボー　アリャ　マ　　カサアケ゜　シタンダ。
この　今の　　堤防　　あれは　まあ　嵩上げ　　したのだ。

カサアケ゜シル　　イシカ゜　ナーテ
嵩上げ［を］する　石が　　なくて

ソシテ　カワラカラ　ミンナ　アケ゜タンダワネ。
そして　河原から　　みんな　上げたんだよ。

28D：フーン　ナルホドネ。
ふうん　なるほどね。

29A：ソェデ　ソノ　カエシ　　ッテ　イーテ
それで　その　「かえし」　と　　いって

マー　ソノ　トキャ　マー　テラマチノ　ホーカラモ　マー
まあ　その　時は　　まあ　寺町の　　ほうからも　まあ

アサネー　ニンソクワ　ノボル　ッテ　ノボル　ッテネー。
朝ね　　人足は　　登る　　って　登る　　って［言って］ねえ。

（D　ホー　ソーカネ）　（B　ンー）
（D　ほう　そうかね）　（B　ふうん）

シコ゜ト　　ナーテ〔8〕ネー
仕事［が］　なくてね

ミンナ　ソノ　シコ゜トネ　キタモンダワネ。　{咳}
みんな　その　仕事に　　来たもんだよ。　{咳}

イヤ　マー　ソーイ　　コトダセ　　{咳払い}
いや　まあ　そういう　ことだから　{咳払い}

オラマデ　　ミンナ　デタン。　　(D　ハー)
俺たちまで　みんな　[仕事に] 出たんだ。　(D　はあ)

30D：ナールホド。
なるほど。

31A：ホェデ　オリャ。
それで　俺は。

32D：アンタカ゜タ　　ガクセーノ　コロチャ　　メージノ　スエダ。
あなたがた [が]　学生の　　頃というと　明治の　　末だ。

メージノ　スエカ　ショ　タイショーノ　ハジメダネ。
明治の　　末か　　××　大正の　　初めだね。

33A：アー　マー　ソンデモ　(B　タイショーノ　ハジメダネ)
ああ　まあ　それでも　(B　大正の　　初めだね)

ゴロクネンニ　ナッタ　トキダローネー　デタカ゜ー　ンー。
5、6年に　　なった　時だろうね　　出たのは　うん。

34D：ナルホドネー。
なるほどね。

35A：ソレデー　アノー　オンナデ　オンナショーデネー　(D　ンー)
それで　　あの　　女で　　女の人でねえ　　(D　うん)
22↑23

マタ　ガイナ〔9〕　ショワ　オッタワネ。　（D　ンー）
また　丈夫な　　人が　　いましたよ。　（D　うん）

デカイ　コレクライノ　イシ　　デタテサー　（D　ンー）
大きい　これくらいの　石［が］　出てもね　（D　うん）

ダレカ　　カンテクレナ　　コマルワンダ　（D　ソーダ）
誰か［が］　担いでくれなきゃ　困るんだ　（D　そうだ）

イシャ　　コッチデ　ホシテ　　ドーショーモナイサ。
石［は］　こっちで　欲しくて　どうしようもないしね。

ソレデ　サー　コリャ　ダレ　カツクー　テ　イワンダワネ。
それで　さあ　これは　誰が　担ぐ　　と　言うんだよ。

（D　ホー　ソーカネ）　ハー。　（D　ンー）
（D　ほう　そうかね）　はあ。　（D　うん）

ソシタッチャー　ソノ　ガイナ　オンナショワネー　（D　アー）
そうすると　　その　丈夫な　女の人はね　（D　ああ）

アー　ソシャ　　オリャ　カツグデネ　ッテ　イテ
ああ　それじゃ　私が　　担ぎますよ　と　　言って

ソーシテ　ソコエ　イッテ　（D　ンー）
そうして　そこへ　行って　（D　うん）

チャント　アレシテ。
ちゃんと　あれして［＝担いで］。

36B：チャント　コーヤッテ　コシャエテネー。
　　ちゃんと　こうやって　こしらえてねえ。

37A：ハー　ケツ　　ヤンダシテ〔10〕サ。
　　はあ　尻［を］　差し出してね。

38B：ケツ　　ヤンダスン。
　　尻［を］　差し出すの。

　　ソシタチャ　ソレ　　マネ　ノシテクレルン。
　　そうすると　それ［＝石］［を］　××　載せてくれるんだ。

39A：ソシャ　　オトコショーワネ　（D　ンー）
　　そうすると　男の人はね　（D　うん）

　　フタリデモッテネ　ツッテネー　（D　フーン）
　　二人でね　［石を］つり上げてね　（D　ふうん）

　　ホシテ　セナカエ　ノシテクレルンダワネ。
　　そして　背中へ　載せてくれるんだよ。

40D：ホー　ソーカネ。（A　ハー）　フーン。
　　ほう　そうかね。（A　はあ）　ふうん。

41A：アー　アノー　カワラダソェネ　コー
　　ああ　あの　河原だからね　こう

　　イタバシ　イタ　イタバ　ハシ　ッテ　コター　ナイケー〔11〕
　　板橋　××　×××　橋　という　ことは　ないけれど

ア　ナン　ナン　テ　ユーカナー　アノー
あ　何　　何　　と　いうかなあ　あの

イッスンイタ　イッスン　アツミクライノネ　アノ
１寸板　　１寸　　厚みくらいのね　あの

ハシ　　カケルワンダ　ミズノ　アル　トコワネ。　（D　フーン）
橋［を］　かけるんだ　水の　ある　ところはね。（D　ふうん）

デ　　ソーイ　　トコドモ　　マーン
それで　そういう　ところでも　あなた

ソノー　デカイカ゜　　カンタ　オンナノ　シトアネー　マー
その　大きいもの［を］　担いだ　女の　人はね　まあ

ギュー　ギュー　ギュー　ッテ　ハシャー　コー　シナルカ゜ネー
ギュー　ギュー　ギュー　と　橋は　こう　しなるのをねえ

（D　ンー）　ヨー　カンテネー　（D　ナルホド）　キタモンダワ。
（D　うん）　よく　担いでね　（D　なるほど）　きたもんだよ。

ソノカワリ　ソナナ　　カンテキタチャ
そのかわり　そのようなもの［を］　担いできたとなると

ニジュークライ　オシテクレルワン。　（一同　{笑}）
20［個］くらい　［はんこを］押してくれるんだ。（一同　{笑}）

42C：イチニンマエノ　オトナノ　シトデ　イチンチ
一人前の　大人の　人で　１日

イクラク°ライン　ナッタモンダネ。
いくらくらいに　なったもんだね。

43A：ソーダネー　イチエンクライン　ナッタンナイカヤ。
そうだね　1円くらいに　なったのではないかな。

44C：イチエン　ナッタ。（A　ハー）
1円に　なった。（A　はあ）

45D：ハー　ナルホドネー。
はあ　なるほどね。

46A：オラ　ハンニチデ　ジューゴセンダモン。
俺［は］　半日で　15銭だもの。

47C：イチンチ　サンジッセンカ。
1日　30銭か。

48A：ホェデー　ソノ　ジューゴセン　モラーテ〔12〕サ
それで　その　15銭［を］　もらってね

ゲンキンデ　モラーテネー　ヨロコンデ　オッタラ
現金で　もらってね　喜んで　いたら

オラ　ジーチャン　ワイラ　コレ　アノー
俺の　じいちゃん［が］　おまえたち　これ［を］　あの

オレ　イシ　ヒロイイットッタン
俺［が］　石［を］　拾いにいっていたのだが

ワイラ　　モッテケヤー　テ
おまえたち　持っていけよ　と［言って］

オラ　　ジーチャモ　　マ　ソノ　ツケル　　ホーエ
俺［の］　じいちゃんも　ま　その　［印を］つける　ほうへ

（B　オー）　デ　デトッタン。
（B　おお）　×　出ていたんだ。

49B：デトンナッタ〔13〕ンネ。
出ておられたのだね。

50A：ホェテ　アーイ　テ　イテ
それで　はい　　と　言って

ソシテ　ソノ　イシ　　マ　コー　ヤッテ　モッタンダケンド
そして　その　石［を］　ま　こう　やって　持ったのだけれど

ソノ　ジューゴセン　オトシテシマーテサ。
その　15銭［を］　落としてしまってね。

51B：オヤ　オヤ　（一同　{笑}）
おや　おや　（一同　{笑}）

52A：ウチ　　キテ　　ナイトッタワネ。　{笑}
家［に］　［帰って］来て　泣いていましたよ。　{笑}

イシャ　モッテキタケンド　ジューゴセン　オトシテシマータ。
石は　持ってきたけれど　15銭［は］　落としてしまった。

(D　フーン)
(D　ふうん)

53B：イシャ　デッカテ　オトシャ　ワカルケンネ　　ゼナ　(A　アー)
石は　大きくて　落とせば　わかるけれどね　銭は　(A　ああ)

ワカランモンネ。
わからないものね。

54A：ワカランモン。　(D　ンー)
わからないもの。　(D　うん)
23↑24
ソーイ　コト　アッタソェネ　ソレ
そういう　こと［が］　あったからね　それ［が］

オリャ　ホントネ　アタマネ　キオクネ　ノコットルワン
俺は　ほんとうに　頭に　記憶に　残っているんだ。

(D　ンー)　オトシテネー。
(D　うん)　落としてね。

オラ　ソレニャー　ソノ　カズキモン　ガイダッチャー
俺［が］　それには　その　担ぎものの　強かったというのは

オラ　イマ　X１サエ　イットル　アノ　バーチャネー
俺の　今の　X１さんへ　行っている　あの　ばあちゃんね

(D　オー　ソーカネ)　アー　ガイデ　ナイ。
(D　おお　そうかね)　ああ　丈夫で　／／

55B：アノ　シトダノ　X２ノ　バーチャ　ガイダッタ　ッチャンネ。
　　あの　人だの　X２の　ばあちゃん　強かった　というんだね。

56A：アー　アー　エーカナ〔14〕カ°　アノ　カンタモンダワネ。
　　ああ　ああ　かなりのもの［を］　あの　担いだもんだよ。

57D：ンー。　ナルホドネ。
　　うん。　なるほどね。

58C：アー　チッチャエ　ドキカラ　ヨー　ハタライタネ　ムカシャー。
　　ああ　小さい　時から　よく　働いたね　昔は。

59A：ウン。　ソレデー　ソノ　ウェカリノ　ソノ　オモダチモネー
　　うん。　それで　その　上刈の　その「重立」もね

　　（D　ンー）　ミンナ　ソノ　ハンコ
　　（D　うん）　みんな　その　はんこ［を］

　　ソノ　オシテクレ　デトルアンダヨ　オモダチャ。（D　ンー）
　　その　押してやりに　出ているんだよ「重立」は。（D　うん）

　　ンダケン　ソノ　エラーイ〔15〕　ソノ　カライ　ッテ　ユーカネ
　　だけど　その　たいへん　その　からい　と　いうかねえ

　　ソノ　ワリャイネネー　ソノ　オサン　シトカ°　アルワン。
　　その　わりあいにね　その　押さない　人が　あるんだ。

　　（A・C・E　{笑}）
　　（A・C・E　{笑}）

60B：イッパエ　オシテクレン　　シトダネ。
　　たくさん　押してくれない　人だね。

61A：アー　ソーイ　　トコエ　　ヤダカ゜ルワン
　　ああ　そういう　ところへ［行くのを］　嫌がるんだ。

　　（B　ヤーサ）　イク　トキー。　ソノー　オロス　　トキ。
　　（B　嫌ね）　　行く　時。　　その　［石を］降ろす　時。

62B：マットッテモネー　ソッチノ　アク　トコオバ　マーッテッチャ。
　　待っていてもね　　そっちの　あく　ところを　回っていっては。

63A：イッパーイコト　オシテクレルヨナ　　トコエバーッカ
　　たくさん　　押してくれるような　ところへばかり

　　ソレ　　ツカエトルワンネ　ミンナ　ソコエ　イクワン。
　　それ［が］　つかえているのに　みんな　そこへ　行くんだ。

　　（一同　｛笑｝）　コッチエ　ゴサッシャエバ〔16〕　ッテ
　　（一同　｛笑｝）　こっちへ　いらっしゃれば　　と

　　ユーケンド　ソコエ　イカンカ゜ダカ゜ネ。　｛笑｝
　　いうけれど　そこへ　行かないんだよ。　｛笑｝

　　（B　ンー）　ダケン　ソンナナカ゜ードモ　ソノ
　　（B　うん）　だけど　そのようなことでも　その

　　ケチケチシトラント　　ジブンノ　タメデモ　　ナエソエ
　　けちけちしていないで　自分の　　ためでも　　ないから

オシテクレリャ　イーカ°ダケンネー。
押してくれれば　いいのだけれどね。

64B：ンー。　ソレ　　モチマエダモンネ。　{笑}
うん。　それ［は］　持ち前だものね。　{笑}

65A：アー　イッショケンメイ　カンテイクワンダソェ
ああ　一生懸命　　担いでいくのだから

オシテクレリャ　イーヤンダケンド　{笑}
押してくれれば　いいんだけれど　{笑}

（D　ソイヤンネー）　カライヤン。
（D　そうなんだね）　からいんだ。

66C：コンジョ　ワリーヤン。
根性［が］　悪いのだ。

67B：ソイヤン。　（D　ンー）
そうなんだ。　（D　うん）

68A：{笑}　ソレカ°　マー　ホントナンダイラ　シランケンサ
{笑}　それが　まあ　ほんとうなのだか　知らないけれどね

（D　ンー）　ソラ　シャ　マー　ソノショーダテ
（D　うん）　それは　じゃあ　まあ　その人だって
24↑25
ダイタイ　ゴカンメ〔17〕クライノ　イシナラ　イクツクライ　オス
だいたい　5貫目くらいの　石なら　いくつくらい　押す

ジッカンクライナラ　ドレクライ　オス　ッテ　ユヨナ
10貫くらいなら　　どれくらい　押す　と　　いうような

マ　ハナシアイワ　アルダローケンドネー　（D　ンー）
ま　話し合いは　　あるだろうけれどね　　（D　うん）

アルダローケン
あるだろうけれど

ソノ　マタ　ナカニ　オンジョーノ　アル　シトワネ
その　また　中に　　温情の　　ある　人はね

アー　ワリャ　　マ　　ヨー　チッチャエカ゜ネ　カンテキタナー
ああ　おまえ［は］　まあ　よく　小さいのに　　担いできたな

ッテ　イテー　マ　ソノ　オンジョーオ　フクメル　シトカ゜
と　　言って　ま　その　温情を　　含める　　人が

マタ　アルアンダト　　ナカニネ。
また　あるのだそうだ　中にね。

69B：ンー　ソーソー　ナサケブカイネ。　（A　ンー）
うん　そうそう　情け深いのね。　（A　うん）

70A：ソーイ　　ドコエ　　シ　マ　ミナ　　イクアンダッチャ〔18〕。
そういう　ところへ　×　ま　みんな　行くんだよ。

（E　ナルホド）　〔笑〕
（E　なるほど）　〔笑〕

71B：ハェダカ　イシカズキダトカ　アキニ　フユン　ナッタチャ
それだとか　石担ぎだとか　秋に　冬に　なったとなると

コンダ　カレエダシ〔19〕ダトカ　ッテネー。
今度は「枯れ枝だし」だとか　言ってね。

72C：ハー　マツノキノ　カレエダ。
はあ　松の木の　枯れ枝。

73B：ヨー　カレエダ　イッチャ　ホッテキテ　（C　ハー）
よく　枯れ枝［を］　［山へ］行っては　掘ってきて　（C　はあ）

ニャ　イッパエ　コシラエタッチャ
荷は　一杯　こしらえたとなると

コンド　オマン　カンデイキルカネ
今度［は］　あなた　担いでいけるかね

オラ　ハェ　ナカダシ〔20〕デモ　シテクルワ　テ　イーチャ
私は　もう　中出しでも　してくるよ　と　言っては

トチューマデ　ハンブン　オイチャ
途中まで　半分　おいては

マタ　ヤマエ　モドッテ　カンデキテ　ソシチャ
また　山へ　もどって　担いできて　そうしては

ウチー　モッテッチャ　マタ　カズキ　キタモンダ。
家へ　持っていっては　また　担ぎ［に］　来たものだ。

オレト　X３サト　　マー　ヨー　イッタワ
私と　　X３さんと　まあ　よく　行ったよ

コエサ〔21〕ノ　X３サト。
「紺屋さん」の　X３さんと。

カンジキ　　ハイテネー。　（D　アー）
かんじき［を］　はいてね。　（D　ああ）
25↑

――― 中　略 ―――

74A：X４ネ　オマン　　ナンネン　オッター〔22〕。
X４に　あなたは　何年　　いたかね。
↑26
75B：ニネン　オッタ。
２年　いた。

76A：ニネン　オッタダケカネー。　ンー。
２年　いただけかね。　ふうん。

ソェデ　ハェ　ヨメンナッタン。
それで　もう　嫁になったのかね。

77B：ソイヤン　　ソイヤン。　（A　フーン）
そうなんだ　そうなんだ。　（A　ふうん）

X４ノ　バーチャンナ　オマエャノー　イッカンタッテ
X４の　ばあちゃんは　おまえはねえ　行かなくたって

オリャ　イックラデモ　ミセニイサシテクレルワンネ
私は　　いくらでも　　店にいさせてやるのに

コンナネ　ハヨー　コドモ
こんなに　早く　　子供

マエノ　ヒマデ　ナワトビシテ　　アソンドッタンダーネ。
前の　　日まで　縄とび［を］して　遊んでいたんだね。

（A　ンー）　（E　｛笑｝）
（A　うん）　（E　｛笑｝）

コシアゲ〔23〕シタ　キモン　　キテサ　（C　ハー）
腰揚［を］した　　着物［を］　着てね　（C　はあ）

ウラエ　デテ　アノ　X５サノ　　ネーチャダノネー
裏へ　　出て　あの　X５さんの　姉ちゃんだのね

アッコラネモネー　オナシヨーナカ°　オルモンダモン
あそこらにもね　　同じようなのが　いるのだもの

ナワトビ　　シテ　アソンドッタンネ　オンナサン〔24〕
縄とび［を］　して　遊んでいたのに　　女中さん［が］

オマエニ　ヨージ　　アル　ッチャン　　デーテ
おまえに　用事［が］　ある　というんだ　って言って

ダレカ°ネー　テ　（A　｛笑｝）　イタラ
誰が　　と　（A　｛笑｝）　言ったら

オヤウチノ　ショワ　キテ　イッタゼ〔25〕
親の家の　　人が　　来て　言ったよ

オマエニ　ヨージ　　アル　ッテ　ッテノー〔26〕
おまえに　用事［が］　ある　と　　と言ってね

キョー　ノボッテコイ　　ッテ
今日　　上って［＝帰って］こい　と言って

ユーハン　　クータラ　オマエ　ノボッテ［＝帰って］カンナンゾ
夕飯［を］　食べたら　おまえ　上っていかなきゃならないぞ

ッテ。　　（A　{笑}）
と言って。（A　{笑}）

オヤ　ナンノ　ヨージダヤー　ト　オモテ　イッタラ
おや　何の　　用事だろうか　と　思って　行ったら

ワレ〔27〕オバ　ヨメニ　クレ　チャンダンカ°
おまえを　　嫁に　　くれ　というんだが

ワレヤ　　ドーシル　テ
おまえは　どうする　と［言って］

ヤダワネ　オリャ　ヨメニデモ　イカンデー　テ。
嫌だよ　　私は　　嫁になど　　行かないよ　と［言って］。

（A　{笑}）　ヤダ　ヤダ　ッテ　イーテ
（A　{笑}）　嫌だ　嫌だ　と　　言って

オマン　ナイトッテ　ヤダ　ヤダ　デモッテ　カエッテキタラ
あなた　泣いていて　嫌だ　嫌だ　で　　帰ってきたら

ソリャ　ムスメダモン　ヤダナン　テ　イーテ
それは　娘だもの　　嫌だなど　と　言って

アノ　イクナンテ　ユー　モンナ　アルモンデナイスケネ
あの　行くなどと　いう　者は　あるものでないから

ソリャ　（A　ンー）　ヤダ　テ　イートッテモ
それは　（A　うん）　嫌だ　と　言っていても

イクラデモ　キメリャ　イクモンダッテ　（A　{笑}）
いくらでも　決めれば　行くものだと　（A　{笑}）

ソー　イテテ　　オマン　キメテシマータモン。（E　{笑}）
そう　言っていて　あなた　決めてしまったもの。（E　{笑}）

78A：キメリャー　イ。　（一同　{笑}）
決めれば　いい。（一同　{笑}）

79B：ホーシテ　オメサン　キマットッテ　コイ　ッテ　イテ
そして　おまえさん　決まっていて　来い　と　言って

マーン　X４ノ　ウチ　　キタスケサ　ソシャ
あなた　X４の　家［へ］　来たからね　それじゃ

オレモ　ホントネ　ソンナニ　カッテナ　コト　　シルアンダラ
私も　ほんとうに　そんなに　勝手な　こと［を］　するのなら

オヤダナン　テ　イートラレンワ
親だなど　　と　言っていられないよ

オレモ　シトツ　ヤリマショー　ト　オモッテ
私も　　ひとつ　やりましょう　と　思って

ソレカラ　オマン　キップ　アノ
それから　あなた　切符　　あの

X４カラ　アレシテ　アイサツシテ　デタンダケン
X４から　あれして　挨拶して　　出たのだけれど

ジブンノ　ゲッキュー　モラッテ　デタソェ　（A　ンー）
自分の　　月給［を］　もらって　出たから　（A　うん）

ニモツァー　ミーンナ　モッテッタンダケンネー
荷物［は］　みんな　　持っていったのだけれどね

ゲッキューダケ　イチバン　シマイニ　モラウモンダモン
月給だけ　　いちばん　最後に　　もらうものだもの

（A　ンー）　ソノ　ゲッキュー　モラッタソェ
（A　うん）　その　月給［を］　もらったから

ポッポ〔28〕エ　イレテ
懐へ　　入れて

コーット　キシャン　ノッテ　イッタンダーネ。
さっさと　汽車に　　乗って　行ったんだよ。

80A：ドッカエ。
　　どこかへ。

81B：コーリヤママデ　ニゲテッタ。
　　郡山まで　　逃げていった。

82E：ン　ハ。　コーリヤママデデスカ。　ウーワ。
　　ん　は。　郡山までですか。　　うわぁ。

83B：ホーデ　キシャン　ナカデネ　デンポー　ウツ　ッテ　イータラ
　　それで　汽車の　中でね　電報を　打つ　と　言ったら

　　マワリニ　オマン　デッカイ　アリャ　アキンドダネ
　　まわりに　あなた　大きい　あれは　商人だね

　　デッカイ　フルシキニ　ニモツ　　カンダ　シタサー
　　大きい　ふろしきに　荷物［を］　担いだ　人［が］ね

　　（A　ンー）　オッテー
　　（A　うん）　いて

　　ネーサン　エライ　アワタダシイネー　ドッカエ　イクンデスカー
　　姉さん　えらく　あわただしいね　どこかへ　行くんですか

　　ッテ　ユーソェ
　　と　いうから

　　イエ　ワタシ　イマ　コーリヤママデ　イキタイト　オモイマス
　　いえ　私［は］　今　郡山まで　行きたいと　思います

ッテ　イータラ　デンポー　　カク　ウツ　ッチャ
と　　言ったら　電報［を］　××　打つ　というのは

キシャン　ナカデ　デンポー　　ウツ　ッチャ
汽車の　　中で　　電報［を］　打つ　というのは

ドーヤッテ　ウツンデスネー　テ　イタラ
どうやって　打つのですか　　と　言ったら

コー　ヤッテ　コー　ヤッテ　シャ　　ワシ　ワシカ゜　ウッテヤルヨ
こう　やって　こう　やって　じゃあ　私　　私が　　打ってやるよ

ッテ　イテネー　カイテクレテ
と　　言ってね　書いてくれて

26↑27

ソシテ　アノ　シャショーサンニ　ワタシテクレタン。
そして　あの　車掌さんに　　渡してくれたんだ。

（C　ハー）　（A　ンー）
（C　はあ）　（A　うん）

ソシタラ　ソノ　コーリヤマエ　デンポワ　トドイタンネ。
そしたら　その　郡山へ　　電報は　　届いたんだね。

（C・E　{笑}）　ソンダケン　　オッカナーテ〔29〕
（C・E　{笑}）　それだけれど　恐ろしくて

マドカラ　ノゾカレルカト　オモーテネー
窓から　　のぞかれるかと　思ってね

オッカナイモンダソェ　ベンジョン　ナカエ　ハイッテ
恐ろしいものだから　便所の　中に　入って

キシャ　イコ°ク〔30〕マデ　カクレトッター。
汽車が　動くまで　隠れていた。

ソシター　キシャ　イコ°イタスケネ　カエッテ
そしたら　汽車［が］　動いたから　帰って

コッチ　キテネー　スワリコンドッタラ
こっち［へ］　来てね　すわり込んでいたら

コンダ　ソノ　コーリヤマ　コーリヤマ　ッテ
今度は　その　郡山　郡山　と［いうので］

オリタケンドネー　ドッチ　イッテ　イーヤラ　ワカラン
降りたけれどね　どっち［へ］　行って　いいのか　わからない

ハジメテ　イッタ　オ　デッカイ　シダモンネー。（C　ハー）
初めて　行った　×　大きい　市だものね。（C　はあ）

ドコエ　オリャ　イケヤ　イーヤンダヤー　ト　オモーテ
どこへ　私は　行けば　いいのだろうかなあ　と　思って

オロオロ　シトッタラ　ソンデモ　アニヤ　ムカエニ　キタワネ。
おろおろ　していたら　それでも　兄は　迎えに　来ましたよ。

（C・E　{笑}）　ソレテ　ソンネ　ツイテキテ
（C・E　{笑}）　そして　それに　ついていって

イッシューカンバカ　ナーモ　イッテコン〔31〕シ
1週間ばかり　　何も　　言ってこないし

コリャ　ワカランカ°ダ
これは　わからないのだ

イー　ヤンバイダ　ト　オモーテ　（C・E　{笑}）
いい　塩梅だ　　と　思って　（C・E　{笑}）

シャ　オマエモ　ア　コー　ヤッテ　アスンドラレン
じゃあ　おまえも　×　こう　やって　遊んでいられない

ドコエ　デル　　ッテ　ユーソェ　ドコデモ　イーワネ
どこへ［働きに］出る　と　いうから　どこでも　いいよ

オレ　ジョチューデモ　イーシ　コーバデモ　イーシ
私［は］　女中でも　　いいし　工場でも　　いいし

ドコエデモ　デテクレ　デルワネ　テ　イタラ
どこへでも　××××　出ますよ　と　言ったら

ソシャ　コーバエ　デルカー
それじゃ　工場へ　　出るか

コーイ　イトシキ〔32〕ワ　コーイ　トコネ　アルワー
こういう　糸引き［の仕事］が　こういう　ところに　あるよ

ッテ　イテ　ハー　ドコデモ　イー　テ　イテネー
と　言って　はあ　どこでも　いい　と　言ってね

アシタカラ　ソシャ　　イケ　ッテ　イテ
明日から　　それじゃ　行け　と　　言って

ヤクソクシテキテ　イク　ッテ　イートッタラ
約束してきて　　行く　と　　言っていたら

ソノ　バンネ　ムカエネ　コラレテ　{笑}
その　晩に　　迎えに　　来られて　{笑}

84C：シメイテハイダ。　(E　{笑})
指名手配だ。　　(E　{笑})

85B：ナーシ　キタン　テ　イタラ
何しに　来たの　と　言ったら

ナーシ　キタ　ッチャ　　アルカ　バカモンメ　ッテ　イテ
何しに　来た　ということが　あるか　ばかものめ　と　　言って

シカラレテ。　(A　{笑})
しかられて。　(A　{笑})

86A：ダレヤ　イッタン　ムカエ。
誰が　　行ったの　迎えに。

87B：オラ　バンバサ〔33〕　オンノ　オヤ。　(A　ンー　ンー)
私の　ばあちゃん　　私の　　親。　　(A　うん　うん)

ホェデ　ナンシ　キタン　テ　イータラ
それで　何しに　来たの　と　言ったら

ナーシ　キタ　ッチャ　　アルカ　バカモンメ
何しに　来た　ということが　あるか　ばか者め

シトノ　ユー　コトモ　キカント　　テ　イテ
人の　　いう　ことも　聞かないで　と　言って

シテネー　ユー　コト　　キートリャ
そしてね　いう　こと［を］　聞いていたら

オリャ　エライ　　メニ　アウスケネ　ニケ°テキタンニ
私は　　たいへんな　目に　あうから　　逃げてきたのに

ナニ　　イートランダ　　ッテ　イーテタラ
何［を］　言っているのだ　と　　言っていたら

ソンナニ　ワリャ　　イー　ソンナナ　　コト
そんなに　おまえは　××　そんなような　こと［を］

イートルヨーナラ　　ハェ　ドーショーモナイソェ　オリャ
言っているようなら　もう　どうしようもないから　私は

ウミデモ　　カワエデモ　ハイッテ　シンデク　　ッテ　ユーソェ
海［へ］でも　川へでも　　入って　　死んでいく　と　　いうから

コリャ　タイヘンダ　オヤ　コロシテマデ
これは　たいへんだ　親を　殺してまで

オリャ　コー　ヤットラレン　　テ　　{笑}
私は　　こう　していられない　と［思って］　{笑}

マルデ　ムカシバナシミタイナモンダ。
まるで　昔話みたいなものだ。

ツイテキタラ　　ハェ
ついて［帰って］きたら　もう

キタン　マタ　イッテ　ニゲ゜タ　ッテ　イヤ　コマルソェ
来たのが　また　行って　逃げた　と　言えば　困るから

ハェ　スク゜　ツレテッテクレ　ッテ　イーテ
もう　すぐに　連れていってくれ　と　言って

ホェテ　コッチノ　ショワ　オマン　ソシャ　ハェ
そして　こっちの　人は　あなた　それじゃ　もう

ヒヤ　マダ　ムコーダケン
日は　まだ　向こうだったのだけれど

ジューシチンチニ　シマイカ〔34〕　ッテ　イテ
17日に　しようじゃないか　と　言って

ホシテ　オマン　ジューシチンチニ　ムリヤリ　ツレテコラレタン。
そして　あなた　17日に　むりやり　連れてこられたのだ。

{笑}　ソンデ　ハェ　オジャンサ。
{笑}　それで　もう　だめね。

ドコエモ　ニゲテク。　（C・E　{笑}）
どこへも　逃げていく［なんて］。（C・E　{笑}）

ソンデモネー　ウチエ　モメテネー
それでもね　　家で　　もめてね

オラ　オマン　オ　オーノ　バーチャテ　　モナー
私の　あなた　×　私の　　ばあちゃんって　人は

オッカナイ　バーチャラッタノ。　（A　ンー）
恐ろしい　　ばあちゃんだったの。（A　うん）

ナンダ　カンダ　ッテ　イテ　　オマン
なんだ　かんだ　と　　言って　あなた

ヘホドノ　コトデモ　リクツ　　ツケチャ　シカ　オコルシ
屁ほどの　ことでも　理屈［を］　つけては　××　おこるので

コンナ　トコネ　　オリャ　オランタテ　ドコデモ　イッテ
こんな　ところに　私は　　いなくても　どこでも　行って

ゴハンクライ　モラッテ　クワレルソェ
ご飯くらい　　もらって　食べられるから

オラ　ドコデモ　　イキマショト　オモーテ
私は　どこ［へ］でも　行こうと　　思って

フルシキズツミ　　カッコシラエテ　マー　センチャナヤ〔35〕エ
風呂敷包み［を］　こしらえて　　まあ　便所小屋に

ドンダケ　カクシタモンダイラ　ワカランネ。
どれだけ　隠したものだやら　　わからないね。

(A　オー　コンダ　ウエカリノ　バーチャカネ)
(A　おお　今度は　上刈の　　ばあちゃんかね)

27↑

――― 中　略 ―――

88C：ムカシャ　コノ　ヘン　　ズーット　コー
　　昔は　　この　あたり［に］　ずっと　　こう

↑28

　　カワニ　スイ　スイシャゴヤ　　アッタケドサー
　　川に　　××　水車小屋［が］　あったけどね

　　ナンケ゜ングライ　アッタモンダヤネー。
　　何軒くらい　　あったものだろうかね。

89A：ソーダネー　イチバン　ウエワ　アー　ソノー
　　そうだね　　いちばん　上は　　ああ　その

　　イマノ　シッ　X6サノ　　アッコ　ウラノ
　　今の　　××　X6さんの　あそこ　裏の

　　(C　ハー　ハー)　アッコネ　シトツネー
　　(C　はあ　はあ)　あそこに　ひとつね

　　ソェカラ　オラ　マエデネ　　シトツ　ソレカラ　コエヤン
　　それから　私の　［家の］前にね　ひとつ　それから　「紺屋」さん

　　ソェカラ　ソノ　イマノ　イチノヤ〔36〕ノ　トコネ　　シトツ
　　それから　その　今の　「市野屋」の　　ところに　ひとつ

アッタワ。　（C　アー）　（B　ホー）　アー。
あったよ。　（C　ああ）　（B　ほう）　ああ。

ソエカラ　（C　ヒヤ　ヒヤマ〔37〕　ッテ　イタカイネー）　ハー
それから　（C　××「飛山」　って　あったかね）　はあ

ヒヤマサ　ソレカラ　コンダー　カサハラ。
「飛山」さん　それから　今度は　「笠原」。

90B：ンー。　ソーカネー。
ふうん。　そうかねえ。

91A：イツツ　アッタワ。
五つ　あったよ。

92B：イツツモ　アッタモンネー。
五つも　あったもんね。

93A：ンー。
うん。

94C：アレ　イシウスデ　コメ　ナンジョゴメ
あれ［は］　石臼で　米［が］　何升米［が］

ハイルワンダヤ　イッカイ　ツクッチャ。
入るのだろうか　1回　つけば。

95A：イヤ　ココラノカ゜ワネー　アノー　ハンジョバリ〔38〕　ッテ
いや　このあたりのはねえ　あの　半升ばり　と

イテネ　（C　ニトダ）　（B　ンー。　チッチャエ）
言ってね　（C　2斗だ）　（B　うん。　小さい）

ツクカ°ーネー　ムカシノカ°ダソェ　ニト　ニト
つく奴はねえ　昔のものだから　2斗　2斗

ナナショ　ゴンコ°　ハレタンダ。　（C　ハー）　ハー。
7升　5合　つけるのだ。　（C　はあ）　はあ。

ゴト　ゴショーオ　ワケテ　ハルワンダソェ　ハー。
5斗　5升を　分けて　つくのだから　はあ。

96B：フーン。　ムカシャー　ゴト　ゴショダッタンダモンネー。
ふうん。　昔は　5斗　5升だったのだものねえ。

97A：アー　ゴト　ゴショダッタ。
ああ　5斗　5升だった。

98B：チカラモチダッタダネー　ソレ　オモエヤネー。
力持ちだったんだねえ　それ［を］　思えばねえ。

99C：ソン　ドキノ　コサクノ　ネング　ッチャ　ミナ　マー
その　時の　小作の　年貢　というのは　みんな　まあ

ミトル　マエデ　ハカルモンカネ。
見ている　前で　計るものかねえ。

100A：ハー　ハー。
はあ　はあ。

101B：ナンボモ〔39〕　モッテッチャーネー。
　　いくらでも　　持っていってしまうね。

102A：ソリャ　アノネー。
　　それは　あのねえ。

103B：アンネ　イッピョー　ニヒョーッテネ　（A　ンー）
　　あのね　1俵　　2俵とね　　（A　うん）

　　モッテッテ　　オレモ　サーンザ　オマンタ
　　持っていって　私も　　さんざん　お宅の

　　（A　ウチノ　フクロエ　イレテッテ）　　ウチカラ
　　（A　家の　　袋に　　入れていって）　家から

　　リヤカデ　　ヒッパッテ　X7サンネ
　　リヤカーで　引っ張って　X7さんに

　　ウワカリシタワ〔40〕。
　　／／／／／／／

104C：ジャー　イット〔41〕マスデ　ハカルンカ
　　じゃあ　1斗枡で　　計るのか

　　イッショ〔42〕マスデ　ハカルンカ。
　　1升枡で　　計るのだろうか。

105A：イヤ　　イットマスダ。　ハー。
　　いや［それは］　1斗枡だ。　はあ。

106B：イットマスダ。　ホェタッチャ　　オラ　　Ｘ８ネ
　　１斗枡だ。　　そうしたところが　私の［子の］　Ｘ８に

　　ホエチャネ　カーチャ　オマン　ソンナニネ
　　そしたらね　母ちゃん　あなた　そんなにね

　　Ｘ７サン　　オダイジンナンダッテ　ソノカ゜ネ　ソンナネ
　　Ｘ７さん［は］　資産家なんだそうだ　それなのに　そんなに

　　オマン　オコメ　　クレンデモ　イーネカ　　ッテ
　　あなた　お米［を］　やらなくても　いいじゃないか　と

　　ナーンシテ　Ｘ７サン　　ソンナネ　モッテクワンダ　ッテ
　　どうして　Ｘ７さん［へ］　そんなに　持っていくんだ　と

　　{笑}　イーチャ　オッタモンダワイネ。
　　{笑}　言っては　いたもんだよ。

107C：ジャ　ミトル　マエデ　イットマスデ　ハカッチャ
　　じゃあ　見ている　前で　１斗枡で　計っては

　　ネング　　ドンダケ　ッテーテ　ヤッタ　ワケダンネー。
　　年貢［は］　どれだけ　と言って　やった　わけだね。

108B：オラ　イッタ　ジブンナ　ハェ　イッピョー　ニヒョーテ
　　私が　行った　頃は　　もう　１俵　　２俵と

　　アノ　ヒ　シトイレン　ナッタソェニネ。
　　あの　×　４斗入れに　なったからね。

109A：シトイレン　ナッタロ。　　アー　シトイレン　ナッタ。
　　４斗入れに　なっただろう。　ああ　４斗入れに　なった。

110B：イッピョー　ニヒョー　ハチヒョー　ハ　アノ　ナンド
　　１俵　　２俵　　８俵　　×　あの　何斗

　　ゴショートカ　ッテ　イーテネー　ハシタダケ　ハカッタケンネー。
　　５升とか　　と　　言ってね　　半端だけ　　計ったけれどね。

28↑29

　　イッピョー　ニヒョーノ　ソノ　ヨントダケズツノカ°
　　１俵　　２俵の　　その　４斗だけずつのもの［を］

　　ハェ　アレニ　シテ。
　　もう　あれに　して。

111A：ムカシャー　アノ　ゴト　ゴショオ
　　昔は　　あの　５斗　５升を

　　イッピョート　シタモンデスワネ。
　　１俵と　　したものですよ。

112E：ハー　ムカシワネー。　（A　ハェ）　フーン。
　　はあ　昔はね。　　（A　はい）　ふうん。

113A：ソェテ　アノ　ジブンノ　イレモンニ　エレテ　モッテッテ
　　そして　あの　自分の　　入れものに　入れて　持っていって

　　ソシテ　ムコーエ　イッテー　ソノー　オー　コサクリョーオ
　　そして　向こうへ　行って　　その　　おー　小作料を

ソノ　ワタサン　ドキ　ハカッテネー　（B　ンー）
その　渡す　　時　　計ってね　　（B　うん）

ムコーノ　ショワ　チャント　トボ〔43〕　トボ　　モッテ
向こうの　人は　　ちゃんと「とぼ」　「とぼ」［を］　持って

コノー　アノ　マルッコイ　アレネー　（C　ハー）
この　あの　丸い　　あれね　　（C　はあ）

モッテ　ホシテ　ムコーノ　ショワ
持って　そして　向こうの　人は

トボ　　ヤルン。
「とぼ」［を］　やる［＝山盛りの部分をすりきりにする］のだ。

114B：シット　サェデ〔44〕　ソノ　ガメツイ　ウチ　イッタッチャ
／／／　それで　　その　がめつい　家へ　行ったとなると

コーンテ　タタク　ッチャン。　（A　{笑}）
コーンと　たたく　というんだ。　（A　{笑}）

ソシャ　　エーカンネ　ヘル　チャンダーネ。
そうすると　かなり　　減る　というんだね。

115A：ソーダワネ。
そうだよ。

116B：ソレ　　オラ　　ジーチャ
それ［を］　私の［家の］　じいちゃん［は］

オンネ　ユーテカシタモンダ　　シンダ　ジーチャネー。
私に　　言って聞かせたものだ　死んだ　じいちゃん［は］ね。

ムカシャーナー　ソー　ヤッテ　キビシー　レンコ°ー〔45〕デ
昔はね　　そう　やって　厳しい　年貢で

アッタモンダ　ッテ　イテー。　コーンテ　タタケヤ
あったものだ　と　　言って。　コーンと　たたけば

イチコ°ークライ　ヘッテク　　チャン。
１合くらい　　減っていく　というんだ。

ソ　　シチャ　トボ　　カケルアンダ　チャン。
そう　しては　「とぼ」［を］　かけるんだ　というんだ。

117A：ソシテ　ワリトボ　　テンカ°　　アルワン。
そして　「わりとぼ」　というのが　あるのだ。

タダ　ハジノー　コノ　マス　　コリャ　　マー
ただ　端の　　この　枡［が］　これ［が］　まあ

イットマスナラネー　ココエ　コノ　ハジ　ノシテー
１斗枡ならね　　ここへ　この　端に　のせて

ソシテ　スーット　ヒク　ヒクー　ヒキカタモ　アル。
そして　すっと　　引く　引く　　引きかたも　ある。

（E　ハェ）　ワリトボ　　テンカ°　　アタマカラ　コノ
（E　はい）　「わりとぼ」　というのは　頭から　　この

ボー　スーット　コノ　イマノ　ヤマモリニ　ナットル
棒［を］　すっと　この　今の　山盛りに　なっている

コメノ　ウエー　スーット　オロシテ　（E　ンー）
米の　上へ　すっと　おろして　（E　うん）

ソシテ　リョーホーエ　コーシテ　（B・E　ンー）
そして　両方へ　こうして　（B・E　うん）

ホシャー　アンタ　ソノ　イマノ
そうすれば　あなた　その　今の

コレクライノ　コレクライノ　ボーダモンネー　（E　ンー　ンー）
これくらいの　これくらいの　棒だものね　（E　うん　うん）

ソリャ　ソレデモッテ　オサレルモンダモン
それは　それでもって　押されるもんだもの

ハェ　ナンブカ　（B　ハイッテクル）
もう　何分か　（B　入ってくる）

リョーワ　ヨケー　ハイッテクルワネ。　ハェ。
量が　よけいに　入ってきますよ。　はい。

118E：ナールホドネー。　（A　ワリトボ　ッテ　ンー）
なるほどね。　（A　「わりとぼ」　と［言って］　うん）

ワリトボ。
「わりとぼ」。

119A：ソラ　マー　アノ　チヌシワ　キ　キビシカッタモンダワネ。
それは　まあ　あの　地主は　×　厳しかったもんだよ。

120E：ンー。
ふうん。

121A：ハェ。
はい。

122C：ソリャ　イヤダラ　タンボ　カセンゾー　ッテ
それが　嫌なら　田んぼ［を］　貸せないぞ　と

イワレルモンネー。
言われるものね。

123A：ソー　ソー。
そう　そう。

124B：ソイヤン。
そうなんだ。

125C：ンデ　ヒャクショー　アガッタリダ。
それで　百姓［は］　あがったりだ。

126E：ナルホドネー。
なるほどね。

127B：ナニ　ユワレテモ　オヤッサンノ　コター
何［を］　言われても　地主様の　［いう］ことは

へー　へー　へー　へーテ　イワンナランカッター。
はい　はい　はい　はいと　言わなくてはならなかった。

128C：ソノ　ジブンナ　イッタンブ　ナンビョーク°ライ
その　頃は　　1反歩　　何俵くらい

トレタモンダヤネー。
とれたものだろうね。

129B：ソノ　ジブンナ　タント　　トレンカ°ンネー。
その　頃は　　たくさん［は］　とれないのだね。

130A：トレンカ°ダワネ。　ソレモ　イマノ。
穫れないんだよ。　それも　今の。

131B：イマノ　オモイ　シリャ　ハンブンバ　トレルカ
今の　思いを　すれば　半分を　　穫れるか

（A　アノー）　ソンナモンダワネ。
（A　あの）　そんなもんだよ。

132C：ロッピョーク°ライカ。
6俵ぐらいか。

29↑30

133A：ヒリョーワ。
肥料は。

134B：ロッピョーモ　ドイヤンダイラネー。
6俵も　　どうなんだかね。

135A：ヒリョーワ　ホーフデナカッタソェニ　（B　ソー　ソー）
　　肥料が　　豊富でなかったから　　（B　そう　そう）

　　イマ　ユー　マチカラ
　　今　　いう　街から

136B：マチカラ　アケ°テ　キチャ　コヤシ　　ヤッテ
　　街から　上げて　きては　肥料［を］　やって

　　アレシチャ　ミンナ
　　あれしては　みんな

137A：ソーユーヨナ　　アレオ　モッテキテ　オッタソェネー　ソノー
　　そういうような　あれを　持ってきて　いたからね　　その

　　イネ　ッテ　　モナー　ジューブン　デキテオランカ°ダワネ。
　　稲　　という　ものは　十分　　できていなかったんだよ。

　　ハェ。　ホェデ　マー
　　はい。　それで　まあ

　　ソーユー　ヒリョーノ　ヤレエンヨナ　　モノワ　イシバエデ
　　そういう　肥料の　　やれないような　者は　　石灰で

　　モトコ°エカラ　イシバエ　　マイテ
　　基肥から　　石灰［を］　まいて

　　（B　ソー　ソー　ソー。　イシバエ　　マイテネー）
　　（B　そう　そう　そう。　石灰［を］　まいてね）

ホシテー　ナーモ　チッソブナ　　ナイカ°ヤサー
そして　　何にも　窒素分［が］　ないんだよ

（B　ソー　ソー）　イシバエ　マイテ　ツクッター　モンナンダー。
（B　そう　そう）　石灰［を］　まいて　作った　　ものなんだ。

（B　ソー　ソー）　ンー。
（B　そう　そう）　うん。

138E：イシバエ　　ッテノワ。
「いしばえ」　というのは。

139A：セッカイ。
石灰。

140B：セッカイ。
石灰。

141E：ハー　ハー　セッカイネ。　ハー　ハー。
はあ　はあ　石灰ね。　　はあ　はあ。

142A：ハー。　セッカイオ　モトコ°エニ　シテー　マタ
はあ。　石灰を　　基肥に　　して　　また

ツイヒモ　セッカイニ　シテ　（B　セッカイ　　シテネー）
追肥も　　石灰に　　して　（B　石灰［を］　してね）

ナーモ　アンタ　チッソブンナ　ナイヤン。
何にも　あなた　窒素分は　　ないんだ。

143B：テモ　アシモ　アカー　シチャ　タノ　クサ
　　手も　足も　赤く　しては　田の　草［を］

　　カイタモンダ。　{笑}
　　取ったものだ。　{笑}

144C：ミヤ　ハイランダローネー。
　　実は　入らないだろうねえ。

145A：アー　ソノ　カワリ。
　　ああ　その　かわり。

146B：ソンダー　タケヤ　ミチカイケンド　バチバチノ　ミヤ　ハイル。
　　それで　丈は　短いけれど　ばちばちの　実が　入る。

147A：カ　カターイネー　（C　ハー）　カターイ　コメン　ナルワネ
　　×　硬いね　（C　はあ）　硬い　米に　なるよ

　　（B　ンー）　カリブンバーカダモン。
　　（B　うん）　カリ分ばかりだもの。

148B：セヤ　コンナナ　チッチャエ　セーデネー。
　　背は　こんなに　小さい　背でね。

149A：アー。
　　ああ。

150C：ソレ　マタ　ネンク°ワ　ハンブンダモンネー。
　　それ［で］　また　年貢は　半分だものね。

151B：ウン　ソイヤン。　トレンカ°ン　タメネ　ハンブン　ナルモン。
うん　そうなんだ。　とれない　ために　半分に　なるもの。

ダソェ　オレ　（C　クーテイカレン　ワケダ）
だから　私［は］　（C　食べていけない　わけだ）

クーテイカレンカ°ンダ。
食べていかれないんだ。

152A：ホェデー　ダイタイネー　ココワー　エー　トコ
それで　だいたいね　ここは　よい　ところ

ホントノ　ゴク　トクトーデン　テンカ°　ゴコ°ー　アノ
ほんとうの　極　特等田　というのが　5合　あの

コサクリョーネ　（B　ンー）　トクトーデンワ　ゴコ°ー。
小作料ね　（B　うん）　特等田は　5合。

＊＊　トクトーデン　テカ°ー　コノ　ウエカリノ　ブラクニャ
＊＊　特等田　というのは　この　上刈の　集落には

ソー　ナカッタモンダ。　（B　ンー）　ソェデ　アトワネー
そう　なかったものだ。　（B　うん）　それで　あとはね

シトツボネ　ヨンコ°ー〔46〕　サンセキ〔47〕　ゴサイ〔48〕
1坪に　4合　3勺　5才

テー　トコワ　ヒロカッタワネ。　ハェ。
という　ところが　広かったよね。　はい。

ヨンコ°ー　サンセキ　ゴサイ。
4合　　3勺　　5才。

153C：シトツボニ。
1坪に。

154E：ナルホド　ヒトツボニ。
なるほど　1坪に。

155A：シトツボニ。　ソレカラ　コンダー　ヨンコ°ー
1坪に。　それから　今度は　4合

ソェカラ　サンコ°ー　ハッセキ　ソ。
それから　3合　　8勺　　×

156B：サンダンカイネ　ワカレトッタンネー。
3段階に　　別れていたんだね。

157A：ハー　サンコ°ー　ハッセキ　ソノ　ツキ°ャ　アノ
はあ　3合　　8勺　　その　次は　　あの

サンコ°ー　ゴセキ。　サンコ°ー　ゴセキ　テ　ユー　トコア
3合　　5勺。　3合　　5勺　と　いう　ことは

ヨホド　ヒメカワノ　ホーエ　イカナーネー　（B　ンー）
よほど　姫川の　ほうへ　行かなければね　（B　うん）

サンコ°ー　ゴセキ　テ　ユー　トコア　ソー　ナカッタモンダ。
3合　　5勺　と　いう　ところは　そう　なかったものだ。

158E：ンー。
うん。

159C：アノ　ドー　ヤッタッテ　イチネンカンノ　コメ
あの　どう　やっても　１年間の　米［は］

ナイ　ワケダ。
ない　わけだ。

160A：オマンタ　アノー　アラタアタリワ　アリャー　アレダローナー
お宅の　あの　荒田あたりは　あれは　あれだろうな
30↑31

アノー　サンコ°ー　ハッセキ　ダッタンナイカヤー
あの　３合　８勺　だったのではないかなあ

（C　アー）　アッコラ。　（B　フーン）　ンー。
（C　ああ）　あのあたりは。　（B　ふうん）　うん。

ダイタイ　アラタヘンワ
だいたい　荒田［の］あたりは

ダイタイ　サンコ°ー　ハッセキダッタ。
だいたい　３合　８勺だった。

161C：サントーデン〔49〕　テ　ワケカ。
三等田　という　わけか。

162A：ヒロタワ　ヨンコ°ー　サンセキカ°　オーカッター。
広田は　４合　３勺が　多かった。

163B：ソーダネ　ヒロタワ　イチバン　タカイ　トカー。
そうだね　広田は　いちばん　高い　ところは

マー　ヒロタン　ホーカ°　イチ　イチバン　コメヤ
まあ　広田の　ほうが　××　いちばん　米が

トレタローネ。
穫れたろうね。

164A：トレタ　ソリャー　（B　ンー）　タンボァ　ヨカッタソェネー。
穫れた　それは　（B　うん）　田んぼは　よかったからね。

165B：ヨカッタスェ。　カワラエ　イッタッチャ　ハェ
よかったから。　川原へ　行ったとなると　もう

ツクリッキカ°　ウスイ〔50〕スカェニネー
肥料分が　少ないからね

（A　ンー　ンー）　エー　タンボダッテモ　ソノ　ワリニ
（A　そう　そう）　いい　田んぼでも　その　わりに

トレンカ°ンダッチャ。
穫れないのだよ。

166A：タダ　イシワラダモン。
ただ　石原だもの。

167B：イシワラダスェ。
石原だから。

168A：ソレデー　コサクリョーワ　イク　イクラカッテ
それで　小作料は　××　いくらかと

イウェヤ　マ　ソーイヨナ　グワイデサー　（E　ンー）
いえば　ま　そういうような　ぐあいでね　（E　うん）

ホェデ　ソノ　シューカクワ　ホンナラ　ドレクラエ
それで　その　収穫は　それなら　どれくらい

アルカッテ　ユー　コトダワネー。
あるかと　いう　ことだよね。

169E：ハー　ンー　ソーデスネー。（A　ハェ）　ソノ
はあ　うん　そうですねえ。（A　はい）　その

トシニヨッテ　チガッテクル　ワケデスカラネー。
年によって　違ってくる　わけですからね。

170A：ハェ。　ンーダケン　アンター　イッタンブーネ
はい。　それだけれど　あなた　１反歩に

ソーダネー　ホントノ　ホーサクデ　ハチヒョ
そうだね　ほんとうの　豊作で　８俵

マ　アノ　シトイレネ　シテネ　ハチヒョ。
まあ　あの　４斗入れに　してね　８俵。

ソシャ　イクラン　ナルネ。
そうすれば　いくらに　なるかね。

171E：ソー　ユー　ケーサン　　ワタシャ　ヨク　ワカラナイ　　{笑}
　　そう　いう　計算［は］　私は　　よく　わからない。　{笑}

172A：イッタンブ　サンビャクツボ。　ハェ。
　　1反歩　　300坪。　　はい。

173C：サンコ゜ク　ニト　アレバ。
　　3石　　2斗　あれば。

174E：ゼンゼン　ワタシ　コーイノ　　ヨク　ワカラナイデスワ。
　　全然　　私　　こういうの［は］　よく　わからないですよ。

　　{笑}
　　{笑}

175A：ソレデ　アノ　アレダ　ソノ　コサクリョーワ
　　それで　あの　あれだ　その　小作料は

　　マー　ソノ　イマノ　オー　ニトーデンデネ　エー
　　まあ　その　今の　おー　二等田でね　　えー

　　ヨンコ゜ー　サンセキ　ゴサイ。　（E　ソーデスネー）
　　4合　　3勺　　5才。　（E　そうですね）

　　ソレオ　サンビャクツボ　ヨシテミテクンナイ。
　　それを　300坪　　足してみてください。

　　（E　ソーデスネー）　{間}
　　（E　そうですね）　{間}

176C：ドー　ヤッテモ　クッテイカレン　ヨナ　　シクミニ　{間}
　　どう　やっても　食べていけない　ような　仕組みに　{間}

　　ナットッタンダ。
　　なっていたのだ。

177B：ソーイヤン。　ウーノ　マーノ　　オ　オートル〔51〕　ショワ
　　そうなんだ。　うんと　前のものを　×　引き継いでいる　人は
　　31↑32
　　マダ　ヒネーノ　コメ　　オートル　　ショワ
　　まだ　古い　　米［を］　引き継いでいる　人は

　　ツキ゜ノ　トシノ　ジュ　イチカ゜ツコロマデ　クートッタケンネー
　　次の　　年の　　××　１月頃まで　　食べていたけれどね

　　ハェ　オマン　トルカ゜　マットッテ　クーワンダモン。
　　もう　あなた　穫るのを　待っていて　食べるのだもの。

　　ソンダモンダモン　ハェ　シ　ショーカ゜ツ　コシタチャ
　　そんなもんだもの　もう　×　正月［を］　越したとなると

　　クー　　モノワ　ナイヤン。
　　食べる　ものは　ないんだ。

178A：シコ゜ー　サンセキ　ゴサイオ　サンビャクツボ　ッチャ
　　４合　　３勺　　５才を　　300坪　　というと

　　イクラン　ナリマスネ。
　　いくらに　なりますね。

179E：エートネー　センサンビャク　アノ　センサンビャクゴーカナ。
　　ええとねえ　1,300　　××　1,300合かな。

180A：サンビャクツボ。　シコ゜ーテ　サンシ　チュー
　　300坪。　　4合と　　3、4　というと

　　イチコク　ニトダネー。
　　1石　　2斗だね。

181C：イチコク　ニト。
　　1石　　2斗。

182A：ソェ　サンセキ　サンセキ　ッチャ　サザンカ゜　キュー。
　　それで　3勺　　3勺　　というと　3、3が　9。

183E：イチコクー　イチコク　サントーク゜ライデスネー。
　　1石　　1石　　3斗くらいですね。

184C：キューショー。
　　9升。

185E：ソー　スットー。
　　そう　すると。

186C：イチコク　ニト　キューショーカ。
　　1石　　2斗　9升か。

187E：ンー。　ソーインデスネー。
　　うん。　そうなんですね。

ソースット　チョード　ハンブンクﾟライ　アレデスカ。
そうすると　ちょうど　半分くらい　　あれ［＝小作料］ですか。

188C：ハー。
はあ。

189B：マー　ハンブンワ　トラレタモンダネー。
まあ　半分は　　とられたものだね。

190E：ハー　ハンブンクライデスネ　　チョード
はあ　半分くらいですね　　ちょうど

ハンブンクライダ。
半分くらいだ。

191A：ソレデ　コンダ　ヒリョーダイ　ハラワンナラン。
それで　今度は　肥料代［を］　払わなくてはならない。

192E：アー　ソレ　イカﾟイニ　（A　ハェ）　ネー。　フーン。
ああ　それ　以外に　　（A　はい）　ねえ。　ふうん。

193A：ソレデー　ソノ　コンダ　フサクテンカﾟ　アルソェネー。
それで　　その　今度は　不作というのが　あるからね。

ソレデ　ソノ　ドーシテモ　ハェ　ソノ　ラクニャ　ナレンカﾟンダワ。
それで　その　どうしても　もう　その　楽には　　なれないんだよ。

ンダソェネー　ココノ　ブラクデネー　アノー
だからねえ　　ここの　集落でね　　あの

ホントーノ　マジメナ　ノーカデ　イッショーケンメーデ　ヤッテ
ほんとうの　まじめな　農家で　一生懸命で　やって

ソーシテ　マー　ワリアイニ　ソノ　サイナンノ　ナイ　ウチデ
そして　まあ　わりあいに　その　災難の　ない　家で

イッショー　ヒャクショー　シテ　アノ　ニタンブ
一生　百姓［を］　して　あの　2反歩［を］

カエリャー　エー　ハタラキダ　ッテ　イタモンダ。
買うことができれば　いい　働きだ　と　言ったものだ。

（B　ンー）　ニタンブノ　タンボ　ジブンノカ°ニ
（B　うん）　2反歩の　田んぼ［を］　自分のものに

シリャー　（B　ンー）　ンー　イッショー　ハタライテダヨー
すれば　（B　うん）　うん　一生　働いてだよ

（B・E　ンー）　ンー　ソシテ
（B・E　うん）　うん　そして

ソノ　シトノ　ダイニ　ニタンブ　カイエリャ
その　人の　代に　2反歩［を］　買うことができれば

ソリャー　カネ　ノコシタテ　（E　ンー）　ンー
それは　金［を］　残したと　（E　うん）　うん

アノ　ショワ　カネ　ノコシタッテ　コー　イワレタモンダワネ。
あの　人は　金を　残したと　こう　言われたものだよ。

194B：ソィヤンネ。
そうなんだね。

195A：ハー　カネヤ　ノコランカ゜ン。
はあ　金は　残らないんだ。

196C：ソノ　ジブンナ　ツボ　イクラク゜ライシタモンダローネ　タンボワ。
その　頃は　坪　いくらくらいしたものだろうね　田んぼは。

197B：ソリャ　ネダンモ　ヤスカッタローケンネ　ンー。
それは　値段も　安かったろうけれどね　うん。

198A：ソリャ　ネダンモ　コメモ　ヤスイシ　ネダンモ
それは　値段も　米も　安いし　値段も

（B　ソー　ソー　ソー）　アノ　タンボノ　ネダンモ　ヤスイワネ。
（B　そう　そう　そう）　あの　田んぼの　値段も　安いよね。

199C：フサクン　ドキワ　ボードーワ　オキンカッタモンカネー。
不作の　時は　暴動は　起きなかったものかね。

200A：マー　フサクノ　トキャネー。
まあ　不作の　時はね。

201B：ネンカ゜ニ　ヨッチャネー。
年度に　よってはね。

202A：アノ　ソンデモ　アノ　マケテクレ　アノー
あの　それでも　あの　まけてくれ　あの

コサクリョー　マケテクレ　ッテ　イテネー　アノー
小作料［を］　まけてくれ　と　言ってね　あの

ヨル　コトワ　アルワンダ。
集まる　ことが　あるのだ。

ナカナカ　ジヌシャネー　アノー　ヨーイネ　ヒカンカ゜ダワネ。
なかなか　地主はね　あの　容易に　ひかないんだよ。

（E　ンー　ンー）　ヒカンケン　ソエデモ　マー　アノー
（E　うん　うん）　引かないけれど　それでも　まあ　あの

ソノトキノ　クチョーワ　ヨケリャーネー　（C　ハー）
その時の　区長が　よければね　（C　はあ）

ソシタラ　マ　オモダチオ　ヨシテ　ソシテ　ソーダンシテクレテ
そしたら　まあ「重立」を　集めて　そして　相談してくれて

スコシワ　ヒーテクレタ。　ンー。
少しは　引いてくれた。　うん。

203B：ソー　ソー　ヒータネ　チョット。
そう　そう　引いたね　少し。

32↑

――― 中　略 ―――

204A：オラ　コドモノ　ジブン　ンダソェ
俺［が］　子供の　頃　だから

↑33

ガッコエ　イク　ッタッテ　　アマク°ヤナンカモネー
学校へ　　行く　と言っても　雨具やなんかもね

エー　アノ　イマノヨーナ　アマク°ワ　ムロン　ナイシ　マ
いい　あの　今のような　　雨具は　　むろん　ないし　まあ

ウリノモ　　ナカッタワネー　ソノジブン　（E　ンー）
売りものも　なかったよね。　その頃　　（E　うん）

ソンダケンド　ココノ　マー　イチバン　コノ　ブラクデ
だけれども　　ここの　まあ　いちばん　この　集落で

イチバーン　マー　アノ　カネカ°　アッター　ウチダッテ
いちばん　　まあ　あの　金が　　あった　　家だと

ユー　ショーワネー　アノー　トーキョーエ　イッテサー
いう　人はね　　あの　　東京へ　　行ってね

ホシテ　ソノ　トージネー　マント　ッテ　イーカ°
そして　その　当時ね　　マント　と　　いうもの［を］

カーテキタンネー。（E　ハー）　ンー。
買ってきたんだね。（E　はあ）　うん。

マント　ッテンカ°　　マダ　イトイカ°ワデモ　ハヤランカ°ン。
マント　というものが　まだ　糸魚川でも　　はやらないのだ。

（E　ンー）　ンー　ウ　ウッテモオランシ。
（E　うん）　うん　×　売ってもいないし。

ダケン　トーキョーエ　イッテ　ソシテ　カーテキタンネ。
だけど　東京へ　　行って　そして　買ってきたんだね。

(E　フーン)　ホーシタラ　コーンナナ　　マー　マント
(E　ふうん)　そしたら　こんなような　まあ　マント［を］

マー　キセテヤッテモ　トラレンカヤーテ　　(B　ンー)
まあ　着せてやっても　取られないかなぁと　(B　うん)

(C・E｛笑｝)　ウチノ　ショワ　シンパイシテー
(C・E｛笑｝)　家の　人は　心配して

(E　アー　ナルホド)　ホシテー　アノー　アー
(E　ああ　なるほど)　そして　あの　ああ

ノッシャ〔52〕ノ　アノー　ブンケ　テ　ユーカ
「塗師屋」の　　あの　分家　と　いうか

デイリ　テ　ユーカ　ローソクヤナン。　　(B　ウーン)
出入り　と　いうか　「ろうそく屋」なんだ。　(B　うん)

アノー　アレナン　ローソクヤノ　バーチャオ　ツケテヤルワン
あの　あれなんだ「ろうそく屋」の　ばあちゃんを　つけてやるのだ

(B　ホー)　(A・E｛笑｝)　マントノ　バンネ。
(B　ほう)　(A・E｛笑｝)　マントの　番に。

(B　ホー)　(E　｛笑｝)
(B　ほう)　(E　｛笑｝)

オクリムカエネ　ローソクヤノ　　バーチャオ　　ヤル。（B　ホー）
送り迎えに　　「ろうそく屋」の　ばあちゃんを　やる。（B　ほう）

ソレグラエ　　マー　キチョーナ　アマクデアッタネ。
それくらい　　まあ　貴重な　　雨具であったのだね。

ココニャー　マー　アノ　ウリネモ　　ナイシサー　（E　ンー）
ここには　　まあ　あの　売り［もの］も　ないしね　（E　うん）

キテオル　モンモ　ソー　ナイ。
着ている　者も　　そう　ない。

ソェカ　ソコノ　ショーカ　トーキョエ　イッテ
それが　そこの　人が　　東京へ　　行って

ソシテ　ソレオ　カーテキテ　ソノ　カワリ　アンジテネー
そして　それを　買ってきて　その　代わり　心配してね

ガッコエデモ　ソノ　コドモダケ　　ヤレエンデ
学校へでも　　その　子供だけ［を］　やることができないで

（B　ンー）　ツイテ　ソノ　デイリノ　モ　モノー
（B　うん）　ついて　その　出入りの　×　者［を］

ツケテヤッテネー　ソシテ　マタ　ムカエニ　イッテ。
つけてやってね　　そして　また　迎えに　　行って。

205C：ジャ　ソン　ドキャ　イッパンノ　コドモア
じゃ　その　時は　　一般の　　子供は

ナニ　　キテッタモンダヤ。
何［を］　着ていったものだろうか。

206A：イッパンノ　モナーネー　ガンド〔53〕
一般の　　者はね　　「がんど」［を］

キトッタモンダワネ。
着ていたものだよ。

207B：ガンド　　ッテ　　オラー　オリャネー
「がんど」　と［いえば］　私は　　私はねえ

（A　ア　ガンド　　カブッタ　モンモ　アルヨ）
（A　あ　「がんど」［は］　かぶった　者も　　あるよ）

オリャネー　チッチャエ　トキ　トーノ　　トキ
私はね　　小さい　　時　　10［歳］の　時

コシテキタンダスェネー　　キジヤ〔54〕　イッタンネ。
引っ越してきたんだからね　木地屋［へ］　行ったのだね。

ソシタラ　キジヤノ　ホーワ　ミンナ　コーユー　コ　サンカクノ
そしたら　木地屋の　ほうは　みんな　こういう　×　三角の

コー　ナッタネー　（A　ガンド）　　コー　ナッタ
こう　なったね　　（A　「がんど」）　こう　なった

ガンド　　ッテ　ユーカエネー　（A　アー　アー）
「がんど」　って　いうのかねえ　（A　ああ　ああ）

アレ　　カブットッタ。（A　ンー　ンー）
あれ［を］　かぶっていた。（A　うん　うん）

ダケン　オラ　アレダロネ　　コーモリモッテ　カーテクレテネー
だけど　私は　あれだろうね　傘を　　買ってくれてね

ソシテ　（A　ンー）　オラネ　コーモリ　サシテケテ　　イワン。
そして　（A　うん）　私に　　傘［を］　さしていけと　いうんだ。

（C　ハー）　ンーダケン　ユキャー　フルヨン　　ナッタッチャ
（C　はあ）　だけど　　雪が　　降るように　なったとなると

テヤ　ツメタイシ　カラダ　　サムイシネー
手は　冷たいし　　身体［は］　寒いしね

33↑34
オラー　イ　イク　イクカ°　ヤダッテ　ナキダシテ
私は　　×　××　行くのが　嫌だと　　泣き出して

オラモ　アー　ユー　モン　　カーテクレリャ　イクシ
私も　　ああ　いう　もの［を］　買ってくれれば　行くし

ソー　セニャ　　イカンテ　　イテ
そう　しなきゃ　行かないと　言って

ソノ　ガンド　　カブリターテネー
その「がんど」［を］　かぶりたくてね

カーテクレ　テ　イテ　　ネダッタ　コト　　アッタ。
買ってくれ　と　言って　ねだった　こと［が］　あった。

208A：アノネー　ガンド　テカ°ーネー　　（E　アー）
あのねえ　がんど　というのはねえ　（E　ああ）

アノ　ホラ　イネ　　アルデショ　イネノ　ワラ
あの　ほら　稲［が］　あるでしょう　稲の　藁

（E　エー　エー　エー）　ワラオネー
（E　ええ　ええ　ええ）　藁をね

（B　ワラデ　コシラエル）　キレーネ　スク°ッテ
（B　藁で　こしらえる）　きれいに　すぐって

（E　ンー　ンー　ンー）　クズ　　トッテ　（E　ハー）
（E　うん　うん　うん）　屑［を］　取って　（E　はあ）

ソシテ　ソレオネー　アノ　アムワンデスワネ。
そして　それをねえ　あの　編むんですよ。

（E　＊＊ネ。　ハー）　アンデ
（E　＊＊ね。　はあ）　編んで

ホラ　アノ　ヨー　アノ　フユノ　アレネー　デマスカ°ネ。
ほら　あの　よく　あの　冬の　あれに　出ますよね。

（E　ハイ　ワカリマス）　（一同　{笑}）
（E　はい　わかります）　（一同　{笑}）

コレオサー　（E　エー）　アノ　カブッテイッタ
これをね　（E　ええ）　あの　かぶっていった

(E　ココン　トコ　　コー　ムスンデ　＊＊＊ネ)
(E　ここの　ところ［を］　こう　結んで　＊＊＊ね)

ハイ　ハェ　ハェ。　エー。　(E　ンー　ナルホド)
はい　はい　はい。　ええ。　(E　うん　なるほど)

マタ　フユワネー　アリャー　ゴク　イーカ゜ダ　ユキャ
また　冬はね　あれは　とても　いいんだ　雪が

ツカンシ　(B　ホントワ　ソエネー)　イーカ゜デスワネ。
つかないし　(B　ほんとうは　それねえ)　いいのですよ。

209E：ナルホドネ。　ンー　ンー。　(A　ハェ)
なるほどね。　うん　うん。　(A　はい)

210B：ソレ　ホシーテ　ホシテ　ホーントネ　セツナカ゜ッテ
それが　ほしくて　ほしくて　ほんとうに　切ながって

オリャ　イータ　コト　アッタ。
私は　言った　こと［が］　あった。

211A：アー　マチカタノ　ショーワ　アノー
ああ　町方の　人は　あの

(B　ゴザノカ゜　アッタンネ)　ハー
(B　ござのものが　あったんだね)　はあ

オラ　イッタ　ジブナ　マー　ハェ
俺［が］　［学校へ］行った　頃は　まあ　もう

オラー　アノー　デカー　ナッタ　ジブナ
俺が　あの　大きく　なった　頃は

ミンナ　マントモ　ハヤッタケンドネー。　（E　ンー　ンー）
みんな　マントも　はやっていたけれどね。（E　うん　うん）

ホェ　ミッサキノ　ショーデモ　アンナネ　オマン
それで　水崎の　人でも　あんなに　あなた

シンダイノ　イー　ショバーカデモ　アノ　イマノ　ガンド
身代の　いい　人ばかりでも　あの　今の　「がんど」

（B　ハー）　ガンドモ　ソリャ　ワラガンドダ　ナイワ
（B　はあ）「がんど」も　それは「藁がんど」では　ないよ

（B　ンー）　アノー　ナンテ　ユーカ　コー　ユー
（B　うん）　あの　何と　いうか　こう　いう

（C　ゴザ）（B　ソー　ソー　ゴザノネー　ガンド）
（C　ござ）（B　そう　そう　ござのね　「がんど」）

ハー　ハー。　ゴザガンド。
はあ　はあ。「ござがんど」。

212E：アー　アー。　マタ　ワラトワ　ベツノ　（B　ベツ）
ああ　ああ。　また　藁とは　別の　（B　別）

スコシ　イーカゲンナ。
少し　いいかげんな。

213A：ハー　コイカ°ー　　アノ。
　　はあ　こういうもの［が］　あの。

214C：イッ　イッキュー　ウエナンダネ。　（E　｛笑｝）
　　××　一級　　上なのだね。　（E　｛笑｝）

215B：イッキュー　ウエナンネ。
　　一級　　上なのだね。

216A：ンー。　コイカ°　　キテネー。
　　うん。　こういうもの［を］　着てね。

217B：カー　カータッチャ　アッタモンダ　ソィヤン。
　　××　買ったとなると　あったものだ　そうなんだ。

　　オラモ　ソィカ°　　カーテモラタン。
　　私も　そういうもの［を］　買ってもらったんだ。

　　ガンド　　ホシー　テ　イテ　イータラ
　　「がんど」［が］　欲しい　と　言って　言ったら

　　ワラノカ°デナイ　コイカ°　　スベッコイノ
　　藁のものでない　こういうもの　すべすべしたもの［を］

　　オラノカ°　チカ°ウッテ　イーチャネー　（A　ンー）
　　私のものは　違うと　　いってはね　（A　うん）

　　オリャ　イータ　コト　　アッタ。
　　私は　言った　こと［が］　あった。

218A：ソーイカ°　　アッタモンダ。（E　ンー）
そういうものが　あったものだ。（E　うん）

ソリャ　マー　イッセキノ　アマク°ダッタワネー。
それは　まあ　最高の　　雨具だったよね。

ソェカラ　ココラー　　コノ　イマノー　ミンナ
それから　このあたり［は］　この　今の　　みんな

コジンノ　ウチデモサー　トナリ　イクワ　アラー　アノー
個人の　家でもね　　隣へ　行く　あるいは　あの

キンジョエ　アスビ　イクワ　ッタテ
近所へ　　遊びに　行く　と言っても

ダイタイ　ソノ　フユワ　ガンド　　カブッテネー
だいたい　その　冬は　「がんど」［を］　かぶってね

（B　ソレオ　カブッチャネー）　アノー
（B　それを　かぶってはね）　あの

マーットッタモンダワネ。（B　ソー　ソー）
回っていたもんだよ。（B　そう　そう）

219A：ガンド。　ワラク°ツナー。（B　ワラク°ツ）　アー。
「がんど」。　藁靴ねえ。（B　藁靴）　ああ。

220B：スンボコ〔55〕。（A・B｛笑｝）
「すんぼこ」。（A・B｛笑｝）

221E：スンボコ　　ッテノワ　　アレナンデスカ。
「すんぼこ」　というのは　あれなんですか。

222B：スポント　ハイル　アノ　イマノ　フカク°ツ。
すぽんと　入る　　あの　今の　　深靴。

223A：マー　イマノ　フカク°ツサ。
まあ　今の　　深靴ね。

224E：アー　アー　アー。
ああ　ああ　ああ。

225C：ワラク°ツサ。
藁靴ね。

226A：ワラノ　フカク°ツ。
藁の　　深靴。

227E：ソレオー　スンボコ　　ッテ　ユーンデスカ。
それを　「すんぼこ」　と　　言うんですか。

228B：ハイ。
はい。

229C：スンボコ　　テ　イタリ　　スンブク　　テ　イータリネー。
「すんぼこ」　と　言ったり　「すんぶく」　と　言ったりねえ。

230B：ソイヤン。　　（E　ナルホドネー）
そうなんだ。　（E　なるほどねえ）

34↑35

スンブクバッカダッタネー　ソコラエ　イク　ッチャ
「すんぶく」ばっかりだったね　そのあたりへ　行く　といえば

チョイト　スンブク　ハイチャ
ちょっと　「すんぶく」[を]　はいては

パサ　パサ　パサ　パサ　ト　{笑}　(A　アレモネー)
ぱさ　ぱさ　ぱさ　ぱさ　と　{笑}　(A　あれもね)

アレモ　ヌレンウチャ　カルーテ　イーヤンダケンネー
あれも　濡れないうちは　軽くて　いいのだけれどね

ヌレタッチャ　オモタイテ　{笑}
濡れたとなると　重たくて　{笑}

231C：ツメタイシネー。
冷たいしね。

232B：ソイヤン。
そうなんだ。

233A：ンダソェ　ソー　ユー　ソノー　ワラノ　ハキモン
だから　そう　いう　その　藁の　履物 [が]

アッタカラネー　アノー　アレダワネ　コノ　マー
あったからね　あの　あれだよ　この　まあ

ロワ　アルデショ　ロノ　ウエネ　ソレオ　ソノー
炉が　あるでしょう　炉の　上に　それを　その

アケ°テ　ホスー　ソノ　コー　アレダ　イターデ
上げて　干す　その　こう　あれだ　板で

コーシニ　シテネー　ホシテ　ウエカラ　ツルシテ　アルワン。
格子に　してね　そして　上から　つるして　あるんだ。

(E　アー　アー)　ソノ　ウエー　アケ°テネー
(E　ああ　ああ)　その　上［に］　上げてね

(B　アケ°チャ　ホシチャネー)　ソシテ　シタデ
(B　上げては　干してね)　そして　下で

ヒー　タクデショ　ソシャ　シゼント　カワク。
火［を］　たくでしょう　そうすると　自然と　乾く。

(E　ンー　ンー　ンー　ンー)　ソーユカ°デー。
(E　うん　うん　うん　うん)　そういうもので。

234B：チエダケヤ　アッタワネー　(E　{笑})　(A　ハー)
知恵だけは　あったよね　(E　{笑})　(A　はあ)

ムカシノ　ショワネー。
昔の　人はね。

235A：ダイタイ　ソレノ　ナイ　ウチャ　ナカッタモンダ。
だいたい　それの　ない　家は　なかったものだ。

236B：ナカッタ。　ミーンナ　ソーイカ°
なかった。　みんな　そういうもの［を］

ツッテ　（A　ハイ）　アッタモンダ　グルーッテ
吊って　（A　はい）　あったものだ　ぐるっと

アレ　　イルリノ　ウエニネ。　（C　ハー）
あれ［を］　いろりの　上にね。　（C　はあ）

ネーンジュ　ヒー　　タクスケェニネー　（A　アー）
年中　　火［を］　たくからねえ　　（A　ああ）

ケック　マン　ソノ　カッキデモッテ　ヒーテクスケニ。
けっこう　あなた　その　活気で　　乾いていくから。

237C：ジーチャンダチ　ドキャ　アノー　ヨツカドノ　ハマーサネ
じいちゃんたちの　時は　あの　四つ角の　浜ねえ

ダイブ　コー　ヒロカッタローネー。
かなり　こう　広かっただろうねえ。

238A：アー　アスコワ　ナカ°カッタワネ　ムコーエ。
ああ　あそこは　長かったよね　向こうへ。

239C：オラ　コドモン　ドキモ　ヒロカッタドモサ。
俺が　子供の　時も　広かったけれどもね。

240A：ヒロカッタワネ。
広かったよね。

241B：ウン。　イマ　　セバナッテネー。
うん。　今［は］　狭くなってね。

242C：ホェテ　アノー　アントキ　タマニシキト　デバカ°タケカ
そして　あの　あの時　玉錦と　出羽嶽か

（B　ンー）　（A　ンー）
（B　うん）　（A　うん）

スモートリ　コーギョー　ヤッタカ°ネ。　（B　ハー）
相撲とり［が］　興行［を］　やったんだよ。　（B　はあ）

アレ　ミー　イッテサー　ソトデ　ナカ　ハイレンソェ。
あれ［を］　見に　行ってね　外で　中［へ］　入れないから。

ホェデ　デバカ°タケノ　カオワ
それで　出羽嶽の　顔は

マナイタミタイニ　デッカイヤンデ　タマケ°タ。
まないたみたいに　大きいもので　たまげた。

（B　{笑}）　ソレデネー。
（B　{笑}）　それでね。

243A：ダイタエ　ソー　ユー　アノー　コーキ°ョーワネー
だいたい　そう　いう　あの　興行はねえ

（C　ハー）　ハマデ　ヤッタモンダワネ。
（C　はあ）　浜で　やったもんだよ。

244C：ヒロカッタンダーネー。
広かったんだねえ。

245E：ハー。　ア　ナルホドネ。
　　はあ。　あ　なるほどね。

246A：ハェ。
　　はい。

247B：ハマ　デッカカッタモン。　エーカニ　イカンニャー〔56〕
　　浜は　大きかったもの。　かなり　行かなければ

　　ウミ　　ミズン　トコマデ　　イカンカッタ。
　　海［の］　水の　ところまで　行かなかった。

248E：イマノ　モー　アッコノ　ミチワ。
　　今の　もう　あそこの　道は。

　　（C　ズーット　ムコーマデ　イットッタンダ）
　　（C　ずっと　向こうまで　行っていたんだ）

249E：アー　ソーナンデスカ。
　　ああ　そうなんですか。

250A：ダイタイ　ハマデ　ヤッタモンダ。　（E　ンー）
　　だいたい　浜で　やったものだ。　（E　うん）

　　ソェカラ　カルワザ。
　　それから　軽業。

251B：ソー　ソー。　（A　アー）
　　そう　そう。　（A　ああ）

カルワザ　キタッチャネー　ハマデネー　イッチャ。
軽業［が］　来たとなるとね　浜でね　行っては。

252A：キタエノ〔57〕　ハマデ　ヤッタ。　ンー。
下の　浜で　やった。　うん。

253C：デバカ°タケノ　カオ　ミテ　イシー　ブツケラレテサー
出羽獄の　顔［を］　見て　石［を］　ぶつけられてね

（B　{笑}）　ミセモンダナイゾ　コノ　ガキー　テ　イワレテ。
（B　{笑}）　見せ物じゃないぞ　この　がき　と　言われて。

（B・E　{笑}）
（B・E　{笑}）

254A：ホントネ　アリャ　デカカッタモンネー。　（E　ンー）
ほんとうに　あれは　大きかったものねえ。　（E　ふうん）

255C：コンナナ　ニンゲ°ンノ　デッカイ　カオッテ
このような　人間の　大きい　顔というのは

アルカヤー　ッテ　コドモン　トキャ
あるのかなあ　と　子供の　時は

コーデ　ミアゲ°テ　ミトッタモンネー。
こうして　見上げて　見ていたものね。

256B：ンー。
うん。

257A：ウマノ　カオミタイダッタワ。
　　馬の　顔みたいだったよ。

258B：ソィヤンネー。
　　そうなんだねえ。

259C：オラ　マー　マナイタネ　ミエタネー。
　　俺は　まあ　まないたに　見えたね。

260E：ホー。（C　{笑}）　ソンナ　ヒトカ゜　イル　イタンスカ。
　　ほう。（C　{笑}）　そんな　人が　××　いたんですか。
　　35↑36

261C：デー　タマニシキカ　ヨコズナー　（E　ハイ。　エー）
　　で　玉錦か　横綱［は］　（E　はい。　ええ）

　　コンナナ　ハラシトッター　アノー　ママザカ〔58〕　ッテ
　　こんなような　腹をしていた　あの　まま坂　という

　　コー　サカ　ノボルンダケンネー　ハマカラ。　（E　ンー）
　　こう　坂［を］　登るのだけれどねえ　浜から。　（E　うん）

　　ソレ　アノー　デシニ　コー　ア　テー　ヒッパラシテサー
　　それ［が］　あの　弟子に　こう　×　手を　引っぱらせてね

　　（B　ウシロカラ　オシテネー）
　　（B　後ろから　押してねえ）

　　ウシロカラ　シトリ　サンニンカ゜カリデ　（B　{笑}）
　　後ろから　一人［を］　３人がかりで　（B　{笑}）

コー　ヤッテ　ノボッテクワン。
こう　やって　登っていくんだ。

262E：フーン。　{笑}
ふうん。　{笑}

263C：アンナ　ヒロイ　ハマカ°　コナン　　セマーナッタモンネー。
あんな　広い　浜が　　こんなに　狭くなったものね。

264B：フーン。
ふうん。

265E：ホー。　ヤッパリ　ハマヤナンカ
ほう。　やっぱり　浜やなんかに

アソビー　イカレタリナンカ　シテラッシャッタ。
遊びに　　行かれたりなど　　していらっしゃった。

266C：ンナン　　ショッチューダカ°ネ。
そんなのは　しょっちゅうだよ。

267E：ハー　ナルホドネー。
はあ　なるほどね。

268C：ハー。　ホシテ　ソノー　ウミー　　イクマデ　コンド
はあ。　そして　その　　海［へ］　行くまで　今度［は］

ハダシン　ナッタチャ　　スナヤ　イシカ°　アツクテサー
裸足に　　なったとなると　砂や　　石が　　熱くてね

(E　ンー)　トビアカ°　トビアカ°ッテ　ハシッタモンダ。
(E　うん)　××××　とび上がって　走ったものだ。

(B　{笑})　ハヨー　ミズン　ドコエ　イコート　オモウケド
(B　{笑})　はやく　水の　ところへ　行こうと　思うけれど

トーイテ　トーイテ。
遠くて　遠くて。

269B：トーカッタモンダネー。　(C　ハー)
遠かったものだねえ。　(C　はあ)

アスコノ　アノ　オークボヤノ　トッカラー
あそこの　あの「大久保屋」の　ところから

(C　ソイヤン)　デタッチャネー
(C　そうなんだ)　出たとなるとねえ

エーカンネ　イカンニャ　(C　ソートー　アルワ)
かなり　行かなくては　(C　相当　あるよ)

ミズノ　トコマデ　イカンカッタモンダ。
水の　ところまで　行かなかったものだ。

270A：ドコモ　コエデ　ハマワ　セマーナッタンナイヤンカネ。
どこも　これで　浜は　狭くなったんじゃないだろうかね。

271B：セマーナッタ。　ミチッテ　モナー　ヨケー　ツイタモン。
狭くなった。　道という　ものが　よけいに　ついたもの。

(A　ンー)　アノー　コーソクドーロミタイナネー
(A　うん)　あの　高速道路みたいなねえ

デカイ　ミチャー　アッコネ　ツイタスケネ
大きい　道が　あそこに　ついたから

アンダケ　マー　ケズッテッタ　ッテ　ワケダ。
あれだけ　まあ　けずっていった　という　わけだ。

272A：イヤ　ミチャー　ツカンデモー　(C　セマーナッタ)
いや　道が　つかなくても　(C　狭くなった)

セマーナッタンネー。
狭くなったんだね。

273B：ホシャ　ウミャー　フエテキタンカ。
それじゃ　海が　ふえてきたのか。

274A：ンー。　ムコー　アー。
うん。　向こう　ああ。

275C：シンショクサレタ。
浸食された。

276A：シンショクサレタンネー。　{間}
浸食されたんだね。　{間}

277E：ユキモ　ヤッパリ　フユワ　ソートー　フリマシタカ
雪も　やはり　冬は　相当　降りましたか

コノヘンワ。　　ソーデモナイデスカネ　イマヨリモ。
このあたりは。　そうでもないですかね　今よりも。

278C：イヤ　フッタネー。
いや　降ったね。

279B：イマ　　ムカシヨリ　フランカ゜ンナッタネー。
今［は］　昔より　　降らないようになったねえ。

ンダケン　（A　ンー）　マタジャ〔59〕　イースカエカネー。
だから　（A　うん）　後始末が　　いいからかねえ。

280A：ムカシヨリワ　フランワネー。　ンー　フラン。
昔よりは　　降らないよね。　うん　降らない。

281B：フランネー。　オラ　アノー　オーユキー
降らないね。　私が　あの　大雪

X４ネ　オル　トキニャ　ユキヤ　フッテ　マー　（A　アー）
X４に　いる　時には　雪が　降って　まあ　（A　ああ）

ウチャー　ツブレル　ッテ　ミンナネー　（A　フッタモンダワ）
家が　つぶれる　と　みんなね　（A　降ったものだよ）

コサクネ　ドーイン　クダシテ　ソシテ。
小作に　動員［を］　下して　そして。

282A：オラ　X４イ　イキオロシ　イッタワネ。
俺は　X４へ　雪降ろし［に］　行ったよね。

283B：ハー　キタ　オマン
はあ　来た　あなた［に］

キテモラッタ　（A　ハー）　コトワ　オボエ　　アルッチャ。
来てもらった　（A　はあ）　ことは　覚え［が］　ありますよ。

284C：ショーワニネンコ°ロジャナイカネ。
昭和２年頃じゃないかね。

285B：アリャ　ナンネンノ　トシダイネー　（A　ホーダネー）
あれは　何年の　　年だろうね　（A　そうだねえ）

オーユキノ　トシ。　　マルッテ〔60〕　ヤネノ　ウエ
大雪の　　年［は］。　まるで　　屋根の　上［に］

アカ°ッテ　アルイトッタモンネ　ミチャ。
上って　　歩いていたものね　　道は。

286A：ハー。　ヤネノ　ウエ　ソーレン　　アケ°テ。
はあ。　屋根の　上に　そり［を］　上げて。

287B：ソイヤン。
そうなんだ。

36↑37

288A：ソシテ。
そして。

289C：オリャー　ニネンセーン　ドキ　　アノ
俺は　　２年生の　　時［に］　あの

ショーカ°ッコーノ　ニカイカラ　トビオリタン
小学校の　　2階から　　とび降りたの［を］

オボエトルワ。　ナンデモ　ナカッタモン。
覚えているよ。　何とも　　なかったもの。

290A：ンー。（E　ホー）
うん。（E　ほう）

291B：マドカラ　デハイリダモンネー。
窓から　出入りだものね。

292C：ハー　ニカイカラ。
はあ　2階から。

293B：オラ　　クラノー　コーイ　　トッカラ　　ズーット
私［は］　蔵の　　こういう　ところから　ずっと

コイ　　ナナメニ　ミチ　ツケテネー　（A　ハー）
こういう　斜めに　　道を　つけてね　　（A　はあ）

ソシテ　ウチ　　ハイッテ。　（A　{笑}）
そして　家［へ］　入って。　（A　{笑}）

294C：デ　　ソコノ　アノ　テッポマチ　ッテ　ユー
それで　そこの　あの　鉄砲町　　と　　いう

（E　ハー　アリマスネ）　アレモ　ムカイニ　イク　ッテネ
（E　はあ　ありますね）　あれも　向かいに　行く　と言ってね

トンネル　　ホッテクワン。
トンネル［を］　掘っていくんだ。

295A：アン　トキャ　X４サンノ　アェデ　ドーイン　　カカッタワ。
あの　時は　　X４さんの　あれで　動員［が］　かかったわ。

（B　ンー　ヒドイ　メン　アッタ。　ソーイヤン）
（B　うん　ひどい　目に　あった。　そうなんだ）

296A：マカナワンナランモン。
賄わなければならないもの。

297B：マカナワンナンモン　　マインチ　マインチ。
賄わなければならないもの　毎日　　毎日。

ソイドイテ　クー　　モノワ　ナイ　テ　ユー　ミンナ
それでいて　食べる　ものが　ない　と　いう　みんな

ミセヤ　　トマットル　　モンダモンネー。
店［が］　止まって［＝休んで］いる　もんだものねえ。

（A　ンー）　クー　　モノワ　ナイテ
（A　うん）　食べる　ものが　ないと

サワキ°　　シタ　コト　　アッタ。
騒ぎ［を］　した　こと［が］　あった。

298C：デ　　ヘータイニ　イッテ　キューシューノ　ニンゲント
それで　兵隊に　　行って　九州の　　人間と

イッションナッテサー　オラ　ホーエ　クリャー
いっしょになってね　俺の　ほうへ　来れば

アノ　トンネル　　ホッテ　ムカエー　　イク　ッタラ
あの　トンネル［を］　掘って　向かい［側］へ　行く　と言ったら

コノ　ヤロー　オーボラ　　フクナッテ　（A・B・E｛笑｝）
この　野郎　大ぼら［を］　吹くなと　（A・B・E｛笑｝）

299B：テッポマチデモ　ミーンナ　トンネルダッタンネ。
鉄砲町でも　みんな　トンネルだったのね。

（A　アー　アー　アー）　ムカイカ゜ワエ　イクッチャ
（A　ああ　ああ　ああ）　向かい側へ　行くとなると

トンネルエ　ククラッチャ　ククラニャ　イカレンカッタ。
トンネルを　×× ××××　くぐらなくては　行けなかった。

300C：ユキ　テー　モノワ　ソノ　ホーキデ　ハキャー
雪　という　ものは　その　箒で　はけば

イーモンダ　ッテ。　（B　フーン）　（E　｛笑｝）
いいものだ　と言って。　（B　ふうん）　（E　｛笑｝）

ユキャ　ホーキデ　ハカレルカ　コノ　バカヤロメ　ッテ
雪は　箒で　掃けるか　この　ばか野郎め　と

コンド　フタリデ　オーゲンカサ。　（B　ンー）
今度は　二人で　大げんかさ。　（B　うん）

（E　{笑}）　ドッチモ　ホントノ　　コト
（E　{笑}）　どっちも　ほんとうの　こと［を］

イートルワンダケンネー。
言っているのだけれどね。

301B：マー　フラン　　チイキノ　ショワネー
まあ　降らない　地域の　　人はね

ソナナンデモ　　イータッテネー。
そのようなことでも　言ってもねえ。

302C：リカイデキンワ。
理解できないよ。

303B：ンー。　デキンワ。
うん。　できないよ。

304A：アリャー　タイショージューイチネンコ゜ロノ
あれは　　大正11年頃の

オーユキダナイカヤネ。
大雪ではないかね。

305B：ソーダネー。
そうだねえ。

306C：オンノ　オボエトルノワ　ショーワニネンダッター。
俺の　　覚えているのは　昭和２年だった。

（A　ンー）　ムカエー　イクニ　　トンネルナンテ。
（A　うん）　向かいに　行くのに　トンネルなんて。

307A：ショーワニネン　テ　イヤー　ソリャー　アレダワ
昭和２年　　と　言えば　それは　あれだよ

ゴタイソーノ　（C　ハー　ソーイネ）　トシノ　オーユキダナー。
御大葬の　　（C　はあ　そうだね）　年の　大雪だなあ。

（C　ハー　ハー）　ンー。　ソイヤンダ。
（C　はあ　はあ）　うん。　そうなんだ。

308B：アノ　マー　オリャー　アノ　Ｘ４ネ　オッタ　トキノ
あの　まあ　私が　　あの　Ｘ４に　いた　時の

オーイキャ　ホントネ　　メズラシー　オーユキダッタワ。
大雪は　　ほんとうに　珍しい　　大雪だったよ。

309A：アー　ゴタイソーノ　トキャー　オーユキダッタ。　ハー。
ああ　御大葬の　　時は　　大雪だった。　　はあ。

310B：ホントニ　　マー　トナリノ　ウチーデモ
ほんとうに　まあ　隣の　　家へさえも

ヨーイニ　イカレンカ゜ダモンネー。
容易に　　行けないんだものねえ。

311A：ミンナ　タカマドカラ　デテキター。　ンー。
みんな　高窓から　　出てきた。　うん。

312B：ハー　タカマドカラ　デタリ　ハイッタリ　シタンダ。
はあ　高窓から　出たり　入ったり　したのだ。

313C：キューシューノ　ニンゲンニ　イックラ　セツメーシテモ
九州の　人間に　いくら　説明しても

リカイデキンモンネー。
理解できないものね。

314B：ソシテ　イマミタイニ　フクソーワ　ソロートリャ　エーケンド
そして　今みたいに　服装が　そろっていれば　いいけれど

オマン　ミンナ　ハンテン　キタリネー
あなた　みんな　半天［を］　着たりね

イッコメ〔61〕　ハイタリシチャ　クルモンダモン
「いっこめ」［を］　はいたりしては　来るものだもの

オー　ミンナ　（C　{笑}）　ヌレテシマウシサー。
おお　みんな　（C　{笑}）　濡れてしまうしね。

オリャ　オマン　ソシ　ニンソク　タノミニ　イッテ
私は　あなた　××　人足［を］　頼みに　行って

イッテキテクダサイ　ッテ　イワレテ
行ってきてください　と　言われて

ミッサキマデ　イクニ　ハク　モナ　ナイ
水崎まで　行くのに　履く　ものが　ない

イマミタイナ　フカク゜ツァー　ナイシネー　アン
今みたいな　深靴は　ないしね　××

オアネヤンノ　コーイ　ダルマク゜ツ　ッテ　ユーカ
おお姉さんの　こういう　だるま靴　と　いうか

コー　ユー　ソノー　アサク゜ツノネー　(A　ンー)
こう　いう　その　浅靴のね　(A　うん)

スッポント　ハイル　クツ　アッテ　(A　ンー　ンー　ンー)
すぽんと　入る　靴［が］　あって　(A　うん　うん　うん)

コレ　ハイテ　イカッシャエ　ッテ　ゲテ
これ［を］　履いて　行きなさい　と［言われて］　出て

(A　タンク゜ツネー)　ンー。　タンク゜ツ。
(A　短靴ね)　うん。　短靴。

ソレ　ハイテネー　カクマキオバ　コー　ヤッテ
それを　履いてね　角巻きを　こう　やって

37↑38

キテッタンダケン　コノー　シミタンネー　(A　ンー)
着ていったのだけれど　この　凍ったよね　(A　うん)

コー　ヤッテ　アルイトルガネ
こう　して　歩いているのに

ソソワ　ビリビリニ　シミテ　コーリャ　サカ゜ッテサー
すそが　びりびりに　凍って　氷が　下がってねえ

(A　ンー)　コーノ　アシノ　ココオバ　スッテ
(A　うん)　この　足の　ここを　擦って

チヤ　デテキタ　コト　アッタワ。　(A　ンー)
血が　出てきた　ことが　あったよ。　(A　うん)

ホーシテ　マー　アノー　タマミズ〔62〕ノ　アッコマデ　イッタラ
そして　まあ　あの　玉水の　あそこまで　行ったら

ムコカラ　オトコノ　シトワ　キタスェネー
向こうから　男の　人が　来たからね

コノ　シトノ　アトエ　ツイテケヤ
この　人の　後へ　ついていけば

アノー　キタ　アトエ　スク゜　イカンナラン
あの　来た　後に　すぐ　行かなくてはならない

コリャー　マー　ミチノ　アルコマネ　ト　オモーテ　オッタラ
これは　まあ　道の　あるうちに　と　思って　いたら

ソリャ　オラ　オヤダッタ　オトコオヤダッタ。　(A　フーン)
それは　私の　親だった　男親だった。　(A　ふうん)

オヤ　ワリャ　ドコエ　イクワンダ　ッテ　ユースェ
おや　おまえは　どこへ　行くのだ　と　いうから

オヤ　オマンタン　トコエ　イマ　タノミ
おや　あなたたちの　ところへ　今　頼み［に］

キタンダ　ッテ　　ニンソク　タノミ　　キテ
来たのだ　と［言って］　人足［を］　頼み［に］　来て

ダレカ　キテクレル　モナー　ナイカエネー　ッタラ
誰か　来てくれる　者は　ないかね　と言ったら

オリャ　イマ　タカオエ　イコート　オモーテ　デテキテ
私は　今　高尾へ　行こうと　思って　出てきて

ッテ　　アノー　イク　ッテーテ　デテキタンダスェ
と［言って］　あの　行く　と言って　出てきたのだから

ワイラ　　トコエ　キョーワ　イットラレンワ
おまえたちの　ところへ　今日は　行っていられないよ

アシタデモ　マタ　ソシャ　オリャ　イチンチモ　イッテヤルワ
明日でも　また　それじゃ　私が　１日も　行ってやるよ

ヤナンテ　イテネー　ホシテ　ソレン　ツラッテ〔63〕
などと　言ってね　そして　それに　連なって

カエッテ　キタ　コト　　アッタ。
帰って　来た　こと［が］　あった。

ソェテ　Ｘ９サンノ　ウチエ　ハイッテ
そして　Ｘ９さんの　家へ　入って

ワリャ　マー　ココデ　チットカ〔64〕
おまえは　まあ　ここで　少し

アッタメサシテモラッテ　ケー　ッテ　（A　ンー）　イワレテ
温めさせてもらって　行け　と　（A　うん）　言われて

X９サンノ　ウチエ　ハイッテ　アッタメテモラテー　ホシテ
X９さんの　家へ　入って　温めてもらって　そして

アシー　アレ　シテ　ウチー　カエッテ　キタ　コト　アル。
足［を］　あれ　して　家へ　帰って　来た　こと［が］　ある。

マー　オゾイ　モン　ダッタワ。
まあ　粗末な　もの　だったよ。

ハク　モンモ　チョードノ　モナー　ナイ
履く　ものも　ちょうどの　ものは　ない

キル　モンモ　チョードナ　モナー　ナイヤンダモン。
着る　ものも　ちょうどの　ものが　ないのだもの。

315A：オラー　アノ　トシ　X４イ　イッカモ　イッタ。
俺は　あの　年　X４に　何日も　行った。

316B：イッ　キナッタネー。　（A　アー）
××　来てくださったねえ。　（A　ああ）

イッカモ　キテモラッタ。　（A　アー）
何日も　来てもらった。　（A　ああ）

オリャ　ソリャ　オボエトッタ。
私は　それは　覚えていた。

317A：オワルマデ　イッター。
　　終わるまで　行った。

318E：Ｘ４サン　テ　ユーノワ　アレデスカ　アノー
　　Ｘ４さん　と　いうのは　あれですか　あの

　　ナンカ　コー　ショーヤサン　ミタイナ。
　　何か　こう　庄屋さん　みたいな。

319A：チヌシナンデスワ。
　　地主なんですよ。

320B：ジヌシ。
　　地主。

321E：ジヌシサン。　ハー。
　　地主さん。　はあ。

322A：ソエカラ　ショーバイワー。
　　それから　商売は。

323B：ショーユーヤ　ミソオネー　（A　ショーユヤ。　ハェー）
　　醤油や　味噌をね　（A　醤油や。　はい）

　　セーゾーシテ　ウットッタン。
　　製造して　売っていたんだ。

324C：ジブンノ　ウチャ　ツブレソーン　ナッテモ
　　自分の　家は　つぶれそうに　なっても

ソコエ　イカンナーンモンネ。
そこへ　行かなくてはならないものね。

325B：イカンナランモン。
行かなくてはならないもの。

326E：ナールホドネー。　ンー。　〔笑〕　マー　ソッチカ°　〔笑〕
なるほどね。　うん。　〔笑〕　まあ　そっちが　〔笑〕

327B：ンダセー　ミンナ　アノ　ジブン　コサクノ　シャーネー
だから　みんな　あの　頃　小作の　人はね

オーゼー　キテクンナッタネー
大勢　来て下さったねえ

ソンデモ　ミンナ　キテクンナッタ。
それでも　みんな　来てくださった。

328A：ソーカネ。　（B　ンー）　ンー。
そうかね。　（B　うん）　ふうん。

329B：ホエテ　オトクイヤッタ〔65〕　X10サ　タノンデ
そして　お得意だった　X10さん　頼んで

X10サカラデモ　イッカモ　キテモラッタシ。
X10さんからも　何日も　来てもらったし。

330A：ナンダテ　アンタ　ヤネー　アノ　ソノ
なんだって　あなた　屋根　あの　その

ソリ　ッテ　　アンタ　シットンナルダロー
そり　って［いうものを］　あなた　知っておられるだろう

ソリ　ッテ。　　（E　エー）　アノー　フユー
そり　って［いうものを］。（E　ええ）　あの　冬

ユキノ　ウエ　　ヒッパル　アレオ　ヤネー　アケ゜テサー
雪の　上［を］　引っぱる　あれを　屋根に　上げてね

（E　ハー）　ソシテー　アノー　マチノ　ホーワ　ホラ
（E　はあ）　そして　あの　町の　ほうは　ほら

38↑39

ヤネカラ　ヤネ　　ミーナ　トナリモ　ナニモ　ミンナ
屋根から　屋根［と］　みんな　隣も　何も　みんな

ツズイトルデショ　　（E　ンー　ンー　ンー）
続いているでしょう　（E　うん　うん　うん）

ホンダソェ　ジブンノ　ヤネダケデ　　ジューニナランデ
だから　自分の　屋根だけで［は］　自由にならなくて

ホェデ　ソノー　マター　コ　コレダケノ　マー　ヤネダ　ッテ
そして　その　また　×　これだけの　まあ　屋根だ　と

ユー　コトン　ナリャサー
いう　ことに　なればね

コノ　ヘリダケャ　ミンナ　シタエ　オトサレルケン
この　端だけは　みんな　下へ　落とされるけれど

コノー　マンナカン　ナッタッチャ
この　　真ん中に　　なったとなると

ナカナカ　アノ　ナゲ゜キレンネカネ
なかなか　あの　投げきれないじゃないかね

ホェデ　ソノ　ソリ　　モッテ　アカ゜ッテ
それで　その　そり［を］　持って　上がって

ソシテ　ソリネ　アノー　ユキオ　ミナ　　スクイコンデ
そして　そりに　あの　　雪を　　みんな　すくい込んで

（E　ンー）　ソシテ　ヘリノ　ホーエ　キチャ
（E　うん）　そして　端の　　ほうへ　来ては

ミンナ　オトシタモンダ。　ハェ。
みんな　落としたものだ。　はい。

331E：マチナカノ　ウチワ　セマイデスシネー。
　　街中の　　家は　　狭いですしね。

332B：オラ　　Ｘ４ノ　ウチモ　ダダッピロイ　ウチダモン。
　　私の［いた］　Ｘ４の　家も　　だだっ広い　　家だもの。

333A：ソレダチャ　マタ　アノー　Ｘ４ノ　ヤネヤ　ウエー　イッタチャ
　　それだよ　　また　あの　　Ｘ４の　屋根は　上に　　行ったとなると

アッチノ　ホーダ　コッチノ　ホーダテ　ヤネヤ　ツズイトルワンダ。
あっちの　ほうだ　こっちの　ほうだと　屋根が　続いているんだ。

334B：ソーイヤン。　ヒドイカ゜ン。　ハー。　（A　アー）
そうなんだ。　ひどいんだ。　はあ。　（A　ああ）

クラノ　ヤネダトカネー　（A　ハー）　ウラネモ　クラ　アッタシ
蔵の　屋根だとかねえ　（A　はあ）　裏にも　蔵　あったし

ソンダスェネ　マーデ　ヤネノ　ハバサ〔66〕カ゜　ヒロイスカェネ
だから　まるで　屋根の　幅が　広いから

（A　ンー）　オトス　トコワ
（A　うん）　落とす　ところは

ハダケ　イチマイ　アルダケナンダモン。　{咳}
畑　１枚　あるだけなんだもの。　{咳}

335A：ンダソェ　アノー　テマー　クータモンダ。　{咳}
だから　あの　手間が　かかったものだ。　{咳}

336B：テマ　クータモンダ。
手間［が］　かかったものだ。

39↑

新潟県糸魚川市1980注記

〔1〕カエシ

河原から工事現場までの石運び作業。

〔2〕カンテクル

「担いでくる」の意味。「担いだ」は，「カンタ」と言う。また，別に，「カタネル」という表現もみられる。

〔3〕オモダチ

重立。村の有力者。

〔4〕ソナエニ

そんなに。関西方言的な言い方。

〔5〕カツギエン

「エン」は，「得る」の否定の形「得ん」で，不可能を表す。

〔6〕イシカジキ

石担ぎ。「イシカジキ」と言っているが，一般的には「イシカツギ」。

〔7〕ダケン

だけど。逆接の接続詞。

〔8〕ナーテ

なくて。形容詞の連用形は，語幹の部分が長音化する。

〔9〕ガイナ

「丈夫な」・「強い」の意味。

〔10〕ヤンダシテ

「ヤン」は，接頭語的な働きをする。

〔11〕ナイケー

「ナイケレド」が原形。一般的には「ナイケン」となる。

〔12〕モラーテ

もらって。ワ行五段動詞「もらう」の連用形の長音化。

〔13〕デトンナッタ

「〜ナル」で，相手に対する敬意を表す。

〔14〕エーカナ

「かなり」の意味。

〔15〕エラーイ

「たいへん」の意味。関西方言に多くみられる。

〔16〕ゴサッシャエバ

「～サッシャル」で，相手に対する敬意を表す。

〔17〕カンメ

貫目。貫。重さの単位。１貫は，3.75kg。

〔18〕ダッチャ

「ダッチャ」は，はっきり相手に強く訴えかける時に用いる。

〔19〕カレエダシ

枯れ枝(え)だし。枯れ枝を取ってくることだと思われる。

〔20〕ナカダシ

たくさんの物を背負わなくてはならない時，途中まで荷物の一部を持っていき，そこに降ろして，もとのところにもどり，また，途中まで荷物の一部を持っていく，ということを何度か繰り返すこと。荷物を少しずつ中間点まで運んでおき，そこからさらにまた少しずつ目的地まで運ぶという方法。

〔21〕コエサ

屋号。紺屋さん。紺屋とは，染物屋のこと。

〔22〕オッター

「オル」は，「いる」の意味。

〔23〕コシアゲ

腰揚げ。着物の着丈を調整するための，腰の部分の縫い上げ。成長しても着られるように作った着物を，小さいうちに着せるときなどに行う。

〔24〕オンナサン

「女中さん」のこと。一般的には「オンナサ」である。

〔25〕ゼ

文末に用いて，直前までの叙述を強調しつつ相手に訴えかける働きをする。

〔26〕ノー

文末に用いる。敬意はあまり高くない。目上の人が目下の人に用いる。

〔27〕ワレ

二人称代名詞。単数に用いる。

〔28〕ポッポ

「懐」の意味。おもに，幼児語。

〔29〕オッカナーテ

「オッカナイ」は，「恐ろしい」の意味。

〔30〕イゴク

「動く」が「イゴク」といわれることが多い。

〔31〕イッテコン

否定形は「ン」で表す。

〔32〕イトシキ

糸引き。糸取り。繭から糸を紡ぎだすこと。よりあわせた麻糸や綿糸を糸車に巻きとること。

〔33〕バンバサ

お婆ちゃん。旧上層家庭では「バーチャ」，一般家庭では「バーチャ」・「バンバサ」が普通。

〔34〕マイカ

動詞の未然形について，相手を誘う気持ちをもって意志を示す語。

〔35〕センチャナヤ

便所小屋。肥溜には，肥料とする糞尿を腐敗させるために溜めておく。

〔36〕イチノヤ

屋号。市野々という集落から出てきたので，この屋号になった。

〔37〕ヒヤマ

屋号。西頸城郡能生町西飛山から出てきたので，この屋号になった。

〔38〕ハンジョバリ

半升ばり。水車にあった石臼の大きさ。「ハンジョバリ」と「イッショバリ」があった。

〔39〕ナンボモ

いくらでも。関西方言的な表現。

〔40〕ウワカリシタワ

不詳。

〔41〕ト

斗。容積の単位。１斗は，１升の10倍で，18.039リットル。

〔42〕ショ

ショウ。升。容積の単位。１升は，１合の10倍で，約1.8039リットル。

〔43〕トボ

枡に入った米を計量するために用いる棒。山盛りになった部分を下に落とす。

〔44〕サェデ

それで。一般的には，「ソェデ」という。

〔45〕レンゴー

年貢。一般的には，「年貢」のことを「ネンゴ」という。ここでは「レンゴー」と聞きとれる。

〔46〕コ°ー

合。容積の単位。１合は，１升の10分の１で，約0.18リットル。

〔47〕セキ

シャク。勺。容積の単位。１勺は，１合の10分の１で，約0.018リットル。

〔48〕サイ

才。容積の単位。１才は，１合の100分の１で，約0.0018リットル。

〔49〕サントーデン

三等田。田の等級を表す。収穫が多い田，おいしい米が収穫できる田を基準として，田の等級が決まる。等級名は，一位田，一等田，一級田，二位田，二等田，二級田，三位田，三等田，三級田，…となっている。

〔50〕ツクリッキカ°　ウスイ

やせた農地を「ツクリッキノ　ウスイ」土地という。

〔51〕オートル

「オクートル」がもとの形と思われる。「置く」ではなく，「送る」・「引き継ぐ」の意味に用いられる。

〔52〕ノッシャ

屋号。塗師屋。漆職人だったのでこの屋号となった。

〔53〕ガンド

冬，雪国で用いられる雨具。

〔54〕キジヤ

木地屋。糸魚川の奥にある集落名。

〔55〕スンボコ

冬，用いられる藁靴。

〔56〕ンニャー

動詞の未然形をうけて，「必ずそうしなければ」の意味を表す。

〔57〕キタエノ

このように聞きとれるが，このような名前の浜はない。下の浜のことか。

〔58〕ママザカ

住宅地と海岸線の間にあった坂のことをこう呼んだ。どのような漢字をあてるのか不詳。

〔59〕マタジャ

「マタジ」とは後始末のこと。

〔60〕マルッテ

まるで。一般的には，「マルデ」という。

〔61〕イッコメ

衣類の名称と思われるが，不詳。

〔62〕タマミズ

集落名。玉水。

〔63〕ツラッテ

「ツラナッテ」が原形。

〔64〕チットカ

「チットバカ」が原形。

〔65〕ヤッタ

断定を表すのに「ヤ」が用いられているが，一般的ではない。

〔66〕ハバサ

「長さ」の「さ」を，「ハバ」にも用いたものと思われる。

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について

昭和52(1977)年度から昭和60(1985)年度にかけて，文化庁によって「各地方言収集緊急調査」が実施された。これは，「全国的に急速に変化し，失われつつある各地の方言を各都道府県において，緊急に調査し，これを記録・保存する」目的で行われた，全国規模での方言談話の収録事業である。国立国語研究所は，文化庁の要請により，この調査の計画段階から，指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は，全国の都道府県教育委員会に各地方言の収集を指示した。47都道府県は，実施時期ごとに，第１次（昭和52(1977)～54(1979)年度）から第７次(昭和58(1983)～60(1985)年度）に分けられ，それぞれ３年計画で，収録を行った。

各都道府県教育委員会は，言語学，国語学，方言学の専門家から調査員として，主任調査員２名と調査員若干名を選出し，さらに，専門家や学識経験者を交えて，調査地点，具体的な調査方法，全国共通の場面設定会話項目などについて検討し，その結果をもとに調査を進めた。

その実施の概要は次のようなものである。

(1)　調査目的

全国的に急速に変化し，失われつつある各地の方言を各都道府県において，緊急に調査し，記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し，後世に残す。

(2)　調査方法

(3)の調査内容にしたがって，１地点につき１年度あたり10時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち，自然な方言会話の部分を３時間程度選んで，文字化を行い，共通語訳をつけて，記録として残す。

(3)　調査内容

①老年層の男女各１人による対話，または，男女を含む３人の会話（２時間）

②老年層の男性１人の対話，または，老年層の男性３人の会話（１時間）

③老年層の女性２人の対話，または，老年層の女性３人の会話（１時間）
④老年層と若年層との対話，または，両者を含む３人の会話（１時間）
⑤老年層の男性２人の，目上の者と目下の者の対話（２時間）
⑥場面設定の対話（１時間，各場面につき１～３分程度）
場面に応じて，老年層の男性２人の対話，または，老年層の男女各１人による対話
⑦当該地域に伝わる民話（１時間）
民話の語り手が存在する地点で収録を行う。収録不可能な場合は，
⑧老年層の女性２人の，目上の者と目下の者の会話（１時間）
または，
⑨目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の，２人の対話（１時間）
を収録する。

①～⑤，⑧，⑨については，話題は自由。一般的には，「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は，自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として，特定場面を設定し，話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ，「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には，文化庁と各都道府県教育委員会が協議して，全国共通の数場面を設定する。

(4) 調査地点

調査地点は，各都道府県について５地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて，各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上，複数の区域に分かれる場合は，方言の状況が概観できるように，それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に，離島など，特色の認められる方言は可能な限り収録する。

(5) 話者

その土地で生まれ育ち，よその土地に住んだことのない，あるいは，よそ

の土地に住んだことがあっても，その期間が短い人とする。在外期間は３年以内が望ましい。

年齢は，原則として，老年層の場合は，収録時において60歳以上とし，若年層の場合は，20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

⑹　録音

自然な会話を良質な録音で残すため，使用する録音機の性能，マイクの種類・配置，テープの長さ，収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には，採録地点，採録年月日，話題，時間，話者，採録機種などを記入する。

録音テープは，収録したオリジナルのテープ（正）を１本，正テープより文字化部分を編集したテープ（副）を２本作成する。

⑺　文字化

方言音声の文字化の際の表記は，原則として，カタカナ書きとし，方言の音声的特徴をある程度表し得るよう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について，場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記，表記法についての説明などを行う。各地点ごとに，収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など，収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には，話者の氏名・性・生年・経歴，録音内容などを記入する。

文字化原稿は，手書きのオリジナル原稿（正）を１部，正の複製（副）を２部作成する。

調査は，各都道府県教育委員会と連携のうえ，全国各地の方言研究者が全面的に協力して行われた。その結果，地域的密度，収録量，方言的内容のいずれの面からも，他に類を見ない高レベルのデータを得たのである。

調査終了後，これらの方言談話の録音テープとその文字化原稿は，各教育委員会から，「各地方言収集緊急調査」報告として，文化庁に提出され，永久保存されることとなった。

なお，調査実施からかなりの時間が経過しているため，当時の関係文書の入手は困難であったが，文化庁，各都道府県教育委員会の協力により，部分的には手に入れることができた。得られたものを，資料として，この章の末尾に掲げたので，ご参照いただきたい。

「各地方言収集緊急調査」地点一覧

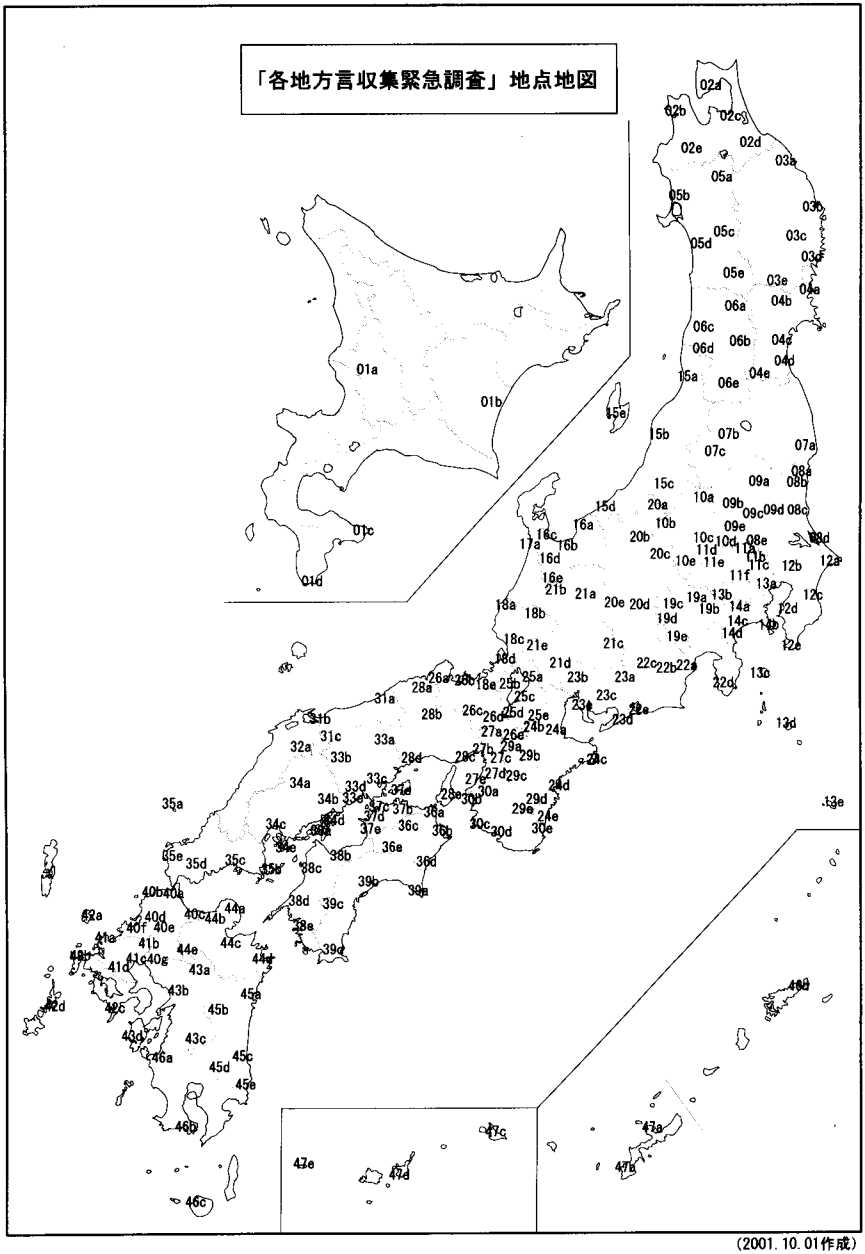
北海道
01a 空知支庁樺戸郡新十津川町
01b 十勝支庁中川郡豊頃町
01c 渡島支庁亀田郡椴法華村
01d 渡島支庁松前郡松前町
青森県
02a 下北郡川内町
02b 北津軽郡市浦村
02c 上北郡野辺地町
02d 三戸郡五戸町
02e 弘前市
岩手県
03a 久慈市
03b 宮古市
03c 遠野市
03d 大船渡市
03e 一関市
宮城県
04a 本吉郡本吉町・歌津町
04b 栗原郡築館町
04c 仙台市
04d 亘理郡亘理町
04e 刈田郡七ケ宿町
秋田県
05a 鹿角市
05b 能代市
05c 仙北郡西木村
05d 河辺郡雄和町
05e 湯沢市
山形県
06a 新庄市
06b 寒河江市
06c 東田川郡櫛引町
06d 東田川郡朝日村
06e 西置賜郡飯豊町・東置賜郡川西町
福島県
07a いわき市
07b 大沼郡会津高田町
07c 大沼郡昭和村
茨城県
08a 高萩市
08b 久慈郡里美村
08c 水戸市
08d 鹿島郡大野村（一鹿嶋市）
08e 古河市
栃木県
09a 大田原市
09b 日光市
09c 宇都宮市
09d 芳賀郡益子町
09e 安蘇郡田沼町
群馬県
10a 利根郡片品村
10b 吾妻郡六合村
10c 前橋市
10d 邑楽郡大泉町
10e 甘楽郡下仁田町

埼玉県
11a 加須市
11b 南埼玉郡宮代町
11c 春日部市
11d 児玉郡上里町
11e 秩父郡長瀞町
11f 入間郡大井町
千葉県
12a 海上郡飯岡町
12b 印旛郡印西町（→印西市）
12c 長生郡長生村
12d 木更津市
12e 館山市
東京都
13a 台東区
13b 西多摩郡檜原村
13c 大島町
13d 三宅村
13e 八丈町
神奈川県
14a 愛甲郡愛川町
14b 横須賀市
14c 秦野市
14d 小田原市
新潟県
15a 村上市
15b 西蒲原郡分水町
15c 十日町市
15d 糸魚川市
15e 佐渡郡佐和田町
富山県
16a 黒部市
16b 富山市
16c 氷見市
16d 砺波市
16e 東礪波郡上平村
石川県
17a 羽咋郡押水町
福井県
18a 坂井郡芦原町
18b 勝山市
18c 南条郡南条町
18d 敦賀市
18e 遠敷郡名田庄村
山梨県
19a 塩山市
19b 大月市
19c 韮崎市
19d 南巨摩郡早川町〔奈良田〕
19e 南巨摩郡身延町
長野県
20a 下水内郡栄村
20b 長野市
20c 小諸市
20d 伊那市
20e 木曽郡開田村

岐阜県
21a 高山市
21b 大野郡白川村
21c 中津川市
21d 岐阜市
21e 揖斐郡徳山村
静岡県
22a 静岡市
22b 榛原郡本川根町
22c 磐田郡水窪町
22d 賀茂郡松崎町
22e 浜名郡新居町
愛知県
23a 北設楽郡設楽町
23b 西春日井郡師勝町
23c 岡崎市
23d 豊橋市
23e 常滑市
三重県
24a 安芸郡美里村
24b 阿山郡阿山町
24c 志摩郡阿児町
24d 北牟婁郡海山町
24e 南牟婁郡御浜町
滋賀県
25a 長浜市
25b 高島郡安曇川町
25c 神崎郡能登川町
25d 大津市
25e 甲賀郡甲賀町
京都府
26a 中郡峰山町
26b 舞鶴市
26c 船井郡丹波町
26d 京都市
26e 相楽郡山城町
大阪府
27a 高槻市
27b 大阪市
27c 八尾市
27d 河内長野市
27e 泉佐野市
兵庫県
28a 豊岡市
28b 朝来郡生野町
28c 神戸市
28d 相生市
28e 洲本市
奈良県
29a 大和郡山市
29b 宇陀郡榛原町
29c 五條市
29d 吉野郡下北山村
29e 吉野郡十津川村
和歌山県
30a 那賀郡岩出町・打田町・桃山町
30b 和歌山市
30c 御坊市
30d 田辺市
30e 新宮市

鳥取県
31a 鳥取市
31b 米子市
31c 日野郡日野町
島根県
32a 仁多郡仁多町
岡山県
33a 勝田郡勝央町
33b 新見市
33c 岡山市
33d 小田郡矢掛町
33e 笠岡市
広島県
34a 三次市
34b 府中市
34c 広島市
34d 因島市
34e 安芸郡倉橋町
山口県
35a 萩市
35b 大島郡大島町
35c 徳山市
35d 美祢市
35e 豊浦郡豊北町
徳島県
36a 鳴門市
36b 阿南市
36c 美馬郡脇町
36d 海部郡海南町
36e 三好郡東祖谷山村
香川県
37a 小豆郡土庄町
37b 木田郡三木町
37c 丸亀市
37d 仲多度郡多度津町
37e 観音寺市
愛媛県
38a 越智郡大三島町
38b 西条市
38c 松山市
38d 大洲市
38e 宇和島市
高知県
39a 室戸市
39b 高知市
39c 高岡郡檮原町
39d 幡多郡三原村
福岡県
40a 北九州市
40b 遠賀郡芦屋町
40c 築上郡新吉富村
40d 飯塚市
40e 嘉穂郡稲築町
40f 福岡市
40g 八女市
佐賀県
41a 東松浦郡鎮西町
41b 鳥栖市
41c 佐賀市
41d 武雄市

長崎県
42a 壱岐郡芦辺町
42b 平戸市
42c 長崎市
42d 南松浦郡奈良尾町
熊本県
43a 阿蘇郡阿蘇町
43b 熊本市
43c 球磨郡錦町
43d 天草郡天草町
大分県
44a 東国東郡国東町
44b 宇佐市
44c 大分郡挾間町
44d 佐伯市
44e 日田郡前津江村
宮崎県
45a 延岡市
45b 東臼杵郡椎葉村
45c 宮崎市
45d 北諸県郡山田町
45e 日南市
鹿児島県
46a 出水市
46b 揖宿郡頴娃町
46c 熊毛郡上屋久町
46d 大島郡龍郷町
沖縄県
47a 国頭郡今帰仁村
47b 那覇市
47c 平良市
47d 石垣市
47e 八重山郡与那国町



(2001.10.01作成)

各地方言収集緊急調査補助全体計画

56.7.29.

1．年次計画

年度 計画	52	53	54	55	56	57	58	59	60	備考
第1次	8	8	8							
第2次		8	8	8						
第3次			6	6	6					
第4次				8	8	8				
第5次					10	10	10			
第6次						3	3	3		
第7次							4	4	4	
実施県数	8	16	22	22	24	21	17	7	4	
(千円) 予算額	6,000	12,210	18,150	18,150	18,000	15,750	12,750	5,250	3,000	

2．調査県一覧

第1次 (S.52～54)	第2次 (S.53～55)	第3次 (S.54～56)	第4次 (S.55～57)	第5次 (S.56～58)	第6次 (S.57～59)	第7次 (S.58～60)
宮城	北海道	青森	岩手	福島	茨城	群馬
秋田	山梨	栃木	山形	埼玉	福井	神奈川
千葉	長野	東京	新潟	富山	鳥取	京都
石川	山口	岐阜	奈良	愛知		兵庫
大阪	香川	静岡	島根	三重		
広島	佐賀	岡山	福岡	滋賀		
高知	大分		長崎	和歌山		
鹿児島	沖縄		熊本	徳島		
				愛媛		
				宮崎		
8県	8県	6県	8県	10県	3県	4県

各地方言収集緊急調査費国庫補助要項

昭和54年５月１日
文化庁長官裁定
（昭和62年６月１日廃止）

１．趣旨

全国的に急速に変化し，失われつつある各地の方言を各都道府県において，緊急に調査し，これを記録・保存するために要する経費について国が行う補助に関し，必要な事項を定めるものとする。

２．補助事業者

補助事業者は，都道府県とする。

３．補助対象事業

補助対象となる事業は，当該都道府県内における各地の方言を調査（録音採集・文字化）する事業とする。

４．補助対象経費

補助対象となる経費は，次に掲げる経費とし，その明細は別紙のとおりとする。

主たる事業費

調査経費

５．補助金の額

補助金の額は，補助対象経費の２分の１以内の定額とし，750千円を最高限度額とする。ただし，沖縄県については，別途協議して定めるものとする。

（別紙）

名称	対象経費の区分		項	目	目の細分	説　明
各地方言収集緊急調査事業	主たる事業費	調査経費	各地方言収集調査	報償費	○○謝金	調査員，調査補助員等謝金
					○○文字化謝金	
					○○協力謝金	資料
				旅費	普通旅費	
					費用弁償	
					特別旅費	
				需用費	消耗品費	野帳等文具，録音用テープ
					印刷製本費	調査報告用紙
					会議費	企画委員会打合会
				役務費	通信運搬費	郵便，電信電話料等
				使用料及び賃借料	会場借上料	
					器具借上料	
				委託料	○○委託費	事業の一部を委託して実施する場合（特に認められた場合に限る）

各地方言収集緊急調査実施要領

昭和52年７月28日
文化庁次長決裁

「各地方言収集緊急調査補助金」の運用に当たっては，文化庁文化財補助金交付規則及び各地方言収集緊急調査補助要項に定めるもののほか，この実施要領によるものとする。

１．地点の選定

文化庁及び地元方言研究者の意見を聴いて各都道府県（以下「県」という。）教育委員会が選定するものとする。

方言区画的にいくつかの区域に分かれる県においては，県下の方言の状況が概観できるように，それぞれの区域から収録地点を公平に選ばなければならない。また，離島など，特色の認められる方言は，可能な限り収録するよう努めなければならない。

２．録音内容・話者

ア　老年層話者による会話

収録内容――次の３種類の対話又は会話を収録する。

(1)　老年層の男女各１人による対話，又は，男女を含む３人の会話

(2)　老年層の男性２人の対話，又は，老年層の男性３人の会話

(3)　老年層の女性２人の対話，又は，老年層の女性３人の会話

話者の年齢など――原則として，収録時において60歳以上とし，やむを得ないときは55歳以上でもよい。発音その他の障害がなければ高齢者でも差し支えないが話者相互の年齢が離れすぎてはいけない。また，話者相互の立場等もほぼ対等であることを原則とする。

話者の居住歴――その土地で生まれ育ち，よその土地に住んだことのない，あるいは，その期間が短い（在外期間は３年以内が望ましい。）人とする。よその土地から嫁入り，婿入りした人は採らない。ただし，女性については，他に適当な人が求められないときは，近隣地域から嫁入りした人でも，収録地点との間に大きな方言のちがいが認められない場合は差し支えない。

司会者――主たる話者のほかに，話の引き出し役としての司会者が必要である。司会者は，あらかじめ地域・話者に見合った適切な話題を用意し，会話の円滑な進行に努める。司会者の性・年齢は問わない。

話題――自由。一般的には，「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどものころの遊び」「仕事（土地の生業・出かせぎなど。）」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」などが考えられる。

イ　老年層と若年層との会話

収録内容――老年層の男性と若年層の男性との対話，又は，両者を含む３人の話者の会話を収録する。

話者の年齢など――老年層については前項アに準ずる。若年層については，原則として

20～30歳代とする。話者相互の立場などはほぼ対等であることが望ましい。

話者の居住歴――老若ともアに準ずる。

ウ　目上の者と目下の者の会話

収録内容――目上，目下の関係にある老年層の男性２人による対話を収録する。対話の具体的な人物像として，たとえば，僧侶対その檀家に当たる人物，その土地出身の教員又は元教員（校長又は元校長等）対教え子又はその土地の一般的職業（農業，漁業等）に従事している人物（父兄）等が考えられる。

話者の年齢――目上，目下とも60歳以上を原則とする。

話者の居住歴――原則として前項アに準ずる。ただし，目上に当たる者については，在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあるので，アの条件（在外歴３年以内）から若干逸脱してもやむを得ない。

エ　場面設定の会話

目的と方法――自然会話では得にくい各種の表現を得ることを目的として，特定場面を設定し，話者に「演技的対話」をさせる。

場面の内容――各種のあいさつ（訪問・辞去・道でのあいさつ・出産・婚礼・葬式）や依頼・指示・助言・買物・勧誘等の各種場面を設定する。具体的には，文化庁と各県教育委員会が協議して全国共通の数場面を設定し，各場面の録音量は，１～３分程度とする。

話者――場面に応じて老年層の男性どうしの対話，老年層の男性対同女性の対話等を行う。

オ　民話

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。

3．録音機・録音技術

必ず，ステレオで録音することとし，テープは，オープン，カセットのいずれでもよい。この調査は，自然な方言会話を良い録音で収録し，それを後世に残すことが主要な目的であるからその点について十分配慮しなければならない。

録音機の操作は，録音技術に習熟した者が行い，会話の進行中は収録に専念しなければならない。なお，良質の録音を得るための基本的な留意点は次のとおりである。

①　雑音の少ない静かな部屋で録音する。足音，とびらの開閉音，机などへの衝撃音（湯飲みを置く音など），紙をめくる音などは意外に大きな雑音として録音されるので注意すること。

②　内蔵マイクを使用すると良質の録音が得られないので，必ず外部マイクを接続すること。外部マイクは録音機本体から30cm以上離して配置すること。

③　マイクはなるべく話者の近くに配置し，どの話者の音声も十分な音量で録音できるよう配慮する。話者によって声の大きさにかなりの差があることが多いので，この点に注意してマイクを配置すべきである。

録音の際には，音量メーターの針が十分に振れるよう注意すること。

④　テープを入れ替える際の無録音状態を避けるため録音機は２台使用すること。

⑤　カセットテープは短いもの（往復90分もの又は60分もの）を使用すること。

4．文字化原稿の作成・表記

文字化用紙は文化庁が定めた様式のものを使用すること。

表記は原則としてカタカナ書きとし，方言の音声的特徴をある程度表しうるよう工夫する。ただし，文字化担当者が国際音声符号又は音素符号を用いた方が便利であると判断した場合はその表記でもよい。文字化の際には，共通語訳を付けるとともに場面，文脈，特徴的音声，方言形の語義・用法などについての注釈をも付ける。

5．収録地点の概観，話者の経歴・録音内容の記録

収録地点の位置・交通，地勢・行政区画（旧藩領を含む）の変動・戸数・人口・主な産業などを記録する。

また，話者の経歴，録音内容などについては，「録音内容記録票」に録音のつど記入する。

各地方言収集緊急調査の実施について

54.5.10.

1．調査（方言収録）の年次計画（（　）は実施要領・文字化の時間数）

○　第１年次

①　老年層の男女各１人による対話，又は，男女を含む３人の会話（アの(1)・２時間）

②　老年層の男性２人の対話，又は，老年層の男性３人の会話　（アの(2)・１時間）

○　第２年次

①　目上の者と目下の者の会話（ウ・２時間）

②　老年層の女性２人の対話，又は，老年層の女性３人の会話　（アの(3)・１時間）

○　第３年次

①　老年層と若年層との会話（イ・１時間）

②　場面設定の会話（エ・１時間）

③　民話（オ・１時間）

(注)　３年次の「③　民話」の収録不能のときは，２年次の「目上の者と目下の者の会話」の女性２人の会話を収録

2．調査報告書の提出部数

(1)　録音テープ

・正……収録した生のテープ　１部

・副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。）　２部

(2)　文字化原稿

・正……手書き原稿　１部

・副……正のコピー　２部

3．調査報告書の様式等

(1)　録音テープの記録票

NO. 正

○　○　県　　—○

(副)

各地方言収集緊急調査録音記録票

補助要項の記号

1　採録地点＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2　採録年月日＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3　話題・時間　A面＿＿＿＿＿＿＿＿（　　）分

B面＿＿＿＿＿＿＿＿（　　）分

4　話者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

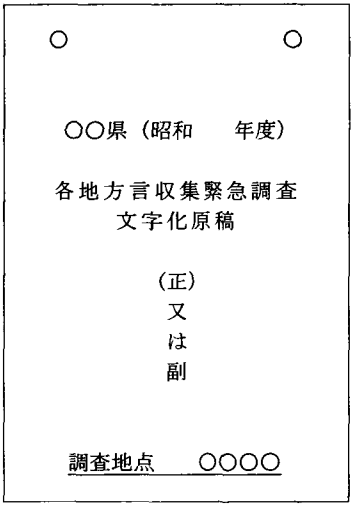
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

5　採録機種＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

テープのケース箱に張り付けるようにしてください。

⑵　文字化原稿の表紙

文字化原稿は，各調査地点ごとに，⑴ 録音内容記録票，⑵ 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ），⑶ 録音文字化原稿の順で表紙（Ｂ４板目紙）を付けて綴ってください。



⑶　文字化原稿の用紙

①　録音内容記録票
②　方言資料割付用紙
③　方言調査解説用紙

（別紙のとおり）

調査実施上の留意事項について

1　調査（方言収録）の年次計画

年次	調査の内容（記号は実施要領による）	採録時間	解説・文字化時間
1年次	①　老年層の男女各1人による対話，又は，男女を含む3人の会話（ア— (1)） ②　老年層の男性2人の対話，又は，老年層の男性3人の会話（ア— (2)）	10	2 1
2年次	①　目上の者と目下の者の会話（男性2人）（ウ） ②　老年層の女性2人の対話，又は，老年層の女性3人の会話（ア— (3)）	10	2 1
3年次	①　老年層と若年層との会話（イ） ②　場面設定の会話（エ） ③　民話（オ） （民話が収録できないときは，（注）参照。））	10	1 1 1
計		30	9

（注）

民話の適当な語り手が存在しない場合などのため，収録が不可能な地点は，老年層の男性（目上）と老年層の女性（目下）の2人の対話を収録する。その際の話題は自由であるが，長上者に対する女性の丁寧な表現が収録できるよう配慮していただきたい。

2　調査報告書の提出部数

(1)　録音テープ

正……収録した生のテープ　1部

副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。）2部

(2)　文字化原稿

正……手書き原稿　1部

副……正のコピー　2部

3　調査報告書の様式等

(1)　録音テープの記録票

NO. 正

○　○　県　　－○

(副)

各地方言収集緊急調査録音記録票

補助要項の記号

1　採録地点

2　採録年月日

3　話題・時間　A面　　(　　) 分

B面　　(　　) 分

4　話者

5　採録機種

テープのケース箱に張り付けるようにしてください。

(2)　文字化原稿の表紙

文字化原稿は，各調査地点ごとに，(1) 録音内容記録票，(2) 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ），(3) 録音文字化原稿の順で表紙（B４板目紙）を付けて綴ってください。

○　　○

○○県（昭和　　年度）

各地方言収集緊急調査
文字化原稿

（正）
又
は
副

調査地点　○○○○

(3) 文字化原稿の用紙

① 録音内容記録票
② 方言資料割付用紙
③ 方言調査解説用紙
} 別紙のとおり

(用紙の印刷発注については，国語課でまとめて行いますので必要部数を御連絡ください。)

4 文字化原稿の記入について（国語研・言語変化研究部でまとめたもの）

(1) 原稿用紙には，「方言資料割付用紙」と「方言資料解説用紙」の２種類があり，「割付用紙」には録音内容の文字化と標準語訳を，「解説用紙」には収録地点の概観，収録方言の特色，表記法についての説明，文字化内容についての注記などを記入する。

(2) 原稿用紙への記入は黒インキを用いる。(青インキは不可。)

割付用紙への記入

① 割付用紙の第１ページには，タイトル（録音内容を代表するようなもの），話し手の略号・氏名・性・生年を記入し，一段あけて，録音内容の文字化・標準語訳を記入する。(記入例参照)

② 割付用紙の左端の[ ]には話し手の略号を記入する。

③ カウンターつきの録音機を使用した場合は，その番号を要所要所に鉛筆で薄く記入しておいていただきたい。

④ 文字化の表記について

ア 文字化は文節単位の分かち書きとし，各センテンスの末尾に句点「。」「，」を打つ。読点は文字化部分には原則として付けない。なお，談話文における文の認定は方法論的に多くの問題があるが，あくまで便宜的なものとしておく。

イ 改行は話し手が交替した部分で行う。

ウ 文字化は原則として表音的カタカナ表記による。これは，利用者の便宜，文字化作業の能率などを考慮してのことである。ただし，対象とする方言の性格によって，カナ表記では特殊な字母を多数必要とし，かえって煩雑になると判断される場合は，国際音声字母による表記を用いてもよい。徹底した音韻（音素）表記は採らない。これは，音韻レベルの表記では捨象されることのある特徴的な方言音声や，自然会話にしばしば現われる無造作な発音，また，標準語的な発音の混入などを，解釈を加えずに，音声学的に記述しようとする意図による。なお，カナはあくまでも簡略音声表記として使用するわけであるから，それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲については，解説（表記法の項）で説明しておいていただきたい。

エ 長音，鼻音，あるいは特徴的な方言音声をカタカナによって表わす場合，原則として次の方式によってほしい。

(ア) 長音には「ー」の印を用いる。

例 オハヨー

(イ)ガ行鼻音は，カ゜ キ゜ ク゜ …のように表わす。

例 カカ゜ミ [kaŋami] (鏡)

（ウ） 鼻音化には「ˆ」（上つき小字のン）を用いる。

例 マˆド［ma˜do］（窓）

カˆゴ［ka˜go］（籠） —高知方言など—

（エ） 合拗音の［kwa］［gwa］はクヮ，グヮのように表わす。

例 クヮジ［kwaʒi］（火事） —九州方言など—

（オ） ［ʃe］［dʒe］はシェ，ジェのように表わす。

例 シェナカ［ʃenaka］（背中） —九州方言など—

（カ） ［ti］［di］はティ，ディ，［tu］［du］はトゥ，ドゥのように表わす。

例 トゥキ［tuki］（月） —高知方言など—

（キ） ［Φa］［Φi］［Φe］…はファ，フィ，フェのように表わす。

例 フェンビ［Φe˜bi］（蛇） —奥羽方言など—

（ク） ［je］の音はイェで表わす。

例 イェダ［jeda］（枝） —九州方言など—

（ケ） ［æ］［kæ］［sæ］…はアェ，カェ，サェのように表す。

例 アカェー［akæ:］（赤い） —岡山方言など—

（コ） ［ɛ］［kɛ］［sɛ］…はエァ，ケァ，セァのように表わす。

例 アゲァ［agɛ］（赤い） —奥羽方言など—

上に示した以外の特殊な音声の表記は報告者が適宜くふうするか，あるいは，一般的な字母を使用しておき，そのつど注記欄で説明する。

例 キモノ(注)→注［kçimono］

オ アクセント，文末イントネーションの記述の有無は，その表記法を含め，担当者にまかせる。

カ 発音や録音が不明瞭なため聴き取りが困難な箇所には＿＿線を付けておく。

例 カステクレァー

キ 幾様にも聞こえる場合には仮にそのうちのひとつを＿＿線付きで記述し，他の「聞こえ」を記述欄に記す。

例 カステクレァー(注)→注「カステケロエ」または
「カステケロヤ」とも聞こえる。

ク 聴き取りが困難な箇所はなるべく話者や現地協力者にあたって確かめる。ただし，最終的には文字化担当者がそのように聞こえると判定した結果を記述する。話者などが主張する（意識する）発言内容と録音された音声の「聞こえ」とが一致しない，すなわち，話者が主張するようにはどうしても聴き取れない場合もありうるが，このような場合には，文字化担当者に「聞こえる音声」を＿＿線付きで記述し，話者などが主張する内容は注記欄に記す。

例 ボカー(注)→注 話者は「ボクワ」と言っていると主張。

ケ 最終的に聴き取り不能の箇所には，＿＿線のみを記しておく。

⑤ 言いよどみ，言いかさなり，言いなおし，笑い声など。

ア 言いよどみは，その末尾に…線を付ける。

例 オフロ サキカ。 タベルノ サキ…。

イ 発言の途中で他の者が口をはさんだ場合には，次のように（ ）を利用し，発言

が重複する部分に＿＿線を付ける。

例　A　ヒルママデ　マズ　スコ゜トモ　オエッカラッテ

（B　ンダケンド　オレァー）　アト　スク゜イ　モッテクッカラ

ウ　重複部分が長い場合や，一人の発言が終わらないうちに他の者が話しはじめたような場合には，改行して，重複部分に＿＿線を付ける。

例　A　アー　バサマ　オチャ　ダシェ　マズ。　チョイット

ナカ゜ス　キター。

B　イヤ　イソカ゜スィンダテ　キョーノー。

エ　言いかけて，それを言いなおした場合には，言いかけた部分に×××××を付ける。

例　アノー　ワズカナ　ゴ　ゴジュー

××　××××××

ゴジューエングラェージャッタカナー。

オ　笑い声などは文字化本文中に（　）に入れて記す。

例　ウレシーナー　（笑）

⑥　標準語訳は漢字平がなまじりの表記とし，それぞれの文節に対応する逐語訳を心がける。逐語訳であるために全体の文脈がつかみがたいと判断される場合には，注記欄でさらに説明する。文末詞や待遇表現などは訳のつけかたがむずかしいが，標準語訳はあくまでも内容理解の手がかりと考え，訳しかたが問題となるような箇所については，なるべく詳しい注記を付けるよう心がける。

⑦　注記について

ア　「割付用紙」には注記番号のみを（　）に入れて記し，注記内容は「解説用紙」に記入する。

イ　注記は，音声的特徴，基本的な語形（無造作な発音により語形が崩れている場合など），方言形の意味・用法・語源，民俗的事象（話題にのぼった民具・行事など），文脈のねじれ，標準語訳についての補足，話し手の動作（うなずき・手ぶりなど）などについて行う。とくに，方言形の意味・用法については，できるだけ多くの箇所に注を付けてほしい。

解説用紙への記入

解説用紙には次の事項を記入する。

A　収録地点とその方言について

1　地点名

2　収録地点の概観（位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など）

3　収録した方言の特色

①　方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

②　音韻上の特色（モーラ表・音声的特徴）

③　文法上の特色（要点のみ。箇条書き）

4　その他（地点選定の理由，協力者の氏名，協力内容など）

B　表記について

それぞれの符号（カナ・音声符号）で表わす具体音声の範囲，特殊な表記についての

説明，判断に迷った微妙な音声の処理原則など。

C　収録内容の概説，注記など

1　タイトル（「割付用紙」の冒頭に記したもの）

2　録音年月日

3　録音場所

4　話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴（方言保有度・話し好きかどうか・早口か等）など。（話し手の性・生年は割付用紙にも記入）

5　録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

なお，A，B，Cはそれぞれページを改めて記入する。Cはタイトルが変わる際に改ページを行う。

「全国方言談話データベース」について

「各地方言収集緊急調査」報告資料は，方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに，急速に失われつつある各地の伝統的方言を，文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものである。

いくつかの教育委員会が，この資料の一部を用いて，独自に報告書を刊行している。ただし，市販されているわけではないので，一般には入手しにくい。また，その形態は印刷物であり，電子化された文字化テキストを備えたものはない。録音テープを添付しているものも少数である。その他の資料については，未公開であった。

その後，「各地方言収集緊急調査」報告資料は，文化庁から国立国語研究所に移管された。国立国語研究所では，受け継いだ録音テープ・文字化原稿を有効に利用するために，膨大な報告資料を整備して，方言談話の大規模なデータベースを作成し，公開するという計画を開始した。

平成８(1996)～12(2000)年度には，一般研究課題「方言録音文字化資料に関する研究」において，報告資料の一部を用いたケーススタディ的研究を行った。担当研究室は，情報資料研究部第二研究室（当時），担当者は，井上文子であった。所外研究委員として，真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科，元国立国語研究所）に委嘱を行った。

平成13(2001)年度からは，「日本語情報資源の形成と共有のための基盤研究」というプロジェクトの一環として，全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んでいる。担当部門・領域は，情報資料部門第二領域，担当者は，井上文子（情報資料部門第一領域）である。所外研究委員として，佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部，元国立国語研究所），江川清氏（広島国際大学人間環境学部，元国立国語研究所），田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部），真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科，元国立国語研究所）に委嘱を行っている。

その一方で，平成９(1997)～13(2001)年度には，作成データベース名「全国方言談話資料データベース」，作成委員会名「全国方言談話資料データベース」作成委員会として，また，平成14(2002)年度には，作成データベース名「全国方言談話データベース」，作成委員会名「全国方言談話データベース」作成委員

会として，科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けて，音声資料，文字化資料を電子化する作業を進めてきた。作成委員長は，佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部，元国立国語研究所）であり，「各地方言収集緊急調査」当時，国立国語研究所言語変化研究部第一研究室長として，調査の計画段階から指導・助言にあたり，調査および報告資料の全体像を把握している。作成委員としては，江川清氏（広島国際大学人間環境学部，元国立国語研究所），田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部），井上文子（国立国語研究所情報資料部門第一領域）が担当している。平成13(2001)年度には，「全国方言談話データベース」の公開を開始した。

なお，このデータベースの作成事業で受けた，科学研究費研究成果公開促進費（データベース）は下記のとおりである。

年度	課題番号	補助金交付額
平成９年度	57	1,800,000円
平成10年度	64	1,800,000円
平成11年度	501027	1,800,000円
平成12年度	128032	2,800,000円
平成13年度	138031	4,600,000円
平成14年度	148034	5,200,000円

「各地方言収集緊急調査」報告資料については，日本全国の47都道府県でそれぞれ５地点程度，計200地点あまりにおける，約4000時間にも及ぶ方言談話の録音テープと，その一部を文字化した原稿が残されている。昭和52(1977)～60(1985)年度当時の老年層話者の自然談話が中心であるので，現在においては急速に失われつつある伝統的方言が比較的よく残されているものであると考えられる。

これらの報告資料をすべてデータベース化するのが理想ではあるが，膨大な資料を一気にデータベース化するのは困難であるので，段階的に公開を行うことにする。

今回刊行する『全国方言談話データベース』では，まず，第一段階として，各都道府県につき１地点，計47地点の老年層男女の自然会話を選び，その地の

伝統的方言がもっともよく現れていると思われる部分を30～50分程度データベース化した。

データベース化のためには，次のような作業が必要であった。

①録音テープには，正が１本，副が２本ある。正は収録したオリジナルのテープ，副は正より文字化部分のみを編集したもので，いずれも60分または90分のカセットテープである。正をデジタル化し，複製を作成する。

②文字化原稿には，正が１部，副が２部ある。正は，文化庁指定のＢ４判の用紙を使用した手書き，副は正のコピーである。正の文字化，共通語訳をパソコンにテキストデータとして入力する。この時点では，できる限り正の文字化原稿に忠実に行う。

③文字化原稿の収録地点，話者，収録内容，状況記録などの確認をし，その文字化原稿に対応する録音テープの録音状態などの確認を行う。

④今回刊行するものでは，老年層男女の自然談話のうち，各都道府県につき１地点30～50分をめやすとして，データベース化部分に選定する。

⑤データベース化する部分の文字化テキストと，それに対応するデジタル録音音声を抽出する。

⑥音声データをもとに，文字データの明らかな誤りなどを修正する。原則としては，原資料の文字化原稿に従って行うが，見やすさを優先させたり，全体の統一を図ったりするため，必要に応じて変更を加える。この作業は，その地域の方言を専門とする研究者に依頼する。

⑦記号の種類と使い方，句読点，分かち書きなどについて，凡例を作成する。『全国方言談話データベース』における表記・形式は，見やすさや全体の統一のため，必要に応じて変更を加えているので，「各地方言収集緊急調査」当時のマニュアルに記載されているものとは部分的に違いが生じている。

⑧文字化データに沿う形で，注記を整える。原則としては原資料に従って行うが，場合に応じて最低限の変更を加える。

⑨収録地点の概観，方言の特色などの解説については，原則としては原資料に従って行うが，全体の統一を図るため，表記・章立てなどについて，最低限の変更を加える。

⑩調査の概要，収録した談話内容・地点・場所・日時などの情報，話者の性別・

年齢・職業などの情報をまとめる。

⑪校正を行った文字データをもとに，文字化と共通語訳を２段組に対照させたファイルを作成する。さらに，それを pdf ファイルにする。

⑫文字化と共通語訳を２段組に対照させたファイルを用いて，文字化の text ファイル，共通語訳の text ファイルを作成する。

⑬音声データは，デジタル化した後，サンプリングレート，音声ファイル形式などの調整を行い，音声 wave ファイルを作成する。そして，それを文字化と共通語訳を２段組に対照させたページに従って，ページ単位に切り，文字化・共通語訳の pdf ファイルにリンクさせる。

⑭CD-ROM は，データベースソフトを利用して，文字化・共通語訳の文字列による検索，話者による検索などができるようにする。

⑮CD には，トラックに区切った談話全体の音声を収録する。

⑯録音テープ・文字化原稿が所在不明の地点については，必要に応じて，現地に赴き，収録担当者・教育委員会・図書館・関係者の協力を仰ぎながら，入手に努める。

⑰「各地方言収集緊急調査」の話者・収録担当者・文字化担当者・解説担当者などには，可能な限り，文書でデータ公開の通知と確認を行う。

⑱作成過程において，ある程度のデータが蓄積された段階で，CD-ROM，または，音声はカセットテープ・MD，文字は FD を媒体とした試作版を作成し，モニターに依頼して意見・要望を求め，データベースに反映させる。

⑲検索情報の整備，検索マニュアル，利用規程などの作成を行う。

『全国方言談話データベース』全20巻の各巻は，冊子，CD-ROM，CD から成り，方言談話の音声（wave ファイル），文字化（カタカナ表記，text ファイル），共通語訳（漢字かなまじり表記，text ファイル），文字化・共通語訳を2段組に対照させたもの（冊子，pdf）などを収録している。従来にはあまりなかった，音声，文字化，共通語訳の電子化データを備えているので，研究や教育のために加工して，自由に検索することができるという特徴がある。

刊行にあたっては，国立国語研究所における『全国方言談話データベース』刊行物検討委員会で最終的なチェックを行った。委員長として，熊谷康雄（情

報資料部門），委員として，熊谷智子（研究開発部門第二領域），三井はるみ（研究開発部門第二領域），井上優（日本語教育部門第一領域），井上文子（情報資料部門第一領域）が担当した。

なお，刊行計画は下記のとおりとなっている。

書名：『国立国語研究所資料集 13-1～20 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』全20巻

各巻：冊子1冊 A5判 約200ページ，CD-ROM1枚，CD1枚

巻数	巻名	ISBN	刊行順
第1巻	北海道・青森	4-336-04361-2	15
第2巻	岩手・秋田	4-336-04362-0	16
第3巻	宮城・山形・福島	4-336-04363-9	17
第4巻	茨城・栃木	4-336-04364-7	4
第5巻	埼玉・千葉	4-336-04365-5	5
第6巻	東京・神奈川	4-336-04366-3	6
第7巻	群馬・新潟	4-336-04367-1	7
第8巻	長野・山梨・静岡	4-336-04368-X	12
第9巻	岐阜・愛知・三重	4-336-04369-8	13
第10巻	富山・石川・福井	4-336-04370-1	14
第11巻	京都・滋賀	4-336-04371-X	1
第12巻	奈良・和歌山	4-336-04372-8	2
第13巻	大阪・兵庫	4-336-04373-6	3
第14巻	鳥取・島根・岡山	4-336-04374-4	8
第15巻	広島・山口	4-336-04375-2	9
第16巻	香川・徳島	4-336-04376-0	10
第17巻	愛媛・高知	4-336-04377-9	11
第18巻	福岡・佐賀・大分	4-336-04378-7	18
第19巻	長崎・熊本・宮崎	4-336-04379-5	19
第20巻	鹿児島・沖縄	4-336-04380-9	20

国立国語研究所資料集13-7

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成
第7巻 群馬・新潟

2003年3月30日 発行

編集：国立国語研究所
〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
TEL：03-3900-3111（代表）
FAX：03-3906-3530（代表）
URL：http://www.kokken.go.jp

本書の市販品発行所

発行：国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL：03-5970-7421（代表）
FAX：03-5970-7427（営業）
URL：http://www.kokusho.co.jp

（平14-12）